高知県立大学
University of Kochi

社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第２３号
２０２１年
（2020年度自己点検評価資料）

高知県立大学社会福祉学部
〒781-8515　高知市池2751-1
Tel 088-847-8700（大学代表）
Tel 088-847-8757（学部代表）
Fax 088-847-8672（学部専用）
http://www.u-kochi.ac.jp/

教育目的・3つのポリシー

【教育研究上の目的】

福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を育成する。

（１）地域・家族のもつ福祉課題への対応能力の養成

ノーマライゼーションを基本的視点として、人権を基礎とする福祉理念を理解させる。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために、これまで地域や家族が補完しあいながら担ってきた機能を再編成し、これを支援していく能力の開発が求められている。こうした問題に対応できる専門的知識を身に付けさせる。

（２）社会福祉実践能力の養成

各種の福祉ニーズに対応できる専門的技能を修得し、科学的な根拠に基づく主体的な福祉援助を実践しうる能力を養う。

（３）保健・医療・福祉の効果的な連携をめざした社会福祉専門職の養成

高知県において急速に進行している少子・高齢化問題に対応するため、保健・医療・福祉の効果的な連携を図ることとし、そのために必要な専門的知識を有し、福祉援助を可能とする社会福祉専門職を養成する。

【ディプロマ・ポリシー】

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1　現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。

2　人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

（汎用的・実践的技能）

3　多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。

4　コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

（態度・志向性）

5　社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。

6　ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

（総合的な学習経験と創造的思考力）
7　個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
8　総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1　共通教養教育科目
（1）共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
（2）英語コミュニケーションは１、２年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
（3）可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2　専門教育科目
（カリキュラムの構造・教育内容）
専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために１１科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。
基礎段階では、１１科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだとこころの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

（履修方法・順序）
基礎段階の科目は、主に１～２年次に履修する。応用段階の科目は、主に２～３年次に履修する。発展段階の科目は、主に３～４年次に履修する。また、社会福祉領域における相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

（教育方法）
　各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識･技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

（評価）
　学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

【アドミッション・ポリシー】

　社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ､社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。
　したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

<u>求める学生像</u>
1　高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
2　人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
3　自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕
4　地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
5　他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

<u>入学者選抜の基本方針</u>
　社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜（県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）
　基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科･科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜（後期日程）
　基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己 PR 書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）
　学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜
　社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜
　日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

目　　次

Ⅰ．　2020年度を振り返る

１．　2020年度 社会福祉学部活動概括 ……1
２．　2020年度の評価と 2021 年度の活動方針 ……3
３．　2020年度 社会福祉学部の主要行事 ……5
４．　2020年度 社会福祉学部時間割 ……6

Ⅱ．　社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧（2020年度） ……8
１．杉原　俊二 ……10
２．田中　きよむ ……13
３．長澤　紀美子 ……17
４．西内　章 ……20
５．丸山　裕子 ……23
６．宮上　多加子 ……24
７．横井　輝夫 ……26
８．大松　重宏 ……28
９．鈴木　孝典 ……30
10．遠山　真世 ……32
11．西梅　幸治 ……34
12．福間　隆康 ……36
13．三好　弥生 ……38
14．加藤　由衣 ……40
15．河内　康文 ……42
16．辻　真美 ……44
17．行貞　伸二 ……46
18．稲垣　佳代 ……48
19．大熊　絵理菜 ……50
20．片岡　妙子 ……52
21．雑賀　正彦 ……54
22．田中　眞希 ……56
23．玉利　麻紀 ……58
24．福田　敏秀 ……60

Ⅲ．　社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧（2020年度） ･････････ 62
１．教務委員会 ･････････････････････････････ 63
２．入試委員会 ･････････････････････････････ 65
３．学生委員会 ･････････････････････････････ 67
４．実習委員会 ･････････････････････････････ 68
５．就職委員会 ･････････････････････････････ 70
６．広報委員会 ･････････････････････････････ 71
７．介護人材確保部会 ･････････････････････････ 72
８．キャリア支援委員会 ･････････････････････････ 81
９．健康長寿センター ･････････････････････････ 84
10．高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 ･････････････ 85
11．災害対策プロジェクト ･････････････････････ 88
12．総務・予算委員会 ･････････････････････････ 90
13．国試対策支援委員会 ･････････････････････････ 91

Ⅳ．　学生を中心とした活動

１．国家試験に向けての取り組み ･････････････････ 93
２．Ｐシスターズ ･････････････････････････････ 94
３．太鼓部 ･････････････････････････････････ 95
４．池手話サークル ･････････････････････････････ 96
５．イケあい ･････････････････････････････････ 97
６．かんきもん ･････････････････････････････････ 98
７．Society For Everyone ･････････････････････ 99
８．新型コロナウイルス感染症の影響 ･････････････････ 100

Ⅴ．卒業論文題目一覧（2020年度） ･････････････････ 101

編集後記

I

2020年度を振り返る

2020年度 社会福祉学部活動概括

学部長　宮 上　多 加 子

１．教員体制

・2020年度は、教員数24名で増減なし。また、遠山講師の昇任（4月1日付）により、職位構成は教授7名、准教授6名、講師4名、助教7名。
担当分野構成は福祉基礎4名、社会福祉10名、介護福祉6名、精神保健福祉4名。

２．教育

・ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づいた学修成果の評価指標を作成し、指標に対応させた学習到達度評価アンケートを一部修正して4回生に実施。これらのポリシーは、新年度の学部ガイダンス資料で周知。
・8月から10月にかけて3回生が相談援助実習を、7月から11月にかけて精神･社会福祉コースの4回生が精神保健福祉援助実習を行った。実習連絡協議会は、相談援助実習は次年度に延期した。精神保健福祉援助実習は、3月にZoomを活用して実施した。
・介護･社会福祉コース4回生が2019年度に実施した介護実習Ⅲの介護福祉事例研究報告会と実習連絡協議会は、Zoomを活用して7月に開催。2回生の介護実習Ⅱは8月から9月にかけて実施。1回生の介護実習Ⅰと3回生の介護実習Ⅲについては、12月予定分は中止し、残りを2月から開始して実施。
・４回生の卒業研究は、構想発表会は新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。10月には中間報告会をPower Pointによる口頭発表によって実施。12月18日締切りで論文提出、卒論発表会は感染予防のため対面形式での開催は中止し、MoodleにPower Point資料を一定期間アップする形式で実施。

３．研究

・研究成果としては著書1編（共著）、査読付論文16編、その他論文等16編、学会発表等11件。
・『高知県立大学紀要(社会福祉学部編)』第70巻に7編掲載。
・科学研究費は2020年度11件応募、4件採択で採択率36.4％、2021年度は6件応募。
・科研費等による研究は、研究代表者14件、研究分担者7件。

４．自己点検評価とファカルティ･デベロップメント（ＦＤ）

・自己点検評価資料として位置付けている「社会福祉学部報」第22号を作成・公表。
・研究・教育面での学部ＦＤ研修会を2回開催。

５．2019年度入学生と2020年度入学試験

・4月に第23期生78名(県内出身29名、男子11名、私費外国人2名)が入学。
・学校推薦型選抜では、県内枠への志願者が36名(+14)で志願倍率1.8倍、全国枠は23名(-9)で2.3倍。県内枠出願者は昨年度より増加、全国枠は減少。
・一般入試の志願者数は、前期日程でやや増加、後期日程は減少した。前期日程が175名(+11)で志願倍率5.0倍、合格倍率3.6倍、後期日程が103名(-32)で志願倍率20.6倍、合格倍率9.2倍。
・私費外国人入試に5名の応募があり、2名合格し入学者1名。社会人入試には応募者なし。

６．卒業生と就職状況

・3月に第20期生72名（男子13名）が卒業。
・4回生の学年担当と卒業研究を指導するゼミ担当教員が連携して就活を支援。
・就職希望者68名の内66名(97%)の就職が3月末までに決定。
・就職先・進路の内訳は、医療機関17名(24%)、福祉施設等24名(34%)、社会福祉協議会9名(13%)、公務員等10名(14%)、一般企業6名(8%)、進学3名(4%)。

７．３福祉士資格と国家試験

・国試対策支援委員会が４回生に国家試験に関するオリエンテーションや個別面談、日本ソーシャルワーク教育学校連盟の模擬試験を実施。
・例年実施している国試合宿勉強会は、COVID-19感染拡大のため中止。
・１月末に実施された第33回介護福祉士国家試験に17名が受験して17名が合格(合格率100.0%／平均71.0%)。2月初めに実施された第33回社会福祉士国家試験に68名受験して53名合格(合格率77.9%／平均29.3%)、第23回精神保健福祉士国家試験に15名受験して15名合格(合格率100.0%／平均64.2%)。
・新卒の合格率は、社会福祉士(受験者50人以上の福祉系大学等)が51校中4位、精神保健福祉士は92校中1位。

８．地域貢献活動・卒業生への支援

・Webオープンキャンパスとして社会福祉学部の紹介動画を作成し1,089回の再生。オンライン個別相談会を実施し、高校生等13名が参加。
・高知県との連携事業（補助金）として「高知県キャリア教育推進事業」を実施（すべてZoom開催)。8月9日（Webオープンキャンパス兼)、9月27日、11月8日、3月22日、に開催した「高校生と保護者のための公開講座」には合計289名参加。学部提案型出前講座を高知県内8校で実施し、参加者数は合計192名。
・「社会福祉学部リカレント教育講座」として3講座を11月から3月にかけてYouTube配信。
・「おうちで健康長寿体験型セミナー」と題したYouTube動画コンテンツを看護学部・健康栄養学部と協働して作成・配信。
・卒業生に対する支援として実施している領域別リカレント研究会は、継続的に3分野で実施し、Zoom等を活用してのべ60名が参加。

９．広報活動

・学部広報に活用する社会福祉学部のパンフレット2021版を作成。
・学部の入試広報担当者を中心に、高校生・高校教員・保護者等を対象とし11月～３月にかけてZoomによるオンライン個別相談会を計９回実施（１回につき３件、のべ27件分の相談枠を用意。実際に相談があったのは２件)。

10．国際交流活動

・長期留学（韓国・慶南科学技術大学校、台湾・文藻外語大学）に４回生が各１名、計2名留学を修了。
・韓国・慶南科学技術大学校から外国人研究員の受入（2020年3月～12月)。
・韓国・慶南科学技術大学校研究員と学部教員とのシンポジウム開催(2020年12月14日)。

2020年度の評価と2021年度の活動方針

自己点検評価委員会

① 学部教育の充実

2021 年度入学生より専門教育科目を一部変更したため、新カリキュラムに対応したカリキュラムマップや学習到達度評価を用いて、年度毎のカリキュラム移行と学生の履修をスムーズに進める必要がある。また、教育成果の質評価について、多角的に検討する必要がある。

対応：学部教務委員会および学年担当教員を中心に丁寧な履修指導を行う。学習到達度調査の結果や国家試験の合格率等を分析し、入学試験時の情報も加えて、課題を明確化し対策を立てる。また、卒業研究論文及び介護実習について、令和 2 年度に作成したルーブリックを用いた評価を実施する。

（令和 3 年度活動計画 No.3，5，6，7，8，13）

② 入試広報の充実

学校推薦型選抜（全国）および一般入試（後期日程）で志願者が減少した。

対応：県内への入試広報は、県からの委託事業を活用して継続して取り組む。2020 年度に企画したが実施できなかった中四国地域の高等学校を対象とした学部事業「出前授業」の方法について再度検討する。学部 HP の内容をより充実させる。

（令和 3 年度活動計画 No.52）

③ 入試改革への対応

対応：学校推薦型選抜において令和 3 年度入試より導入した新しい入試方法について評価し、改善点等を明確にする。共通テストを活用した一般選抜の結果を分析して、今後の入試改革に生かす。

④ 研究活動の活性化

学内公募の競争的研究資金への応募がなく、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあって 2020 年度の学部教員の研究論文や学会発表数が減少している。

対応：科研費等の外部資金獲得のため、学部内での研修会を実施し、若手教員への支援を引き続いて実施する。学内公募の競争的研究資金への応募に向けて、学部教員による研究体制を組織できるように支援する。学部長経費枠を活用して、学部教員と学外研究者との共同研究を支援する。研究テーマの発展と進化の方法について、教員相互の意見交換の機会を設ける。

（令和 3 年度活動計画 No.37，38，40）

⑤ 国際交流の活性化

2020 年度は、韓国（慶南科学技術大学校）および台湾（文藻外語大学）への長期留学や、韓国（慶南科学技術大学校）からの外国人研究員があったが、2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、留学等の予定がない。しかし、私費外国人留学生は継続して入学しており、海外留学への参加者の増加や国際的な共同研究への基盤づくりが課題である。

対応：2020 年度の研究員受け入れ実績を踏まえて、海外の大学との国際交流について、オ

ンライン方式も含めて実施方法を再検討し、学術交流の可能性を探る。学生の短期留学については、実施時期や方法について継続的に検討していく。留学生の受け入れを継続して進める。学生のグローバルな視点を涵養するために、学部専門教育科目の中で国際福祉に関する内容を増やす。

（令和 3 年度活動計画 No.4，37）

⑥ 卒業生へのキャリア支援

学部リカレント研究会事業を継続して実施し、卒業生へのスーパービジョンや専門知識獲得の場を提供したが、分野の拡大や参加者数の増加が課題である。

対応：地域・現場の重要課題としての福祉人材確保・定着・資質向上に向け、学部リカレント研究会の開催方法を工夫して継続的に実施する。また、2020 年度に実施した卒業生および職場の上司等を対象としたアンケート調査の結果をふまえて、卒業生の学習ニーズを確認し研修の場について引き続き検討する。

（令和 3 年度活動計画 No.5，39）

⑦ 福祉専門職に対する生涯教育の推進

学部事業として、福祉専門職および一般県民を対象としたリカレント教育講座等を継続して実施しているが、2020 年度は Web 配信となったことから、受講者に対する直接的な働きかけはできていない。福祉専門職を対象とした系統的なキャリア支援が可能となる方策について、さらに検討を加える必要がある。

対応：リカレント教育講座等の参加者や他大学および職能団体等からの情報収集をふまえて、（仮）研究研修会の組織化について、学部委員会を中心に具体的な検討を行う。

（令和 3 年度活動計画 No.41，43，51）

2020年度社会福祉学部の主要行事

4月	2日(木)	入学式中止（23期生78名）
	3日(金)	第1回連絡会・教授会
	3-6日(金-月)	学生ガイダンス
	6日(月)	第2回連絡会・教授会
	10日(金)	第3回連絡会・教授会
	20日(月)	前期授業開始（～8月14日）
	30日(木)	第4回連絡会・教授会
5月	29日(金)	第5回連絡会・教授会
6月	22日(月)	第6回連絡会・教授会
7月	6,13日(月)	介護福祉実習（介護実習Ⅰ）報告会
	7日(火)	第7回連絡会・教授会
	8日(水)	第8回連絡会・教授会
	27日(月)	第9回連絡会・教授会
8月	3日(月)	介護福祉実習連絡協議会／介護福祉実習（介護実習Ⅲ）報告会
	9日(日)	Web EVENT1：社会福祉の事を分かりやすく学べます（兼オープンキャンパス）
	10日(月)	第10回連絡会・教授会
	24日(月)	第11回連絡会・教授会
	24日(月)	第12回連絡会・教授会
9月	27日(日)	Web EVENT2：卒業生の働く現場から LIVE配信
	28日(月)	第13回連絡会・教授会
10月	1日(木)	後期授業開始（～2月18日）
	26日(月)	第14回連絡会・教授会
	28日(水)	卒業研究中間発表会
11月	2日(月)	第15回連絡会・教授会
	8日(日)	Web EVENT3：アカデミックに福祉介護を探求する
	9-30日(月-月)	リカレント教育講座 Web配信
	16日(月)	第16回連絡会・教授会
	26日(木)	第17回連絡会・教授会
	30日(月)	第18回連絡会・教授会
12月	23日(水)	第19回連絡会・教授会
1月	25日(月)	第20回連絡会・教授会
	31日(日)	第33回介護福祉士国家試験
2月	1日(月)	相談援助実習報告会
	6-7(土-日)	第33回社会福祉士国家試験･第23回精神保健福祉士国家試験
	8日(月)	第21回連絡会・教授会
	24日(水)	第22回連絡会・教授会
3月	4日(木)	第23回連絡会・教授会
	3/15-5/15	卒業研究発表会（Moodle公開）
	18日(木)	第24回連絡会・教授会
	19日(金)	卒業式(学内、20期70名卒業)／第25回連絡会・教授会
	22日(月)	第26回連絡会・教授会
	22日(月)	Web EVENT4：認知症を地域で支える
	26日(金)	第27回連絡会・教授会

令和2年度　社会福祉学部　時間割　＜前期＞

		1時限			2時限			3時限			4時限			5時限		
		8:50～10:20	教員	教室	10:30～12:00	教員	教室	13:00～14:30	教員	教室	14:40～16:10	教員	教室	16:20～17:50	教員	教室
月	1	英語コミⅡ基礎P	（別途記載）	遠隔授業	英語コミュニケーションIA	（別途記載）	遠隔授業	土佐の食と健康	廣内	遠隔授業						
	2	英語コミⅡ基礎P	（別途記載）	遠隔授業	英語コミュニケーションIA	（別途記載）	遠隔授業	（介護）介護総合演習Ⅱ	田中眞・片岡・河内・三好・辻	D221						
	3				相談援助演習Ⅲ	西内・大松 雑賀・福田・大熊	遠隔授業	相談援助演習Ⅲ	西内・大松 雑賀・福田・大熊	遠隔授業						
	4	医療的ケアⅡ	片岡・三好	F109	医療的ケアⅡ	片岡・三好	F109	医療的ケアⅡ	片岡・三好	F109	医療的ケアⅡ	片岡・三好	F109	医療的ケアⅡ	片岡・三好	F109
火	1	生活と社会福祉 （介護）介護の基本Ⅰ	大松 河内	遠隔授業 E102	（介護）介護の基本Ⅰ	河内	E102	現代社会と福祉Ⅰ	長澤	大講義室	コンピュータリテラシー（社福） 環境と健康と安全	名和 一色	遠隔授業 遠隔授業	コンピュータリテラシー（社福） 基礎化学	名和 一色	遠隔授業 遠隔授業
	2	相談援助演習Ⅰ	西梅・福間・遠山・加藤・福田	遠隔授業	（介護）介護過程Ⅱ	宮上	F110	（介護）生活支援技術Ⅲ	田中眞・片岡	F110	（介護）生活支援技術Ⅲ	田中眞・片岡	F110	（介護）生活支援技術Ⅲ	田中眞・片岡	F110
	3	精神保健学Ⅰ	横井	D221	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	丸山・鈴木孝・稲垣・玉利	E103ほか	（介護）発達と老化の理解Ⅱ	横井	D221	相談援助実習指導Ⅲ	西梅ほか	D221ほか			
	4	医療的ケアⅡ	片岡・三好	F109	社会福祉史 医療的ケアⅡ	行貞 片岡・三好	遠隔授業 F109	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 医療的ケアⅡ	丸山・鈴木孝・稲垣・玉利 片岡・三好	E206ほか F109	精神保健福祉援助演習 医療的ケアⅡ	丸山・鈴木孝・稲垣・玉利 片岡・三好	F206ほか F109	更生保護制度 医療的ケアⅡ	加藤誠 片岡・三好	大講義室 F109
水	1	健康スポーツ科学Ⅰ（社福） 健康スポーツ科学Ⅰ（社福）	清原 常行	遠隔授業 遠隔授業	社会保障論Ⅰ	田中き	遠隔授業	日本国憲法 心理学理論と心理的支援	岩倉 杉原・玉利	遠隔授業 大講義室	科学と人間 基礎生物学 （介護）生活支援技術Ⅰ	一色 荻沼 田中眞・辻	遠隔授業 遠隔授業 F110	（介護）生活支援技術Ⅰ	田中眞・辻	F110
	2	保健医療サービス	大松	遠隔授業	相談援助の理論と方法Ⅰ	加藤	大講義室	高齢者福祉論Ⅱ	三好・田中眞・雑賀	遠隔授業						
	3	虐待防止論	加藤・西内	遠隔授業	相談援助の理論と方法Ⅳ	西梅	遠隔授業	精神保健福祉援助技術各論	稲垣	F110	社会福祉専門演習Ⅰ	担当教員				
	4				権利擁護論	田中き・行貞	大講義室							社会福祉専門演習Ⅲ	担当教員	
木	1	英語コミⅡ基礎EW	（別途記載）	遠隔授業	英語コミュニケーションIA	（別途記載）	遠隔授業	基礎統計学 家族関係論	風間 池添ほか	遠隔授業 遠隔授業	社会福祉入門演習	行貞・辻・西梅・遠山	大講義室	福祉対象入門 福祉援助入門（*1）	福間 福間	大講義室 大講義室
	2	英語コミⅡ基礎EW	（別途記載）	遠隔授業	英語コミュニケーションIA	（別途記載）	遠隔授業	相談援助実習指導Ⅰ	西梅他	D221ほか	児童・家庭福祉論	加藤	遠隔授業			
	3	（介護）介護の基本Ⅲ	河内・片岡	E103	（介護）介護の基本Ⅲ 精神保健福祉論Ⅱ	河内・片岡 鈴木孝	E103 E102	（介護）障害の理解Ⅰ 介護技術	田中眞・横井 片岡	遠隔授業 F104	（介護）生活支援技術Ⅴ	三好	F110	ケアマネジメント論	雑賀	遠隔授業
	4				実践記録法	杉原	E204	就労支援サービス	稲垣・玉利	遠隔授業						
金	1				物理と自然法則	風間	遠隔授業	地域メディア論	竹下	遠隔授業	（介護）こころとからだのしくみⅠ	横井	E103			
	2				地域福祉論Ⅰ	福間	遠隔授業	（介護）介護の基本Ⅱ	田中眞・辻・横井	E103	（介護）認知症の理解Ⅰ	宮上・辻	F110			
	3	医療ソーシャルワーク論	大熊	遠隔授業	社会調査の基礎	遠山	遠隔授業	※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある	山﨑	E102	※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある	山﨑	E102	※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある	山﨑	E102
	4							介護総合演習Ⅳ	三好・河内・田中眞・片岡・辻	F110	国際福祉論	長澤	E204			

		科目名等	教員	開講月日
集中講義	前期	地域学実習I	一色・他	通年
		地域学実習II	一色・他	通年
		域学共生実習	一色・他	通年
		現代生活論	菊池	開講時期未定
		異文化理解海外フィールドワーク	五百藏	通年
		ケアプラン策定法	西内	別途連絡
		介護実習Ⅰ	田中眞・三好・辻・河内・片岡	通年（別途連絡）
		介護実習Ⅱ	田中眞・三好・辻・河内・片岡	通年（別途連絡）
		介護実習Ⅲ	田中眞・三好・辻・河内・片岡	通年（別途連絡）
		相談援助実習	西梅他	通年（別途連絡）
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	丸山・鈴木孝・稲垣・玉利	通年（別途連絡）
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	丸山・鈴木孝・稲垣・玉利	通年（別途連絡）
		精神医学Ⅰ	山﨑	別途連絡
		精神医学Ⅱ	山﨑	別途連絡

☆社会福祉専門演習Ⅰ（水曜4限）・Ⅲ（水曜5限）の授業方法について☆
各担当教員から連絡があります。

☆共通教養教育科目について☆
原則全科目を遠隔授業で実施するが、個別で一部対面授業を行う可能性があります。
その場合は、ポータルサイトから連絡します。

令和2年度　社会福祉学部　時間割　＜後期＞

		1時限			2時限			3時限			4時限			5時限		
		8:50～10:20	教員	教室	10:30～12:00	教員	教室	13:00～14:30	教員	教室	14:40～16:10	教員	教室	16:20～17:50	教員	教室
月	1	英語コミII応用P	（別途記載）	遠隔授業	英語コミュニケーションIB	（別途記載）	遠隔授業	土佐の自然と暮らし	一色・非常勤	遠隔授業				健康スポーツ科学Ⅱ（社福）	清原	遠隔授業
								土佐の経済とまちづくり	梶原・大井・小長谷・宇都宮	遠隔授業						
								(介護)生活支援技術Ⅱ	田中眞	F110	(介護)生活支援技術Ⅱ	田中眞	F110			
	2	英語コミII応用P	（別途記載）	遠隔授業	英語コミュニケーションIB	（別途記載）	遠隔授業	福祉研究法入門	丸山	大講義室						
	3				福祉行財政と福祉計画	田中き	73	ケアマネジメント演習	雑賀	E103						
	4															
火	1	人体の構造と機能及び疾病	奥谷・谷口	大講義室	現代社会と福祉Ⅱ	長澤	大講義室	平和論	神原	遠隔授業	自然災害と防災の科学	大村	遠隔授業	健康スポーツ科学Ⅱ（社福）	宮本	遠隔授業
		※12月から「相談援助の基盤と専門職（西内・西梅・加藤		78				地球の科学	一色	遠隔授業				社会調査基礎論	大井	遠隔授業
								社会理論と社会システム	玉里	78	相談援助の基盤と専門職	西内・西梅・加藤	大講義室			
	2	(介護)介護過程Ⅲ	三好	F110	（介護）発達と老化の理解Ⅰ	杉原	E102	地域福祉論Ⅱ	田中き	74	相談援助演習Ⅱ	西梅・福間・遠山・行貞・福田	D221・D222・E102・E103・E204	相談援助実習指導Ⅱ	西梅他	D222・E102・E103・E204・F110・F207
	3	コミュニティソーシャルワーク	雑賀	E102	（介護）介護総合演習Ⅲ	河内・田中眞・三好・片岡・辻	E103	面接技法	杉原	大講義室	（介護）介護過程Ⅳ	三好・片岡	A321	（介護）介護過程Ⅳ	三好・片岡	A321
					精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	丸山・鈴木孝・稲垣・玉利	F110・F207									
	4				子育て支援論	加藤	E204	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	丸山・鈴木孝・稲垣・玉利	F110・F207	精神保健福祉援助演習	丸山・鈴木孝・稲垣・玉利	F110・F207			
水	1	対人関係とメンタルヘルス	内川・玉利・福田	遠隔授業	社会保障論Ⅱ	田中き	78	情報リテラシー	風間	遠隔授業	基礎ジェンダー学	池谷	遠隔授業			
								栄養と健康	隅田	遠隔授業						
								人体の構造と機能及び疾病	谷口・奥谷	大講義室						
								※12月から「相談援助の基盤と専門職（西内・西梅・加藤		78						
	2	相談援助の理論と方法Ⅲ	加藤	大講義室	相談援助の理論と方法Ⅱ	西梅	E103	(介護)介護の基本Ⅱ	横井・片岡・辻	F110	(介護）生活支援技術Ⅳ	田中眞・関・荒牧	F110	(介護）生活支援技術Ⅳ	田中眞・関・荒牧	F110
	3	((介護）医療的ケアⅠ	片岡	F110	（介護）医療的ケアⅠ	片岡	F110	福祉サービスの組織と経営	福間	E102	社会福祉専門演習Ⅱ	担当教員	---			
		精神科リハビリテーション学	横井	D221	精神科リハビリテーション学	横井	D221									
	4				事例研究法	西内	9	チームアプローチ	雑賀・福田	E204				社会福祉専門演習Ⅳ	担当教員	---
木	1	英語コミⅡ応用EW	（別途記載）	遠隔授業	英語コミュニケーションIB	（別途記載）	遠隔授業	哲学	吉川	遠隔授業	倫理学	吉川	遠隔授業	情報処理概論	名和	遠隔授業
		日本語表現法	橋尾・向井	遠隔授業				心理学	福住	遠隔授業	現代人権論	田中康	遠隔授業	社会福祉基礎演習	辻・行貞・西梅・遠山	大講義室
								高齢者福祉論Ⅰ	福田	大講義室	(介護）こころとからだのしくみⅡ	横井	大講義室			
	2	英語コミⅡ応用EW	（別途記載）	遠隔授業	英語コミュニケーションIB	（別途記載）	遠隔授業	公的扶助論	田中き・行貞	74	精神保健福祉援助技術総論	丸山	E102			
		医療福祉論	大松	52												
	3							精神保健福祉援助技術各論	稲垣	E103	相談援助演習Ⅳ	西梅他	D221・D222・E103・E204 F110・F207	精神保健学Ⅱ	横井	E103
								(介護）障害の理解Ⅱ	河内	F110						
	4							スーパービジョン	西梅	E204						
金	1	(介護）介護総合演習Ⅰ	田中眞・片岡・河内・三好・辻	F110	(介護)コミュニケーション技術	河内・辻	E103	(介護)コミュニケーション技術	河内・辻(後半)	E103	(介護)介護過程Ⅰ	宮上	E103			
	2	＊生活支援技術Ⅳが入ることもある		17	＊生活支援技術Ⅳが入ることもある		17	(介護)認知症の理解Ⅱ	宮上・辻(前半)	F110	福祉NPO論	田中き	D221	障害者福祉論	遠山	大講義室
		精神保健福祉論Ⅰ	鈴木孝	E102	精神保健福祉論Ⅰ	鈴木孝	E102									
	3							※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある	山崎	E102	※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある	山崎	E102	※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある	山崎	E102
	4															

集中講義　後期

科目名等	教員	開講月日
異文化理解海外フィールドワーク	五百蔵	通年
地域学実習I	一色・他	通年
地域学実習II	一色・他	通年
域学共生実習	一色・他	通年
専門職連携論	西内・他	12月開講の予定
チーム形成論	山中・他	2月開講予定
地域学概論	宇都宮	別途連絡
女性福祉論	長澤	6 別途連絡
介護実習Ⅰ	田中眞・三好・辻・河内・片岡	通年（別途連絡）
介護実習Ⅱ	田中眞・三好・辻・河内・片岡	通年（別途連絡）
介護実習Ⅲ	田中眞・三好・辻・河内・片岡	通年（別途連絡）
医療的ケアⅡ	片岡・三好	17（月1～5、火1～5)通年（別途連絡）
相談援助実習	西梅他	73 通年（別途連絡）
精神医学Ⅰ	山崎	30 別途連絡
精神医学Ⅱ	山崎	30 別途連絡
精神保健福祉援助実習Ⅰ	丸山・鈴木孝・稲垣・玉利	18 通年（別途連絡）
精神保健福祉援助実習Ⅱ	丸山・鈴木孝・稲垣・玉利	18 通年（別途連絡）
地域福祉活動	田中き	14 別途連絡

[備考]

永国寺開講　火曜日　1限　生活と社会福祉（大熊）

池開講　　水曜日　2限　介護論（三好・辻）

看護学部開講科目

「医療的ケアⅡ」は、前期で終了している。

金曜日　2限　社会保障と看護（田中き）

（注）

火・1限、水・3限「相談援助の基盤と専門職」（78）は、10月から開始する「人体の構造と機能及び疾病」（85）（奥谷先生・谷口先生）終了後に開始する。

火・4限「相談援助演習Ⅱ」（74）は、5名の教員で小グループに分けて行う。

Ⅱ

社会福祉学部教員の教育研究活動
（教育研究活動報告書）

2020年度 社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧

職　位	氏　　名	学　　位	専　門　分　野
教　授	杉原　俊二	博　士（医　　学）	児童・家族福祉論／心理療法
教　授	田中　きよむ	修　士（経　済　学）	福祉行財政論
教　授	長澤　紀美子	博　士（学　　術）	福祉政策論／国際比較研究
教　授	西　内　　章	博　士（臨床福祉学）	社会福祉援助技術論
教　授	丸山　　裕子	博　士（社会福祉学）	ソーシャルワーク論
教　授	宮上　多加子	博　士（社会福祉学）	介護福祉論
教　授	横井　　輝夫	博　士（保　健　学）	リハビリテーション科学
准教授	大松　　重宏	修　士（社会福祉学）	医療福祉論
准教授	鈴木　　孝典	博　士（人　間　学）	精神保健福祉論
准教授	遠山　　真世	博　士（社会福祉学）	障害者福祉論
准教授	西梅　　幸治	博　士（福祉社会学）	社会福祉援助技術論
准教授	福間　　隆康	博　士（マネジメント）	社会福祉運営論
准教授	三好　　弥生	博　士（社会福祉学）	介護福祉論
講　師	加藤　　由衣	博　士（福祉社会学）	社会福祉援助技術論
講　師	河内　　康文	博　士（社会福祉学）	介護福祉論
講　師	辻　　真美	博　士（社　会　学）	介護福祉論
講　師	行貞　　伸二	修　士（社会福祉学）	生活困窮者支援

教育研究活動報告書（教員一覧）

助　教	稲　垣　　佳　代	修　士（社会福祉学）	精神保健福祉援助技術論
助　教	大　熊　絵　理　菜	修　士（社会福祉学）	医　療　福　祉　論
助　教	片　岡　　妙　子	修　士（看　護　学）	介　護　福　祉　論
助　教	雑　賀　　正　彦	修　士（社会福祉学）	地　域　福　祉　論
助　教	田　中　　眞　希	修　士（社会福祉学）	介　護　福　祉　論
助　教	玉　利　　麻　紀	修　士（人　間　科　学）	精神保健福祉援助技術論
助　教	福　田　　敏　秀	博　士（保　健　学）	高　齢　者　福　祉　論

杉 原　俊 二

Shunji SUGIHARA

○ 研 究 活 動

（研究ノート、事例報告など）（９件）

（１）研究ノート

１．杉原俊二「ある軍事研究者の告白（その３）－うつ回復期の人の好きなＣＩＷＳ－」『自分史研究会会報』10，2-6.（2020 年４月）

２．杉原俊二「Ｓさんの修士課程修了後の５年間（Ⅰ）－Ｃ短大への就職－」『人間科学』86，2-9.（2020 年５月）

３．杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討（28）－ある軍事愛好家の商船改装空母とＭＯ作戦を巡る話（中篇）－」『リハビリテーションと心理療法』11，2-9.（2020 年５月）

４．杉原俊二「Ｓさんの修士課程修了後の５年間（Ⅱ）－Ｃ短大への入職１年目（前編）－」『人間科学』87，2-9.（2020 年７月）

５．杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討（29）－ある軍事愛好家の商船改装空母とＭＯ作戦を巡る話（後篇）－」『リハビリテーションと心理療法』12，2-9.（2020 年７月）

６．杉原俊二「Ｓさんの修士課程修了後の５年間（Ⅲ）－Ｃ短大への入職１年目（後編）－」『人間科学』88，2-9.（2020 年９月）

７．杉原俊二「Ｓさんの修士課程修了後の５年間（Ⅳ）－Ｃ短大への入職２年目－」『人間科学』89，2-9.（2020 年 11 月）

８．杉原俊二「Ｓさんの修士課程修了後の５年間（Ｖ）－Ｃ短大への入職３年目－」『人間科学』90，2-9.（2021 年１月）

９．杉原俊二「Ｓさんの修士課程修了後の５年間（Ⅵ）－Ｃ短大への入職４年目－」『人間科学』91，2-9.（2021 年３月）

（２）学会発表等（２件）

１．杉原俊二「４テーマ分析法を用いた虐待予防（２）－地域の相談機関でおこなった改良４Ｔ法」日本家族療法学会第 37 回東京大会（東京大学医学部：遠隔）2020 年９月５日

２．杉原俊二「児童養護施設卒園生のニーズ調査―リービングケア・アフターケア実践のための研究―」2020 年度学際的交流サロン（高知県立大学池キャンパス）2020 年９月 14 日

○ 教 育 活 動

（１）学部：173 コマ＋集中（４回訪問指導）

「心理的理論と心理的支援」（１年後期、看護学科とも。８コマ分を担当）、「発達と老化の理解Ⅰ」（２年後期）、「面接技法」（３年前期）、「実践記録法」（４年前期）、「相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」（２年前・後期）、「相談援助実習指導Ⅲ」「相談援助演習Ⅳ」（３年前・後期）、「相談援助実習」（３年集中）「社会福祉基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（３年生４名＋研究生）、「社会福祉基礎演習Ⅲ・Ⅳ」（４年生６名）

（２）大学院：149 コマ

１．人間生活学研究科（博士前期課程）:「児童家庭福祉論Ⅰ」、「データ解析論（７コマ分)」、「課題研究演習」（主指導１名）

２．人間生活学研究科（博士後期課程）:「児童福祉学（30 コマ)」、「研究デザイン（７コマ分)」、「社会福祉学特別研究Ⅰ」（主指導１名）

○ 委 員 会 活 動

（１）全学「人権委員長」「図書館委員長」「大学院入学試験実施副委員長」

（２）学部「人事関係検討会委員」「自己点検評価委員」

（３）大学院「博士前期課程学位審査委員（長)」「博士後期課程入試実施委員」「研究助成金書面調査委員」

○ 社 会 的 活 動

（１）社会活動

高知県教育委員会高知県いじめ問題調査委員（副委員長)、高知県社会福祉協議会理事選考委員、他にいじめ問題調査委員（１件）

（２）学会など

日本人間科学研究会中国四国地域担当理事（会報担当)、ＫＪ法学会運営委員・編集委員、日本社会福祉学会中国四国地域ブロック運営委員（研究担当)・所属学会等の編集協力（査読者）

（３）講演など

１．チーフスクールソーシャルワーカー連絡会（10 月 26 日 3 時間）心の教育センター（高知市）

２．スクールソーシャルワーカー初任者研修会①（11 月 13 日 3 時間）心の教育センター

３．スクールソーシャルワーカースーパービジョン（東部ブロック東地区）（11 月 20 日 3 時間）安芸市民会館

４．スクールソーシャルワーカースーパービジョン（東部ブロック西地区）（12 月 4 日 3 時間）森田村塾（香南市）

○ 総 合 評 価 と 課 題

人間生活学研究科長を一昨年度に退任し３年目となった。会議や研究科長としての当て職が一気に減ったこともあり、もう少し教育と研究に目が届くようになるかなと思っていたが、そのようには全くならなかった。学内では全学の人権委員長（学長指名）と図書館委員長、学外では日本社会福祉学会中国四国地域ブロックの理事（研究担当）となり、責任も多くなった。全く自覚がなかったが、年齢的（と経験）から見れば、常識的にはベテランの域に入ってきたのだ。にもかかわらず、スマートに業務を片づけることができず、学内外の皆様のお助けがあり何とか務めることができた次第である。さらに昨年から続くコロナ禍で、リモートでの授業など初めてのことも多く、特に前期は心身ともに疲労した。学生さんを含め、ご迷惑をかけた方も多かった。関係者の皆様には感謝しかない。

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

教育に関しては赴任12年目になり、第二十期生を卒業させることができた。学部での授業としては、上記のように「心理学理論と心理的支援」「実践記録法」「面接技法」「発達と老化の理解Ⅰ」を担当したうえ、実習関係の科目も研究科長を退任直後から再び持たせてもらった。講義科目については、いつ遠隔授業になるかもしれなかったので、ほとんどの授業についてパワーポイント（スライド）を作った。以前から導入した方法を継続すると同時に、例年通り学生の意見聴取にできるだけ務めた。ゼミでは、例年通り全体ゼミ（３、４年）に３年ゼミ（主として論文講読）と４年個別指導を組み合わせておこなった。学内外の業務のため、管理職時代ほどではないが、しわ寄せがゼミ学生の指導に及んだことは否めず、卒論や就職指導の時間はなんとか確保できた状態であった。ただ、そのため就職は順調であり、12月初旬にはゼミ生全員（６人）の就職が決まり、提出日前日には卒論ができていた（最後の人の提出は当日）。前任校で杉原ゼミが始まって（2003年度）以来、初めての快挙であった。

研究に関しては例年になくグダグダになってしまった。今年度は学会等での発表が２件だけで、特に前期は遠隔授業に備えて授業準備に時間がとられ、特に前期は心身の疲労がひどかった。また、コロナ禍でインタビュー調査の中止が相次ぎ、研究が少ししか進まなかった。そのため、2017年度から科学研究費補助金基盤研究（C）「４テーマ分析法を用いた虐待予防－「虐待リスク」を抱える保護者支援法（２）－」を１年間延長してもらった。また、博士後期課程の修了生と一緒に昨年度の行った「児童養護施設卒園生のニーズ調査―リービングケア・アフターケア実践のための研究―」も、論文化(報告書の作成)ができず、来年度に持ち越しとなってしまった。別の科研費の共同研究者にもなっており、忙しい中ではあるが、適切な研究は何かを考えながら行っていきたい。

委員会等については、学部ではいつもの仕事に加え、紀要委員から図書館委員に変更となり、人権委員会とともに全学の委員長となった。その当て職として、総合情報センター運営委員会(副委員長)と図書館運営委員会(高知工科大学と合同)にもなり、会議の数が一気に増えた。リモートでの会議も増え、なんとかこなすことができた。

大学院の教育として、大学院でも博士前期課程の「児童家庭福祉論Ⅱ」「データ解析論」「課題研究演習」、博士後期課程の「特別研究Ⅲ」「研究デザイン」を担当しており、学部と並行して授業に追われる毎日であった。博士後期課程１名を担当し、博士前期課程では１名を修了させた。仕事量が増えているように思い、参考までにコマ数を数えてみたが、はやり多いように思う。長時間労働となることも多く、「働き方改革」とどう折り合いをつけていくのかが問題である。土・日・祝日の勤務も多く、なかなか振替休日を取得することも難しい。

社会的な活動については、地域貢献として仕事（県教委・県社会福祉協議会）も、コロナ禍のため例年より少し減ったものの、まだまだ多い。逆に学会等の活動では、研究に関する後進の育成・指導といった仕事も、ここ数年増えてきている。特に、今年度も他大学の修士・博士の教育にもかかわっている。これらの経験や成果が、教育や研究に反映できればと願っている。

田 中　き よ む

Kiyomu TANAKA

○研 究 活 動

（１）著書

・行貞伸二監修『社会福祉士養成基本テキスト第３巻 社会保険制度 社会福祉制度』日総研出版,2020 年 4 月,第 1 章 社会保障財源（田中きよむ）8 - 16 頁

（２）論説

・田中きよむ・霜田博史「生活困窮者支援の先進的取り組み―大阪市西成区を中心とする NPO 等の取り組み―」『高知論叢』第 120 号,2021 年 3 月（223 - 240 頁）

・田中きよむ「地方におけるホームレスと『見えにくい貧困』―高知県内における支援活動をふまえて―」『Humanisumus』第 32 号, 2021 年 3 月（40 - 53 頁）

（３）研究報告

・田中きよむ（高知県住宅課からNPO法人「あまやどり高知」への委託研究事業）「高知県における住宅確保要配慮者需要調査の結果について」』2021年3月（1 - 9 頁）

・高知市議会 市民クラブ・新型コロナ禍での障がい者福祉研究会（代表 田中きよむ）「新型コロナ感染症の高知市内障害福祉事業所への影響調査結果報告書」2021年3月（1 - 63頁）

（４）研究助成

・田中きよむ（研究代表者）「中山間地域の運転免許返納者を含む移動問題と地域共生拠点を活かした課題解決の探求」（文部科学省科学研究費基盤研究（B）（一般）；2019-2021年度

○教 育 活 動

（１）学部

（専門教育）

１.地域福祉論Ⅱ　２．社会保障論ⅠⅡ　３.福祉行財政と福祉計画　４.公的扶助論
５．権利擁護論　６．福祉ＮＰＯ論　７.社会福祉専門演習ⅠⅡ　８．福祉研究演習ⅢD
９．社会保障と看護（看護学部）　10.保健医療福祉論（健康栄養学部）

（共通教育）

１.地域学概論

（２）大学院

（修士課程）

１.福祉行財政論　２.社会保障論　３．社会福祉課題研究演習

○委 員 会 活 動

・（学部）教務委員会委員、社会福祉研究倫理審査委員会委員長、人事関係検討会委員、国際交流委員会委員長

・（全学）入試監査委員会委員長（学部入試）、国際交流委員会委員、図書館委員会委員

○社 会 的 活 動

（委員等）

・社会政策学会幹事
・高知県運営適正化委員会委員
・高知県老人クラブ連合会理事
・高知県地域年金事業運営調整会議委員長
・高知県青年農業士認定委員会委員長
・高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員
・高知県介護ケア研究会会長
・全国障害者問題研究会高知支部長
・高知県社会保障推進協議会会長
・高知県保育運動連絡会会長
・「ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会」代表
・高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会長
・高知市国民健康保険運営協議会委員
・高知市福祉有償運送運営協議会委員
・高知県内各市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
・高知市生活困窮者支援運営委員会委員長、セーフティネット連絡会委員
・高知市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
・公益財団法人ひかり協会高知県地域救済対策（森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策）委員会委員長
・高知県リハビリテーション研究会理事
・高知県高次脳機能障害支援委員会委員
・高知県居住支援協議会「地域包括ケア高齢者等の住まいの確保対策部会」部会長
・学校法人太平洋学園高校「多様な学習検討委員会」委員
・社会福祉法人「高知福祉会」「すずめ福祉会」「ファミーユ高知」各第三者委員
・NPO 法人「福祉住環境ネットワークこうち」理事、NPO 法人「未来予想図」副理事長 NPO 法人「あさひ会」理事長、NPO 法人「あまやどり高知」理事、社会福祉法人「さんかく広場」理事

（講演等）

・報告「日本と韓国の地域福祉・社会保障」（韓国・慶南科学技術大学社会福祉学部姜大善教授を迎えての学部内研究会）
　場所：高知県立大学社会福祉学部棟
　日時：①2020 年 4 月 17 日②5 月 12 日③6 月 8 日④6 月 29 日⑤7 月 27 日⑥8 月 17 日⑦9 月 1 日⑧9 月 16 日⑨11 月 9 日
・社会政策学会幹事会（Web）①2020 年 4 月 18 日，②2020 年 5 月 22 日
・高知市生活困窮者自立支援運営委員会（委員長）
　場所：あんしんセンター，日時：①2020 年 6 月 19 日②2021 年 3 月 5 日
・高知市社会福祉審議会民生委員審査会（委員長）
　場所：高知市役所新庁舎 422 号，日時：2020 年 7 月 14 日
・高知県青年農業士認定審査会（委員長）場所：共済会館，日時：2020 年 7 月 16 日
・大阪西成区のホームレス支援についての視察報告（「こうちネットホップ」代表）
　場所：たかじょう庁舎２階，日時：2020 年 7 月 25 日

・「障害者の人権と虐待防止」（社会福祉法人すずめ福祉会研修講師）
場所：すずめ共同作業所,日時：2020 年 8 月 6 日
・「高知県における地域包括ケアの取組みについて」（高知市一宮地区まちづくり実行委員会における報告）場所：ウエルプラザ洋寿荘,日時 2020 年 8 月 26 日
・高知県社会保障推進協議会運営委員会（会長）場所：高知城ホール,日時 2020 年 8 月 26 日
・NHK『四国らしんばん』「見えない路上の貧困」活動収録とコメンテーター（「こうちネットホップ」代表）NHK 松山放送局, 日時 2020 年 9 月 11 日
・高知市民の大学「障がい児・者の生活を通して地域福祉のあり方を共に考える」（講師,コーディネーター）場所：高知市文化プラザかるぽーと,日時：①2020 年 10 月 2 日②10 月 9 日③10 月 16 日④2021 年 1 月 22 日
・四万十町地域福祉計画推進委員会（アドバイザー）場所：四万十町社会福祉協議会,日時：2020 年 10 月 8 日
・高知市国民健康保険運営協議会（委員）場所：①あんしんセンター3 階②高知市役所本庁舎 6 階,日時：①2020 年 10 月 27 日②2021 年 2 月 18 日
・「コロナ禍で学校教育をどうすすめるか」（未来をひらく教育のつどい実行委員会）報告,場所：高知工業高校,日時：2020 年 10 月 31 日
・「コロナ禍におけるセーフティネットと生活保護の役割」（「こうちネットホップ」主催シンポジウム・コーディネーター）場所：ソーレ,日時：2020 年 11 月 14 日
・高次脳リハビリ講習会（パネリスト）場所：Web（ちよりテラス）,日時：2020 年 12 月 5 日
・高知県立大学社会福祉学部・人間生活学研究科「日韓地域福祉シンポジウム」(シンポジスト)場所：Web（高知県立大学池キャンパス）,日時：2020 年 12 月 14 日
・高知県社会教育実践交流会（報告）場所：土佐市複合文化施設「つなーで」ブルーホール,日時：2021 年 1 月 16 日
・ひかり協会（森永ヒ素ミルク中毒事件）高知県地域救済対策委員会（高知支部委員長）①県庁各課との行政協力懇談会②定例委員会,場所：①高知県保健衛生総合庁舎②Web（研究室）,日時：①2020 年 8 月 25 日②2021 年 2 月 17 日
・県民大学公開講座（高知県立大学公開講座）第３回「地域生活課題の多様化と地域共生社会」（講師）場所：県立大学地域連携棟（オンライン講座）,日時：2021 年 2 月 17 日

○総合評価及び今後の課題

・　研究面では、2020 年度は、①ホームレスや住宅確保要配慮者などの生活困窮者支援の現状分析、②コロナ禍の障害福祉事業への影響調査、③福祉行財政構造の解明に資する研究を進めた。2021 年度は、それらの研究の継続・発展として、①生活困窮者の実態把握と支援課題の分析、②コロナ禍の障害福祉事業への継続的な影響調査、③近年の社会保障制度改革の構造と本質に関する動向分析を進めたい。
・　教育面では、講義に関しては、地域福祉論、社会保障論、公的扶助論、福祉行財政と福祉計画、権利擁護論、福祉 NPO 論などを担当しているが、授業アンケート結果をふまえれば、それらの科目に関する学生の理解力、関心や主体的取り組みを改善する授業の工夫が課題となってきた。オンライン授業を契機として、レジュメによる教育内容の明確化や、授業毎のフイードバックによる理解度の確認に努めた。専門演習に関しては、とくに４回生の卒業研究において、コロナ禍の下でフィールド調査研究が不確実な状況に直面しており、今後とも工夫や配慮が必要となっている。

・　社会的活動は、2020 年度も地域福祉・地域づくりや社会保障・社会福祉の関係機関・団体、住民との協力関係を持たせて頂いた。それに合わせて、学生共々、地域との接点を持ち住民の現実の生活課題を学びつつも、各地域ならではの積極的な固有価値を再発見して、活性化する関係づくりを進めた。今後も、住民の主体性と学生の自発性を尊重した持続的な地域福祉力の形成・発展に少しでも寄与したい。

長 澤　紀 美 子

Kimiko NAGASAWA

○研　究　活　動

（1）　著書（改訂）

・ 長澤紀美子「第 3 章国連・障害者の権利条約と障害者権利保障の歴史　1. 国連・障害者権利条約」「年表 1「障害者問題を巡る国際的な動き」峰島厚・木全和巳・冨永 健太郎(編)『障害者に対する支援と障害者自立支援制度(社会福祉士シリーズ)』［第 5 版］弘文堂，2021.

（2）　研究発表（１件）

・ 長澤紀美子「性的マイノリティの権利保障をめざして：性的指向・性自認（SOGI）に基づく困難の理解と支援」12 月 23 日（水）第 20 回学際的交流サロン

（3）　競争的資金等の獲得状況（２件）

・ 科学研究費補助金　基盤研究(B)（一般）　課題番号　#19H01586

「社会福祉における評価レジーム再編の課題をめぐる理論的・実証的研究」（平成 31 年／令和元年度～令和４年度）（研究代表者：お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科　平岡公一教授）の分担研究者

・ 科学研究費補助金　基盤研究(C)（一般）　課題番号　#20K02267

「クィア視点に基づく性的指向・性自認に関する社会福祉士養成教育プログラムの開発」（令和２年度～令和４年度）の研究代表者

○教　育　活　動

（１）学 部

講義科目：「現代社会と福祉Ⅰ」「現代社会と福祉Ⅱ」「女性福祉論」「国際福祉論」

実習科目：「相談援助実習指導Ⅰ」「相談援助実習指導Ⅱ」「相談援助実習指導Ⅲ」

「相談援助実習」「相談援助演習Ⅳ」

卒業研究指導：「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」（受講者５名）

「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」（受講者８名＊）

（＊内２名は台湾・文藻外語大学、韓国・慶南科技大学校への１年間長期留学生）

サークル顧問：イケとべ！

（２）大学院

【人間生活学研究科博士前期課程】

・「国際福祉論Ⅰ」（受講者５名）／研究指導：副指導教員として M1 生１名を担当。

【人間生活学研究科博士後期課程】

・「研究デザイン」（受講者４名）（オムニバス）／研究指導：副指導教員として D1

生１名（社会福祉学）を担当／D３生１名（栄養・生活学）の学位審査、最終試験に副査として参加。

○委 員 会 活 動

【全　学】　【大学院】　人間生活学研究科長＊

＊全学委員（部局長会議、教育研究審議会、大学教育改革プロジェクト、大学院（人間生活学研究科）あり方検討会、入学試験委員会、研究倫理委員会、自己点検評価運営委員会、非常勤講師審査委員会、学術研究戦略委員会、学術研究戦略委員会審査・評価部会、動物実験委員会）／人間生活学研究科委員会議長、全学紀要委員会委員長

【学　部】　防災委員（全学災害対策プロジェクト）、国際交流委員、自己点検評価委員、人事関係検討委員

○社 会 的 活 動

（１）委 員 等

高知市行政改革推進委員（委員長）（令和２年 12 月末まで）／高知市指定管理者業務評価委員会外部委員

高知県社会福祉協議会・地域密着型サービス外部評価事業評価審査委員（委員長）【2020 年度は開催せず】

高知県人権尊重の社会づくり協議会委員（令和元年度～）

高知市人権尊重のまちづくり審議会委員（令和元年度～）

（２）講演等（性的指向・性自認（SOGI）に関わる人権研修会講師等）

1)　９月 11 日　高知市 SOGI 対応指針検討ワーキンググループとの意見交換会*

2)　11 月 6 日　土佐清水市人権教育推進講座第２回講師*（土佐清水市中央公民館）

3)　11 月 27 日　宿毛市人権教育推進講座研修会講師*（宿毛市立正和隣保館）

4)　12 月 2 日　土佐塾中学・高等学校　教員向け人権研修　講師*

5)　12 月 10 日　高知大学教育学部「家庭科概論」講師*「性の多様性について－ある家族から教育実践まで－」（高知大学の感染状況により）遠隔配信

6)　高知県隣保館連絡協議会　人権課題別研修Ⅱ講師「Ⅵ．多様性を認めあう地域づくり－差別の構造と性的指向・性自認の理解－」⇒研修の代替として教材作成

（*任意団体「ソーシャルアライ・コナツハット」の他の共同代表とともに実施）

（３）国際学術交流

・　12 月 14 日社会福祉学部主催・人間生活学研究科共催「日韓の地域福祉課題シンポジウム」企画・運営・司会

○総合評価及び今後の課題

（１）学部授業において

・　遠隔授業への対応により教材や授業内容を再構成し、動画（URL）とパワーポイント等を活用しつつ、直観的にもわかりやすい授業となるよう心掛けた。特に、入学式もなく遠隔授業となった１回生必修の授業【現代社会と福祉Ⅰ・Ⅱ】では、学生のフィードバックに対する回答や分析を次回の授業で共有し、学生の

理解度を確認し双方向型授業となるように努めるとともに、学年担当教員との情報共有を密に図り、受講が遅れがちな学生への個別対応を行った。遠隔授業の際の学生の理解度の把握については、今後も工夫をしていきたい。

（２）研究活動・社会貢献について

コロナ禍のもと、対面での学会・研究会の代わりに、ズームによる研究会等に多く参加した。一方で自身の研究課題について学術論文として取りまとめることができず、次年度の課題としたい。

- 科研研究（B）（主任研究者・平岡公一教授）の分担研究者として、イギリス社会サービスの評価制度および日本（高知県）の介護政策評価について、動向を報告し、主任・分担研究者らと意見交換を行った。
- SOGI に関する人権課題について、感染状況のため一部遅延や中止になったものの、県内の自治体職員・教育関係者に向けた研修講師を担うと共に、高知市等の自治体担当者と SOGI に関する職員行動指針や同性パートナーシップ制度等に関して、ズームによる意見交換会を行った。
- 県内放送局における性暴力を肯定する報道に対して「特定非営利活動法人ぱっぷす（ポルノ被害と性暴力を考える会）」と協力し、「＃メディアにおける性暴力表現を許さない＠高知」をジェンダー関係者と共に立ち上げ、二次被害の防止に向けて申し入れを行った。

  https://twitter.com/nsvm_kochi／https://www.facebook.com/nsvm.kochi

（３）学内業務について

１）人間生活研究科長（任期３年目）としての大学院運営

- 次々年度の認証評価に向けて、①ディプロマ・ポリシー（以下ＤＰ）（博士前期／博士後期課程）の改定、②カリキュラムの修正（科目の改廃と教員体制の強化）、③学修成果の評価指標の作成とデータ収集（ＤＰに基づく学修成果アンケートの改訂、修了生へのウェブアンケート等の作成と調査の実施）、④手続きの明文化や様式・規程の整備（研究計画書の審査基準等の作成）を行った。今後も新たなＤＰの運用及び課題の検討、教育成果の質を多面的に示すデータ等の収集や分析が課題である。
- 大学院定員確保や入試広報の改善のため、①大学院ホームページの抜本的な見直し、②博士前期・後期課程の入試募集要項の修正を、広報委員（三好准教授）や教務・広報・入試事務担当者の協力のもと行った。コロナ禍のもと、県外や国外（留学生）からの志願者に対して、ホームページでの情報の重要性は増しているため、今後も情報発信の改善に向けて取り組みたい。

２）国際学術交流

- 2020 年 2 月～12 月、慶南科技大学校社会福祉学科の姜大善（カン・デソン）准教授を外国人研究員として受け入れた。感染状況のため本人の望むフィールドワークができず残念であったが、学部国際交流委員長の田中教授・辻講師、行貞講師、雑賀助教の先生方の協力を頂き、学内で定期的に研究会を行い、研究環境を確保した。年末に学部主催で開催した日韓シンポジウムを手始めに、今後も慶南科技大学校との学術交流の活性化に向けて取り組んでいきたい。

西 内　章

Akira NISHIUCHI

○ 研 究 活 動

１．論文

なし

２．科学研究費助成事業

研究種目　基盤研究（C）:2018 ～ 2021 年度

※当初，2020年度までの予定であったが研究期間を１年間延長している．

研究代表者　西内章

研究課題　『ソーシャルワークにおけるICTを活用した多職種連携モデルの構築』

３．資料

西内章（2021）「人権課題別研修Ⅲ　高齢者の生活相談－虐待・権利擁護を学ぶ－」『高知県隣保館職員等研修事業　人権課題別研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』高知県隣保館連絡協議会，92-112．

４．研究会

ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（大阪府立大学名誉教授・関西福祉科学大学名誉教授　太田義弘主宰、京都府立大学公共政策学部教授　中村佐織会長）」に所属し，アセスメント支援ツールの研究開発を行った．

○ 教 育 活 動

［共通教育教養科目］

①「専門職連携論」

②「チーム形成論」

［学部専門教育科目］

①「事例研究法」

②「相談援助の基盤と専門職」

③「虐待防止論」

④「ケアプラン策定法」

⑤「相談援助演習Ⅲ」

⑥「相談援助演習Ⅳ」

⑦「相談援助実習指導Ⅰ」

⑧「相談援助実習指導Ⅱ」

⑨「相談援助実習指導Ⅲ」

⑩「相談援助実習」

⑪「社会福祉専門演習Ⅰ」

⑫「社会福祉専門演習Ⅱ」

⑬「社会福祉専門演習Ⅲ」

⑭「社会福祉専門演習Ⅳ」

［大学院人間生活学研究科・博士前期課程］

①研究方法論Ⅱ
②ソーシャルワーク論
③高齢者福祉論
④課題研究演習　※主指導教員として院生１名の研究指導を行った。

○委 員 会 活 動

・学部総務・予算委員長
・人事関係検討会委員
・自己点検評価委員
・紀要編集委員
・入試広報部会委員

○社 会 的 活 動

［委員等］
・高知県行政不服審査会委員
・高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会副委員長
・高知県共同募金会評議員・高知県共同募金会配分委員
・高知市成年後見制度利用促進審議会会長
・高知市高齢者虐待予防ネットワーク会議会長
・高知市社会福祉協議会評議員
・高知市成年後見サポートセンター運営委員会会長
・高知市社会福祉協議会これから安心サポート事業審査委員会委員長
・津野町地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会委員
・津野町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員

［研修会講師・講演等］
・高知県教育委員会令和２年度スクールソーシャルワーカー活用事業に係る西部地区グループスーパービジョン研修講師「スクールソーシャルワーカーの視点と関わり方」（2020年12月３日［西部地区①］・12月７日［西部地区②］）
・高知県医療的ケア児等支援養成研修・コーディネーター研修講師「支援の基本的枠組み、制度、保育」（2020年12月９日）
・令和２年度高知県入退院支援事業研修講師「第２回多職種協働研修」（2021年１月21日）
・高知県社会福祉士会基礎研修Ⅰ講師「社会福祉士に共通する専門性の理解」，「倫理綱領・行動規範の理解（講義）」（2021年３月20日）
・福祉サービス第三者委員ブロック別研修会講師「当事者・家族からの苦情をどう受け止め組織としてどう活かしていくか」（2021年３月11日［いの町会場・四万十町会場］）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動

コロナウィルス感染症の影響で講義科目は，ZoomやMoodle，ポータルサイトを活用した遠隔形式で行った．大学のネットワーク環境下ではMoodleでの授業を推奨されていたため，双方向授業の回数が限られ学生の理解度を確認しながら授業を展開することが難しかった．

社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳでは，４回生６名の卒業研究論文指導を行った．大学院では大学院生１名の主指導を担当し，次年度の修士論文提出に向けて研究指導を行った．

次年度の教育活動では，授業の目標をもとに遠隔形式で有効な教材研究を行い，学生の理解度に応じた授業展開を実践したい．

２．研究活動

研究活動では，科研費の研究が３年目であった．当初の計画では最終年度のはずであったが，コロナウィルス感染症の影響で研究が予定通り進まなかったため，研究期間を１年間延長し次年度も継続することにした．コロナウィルス感染症の感染状況が予測できないため，実施可能な研究活動を優先的に行うこととしたい．今後の研究について精査した上で調査に取り組みたい．

３．委員会活動

特に取り組んだことをあげれば，学部総務・予算委員長として学部連絡会・教授会の準備，備品や資料の購入・管理等に取り組んだ．また実習委員長として社会福祉士及び精神保健福祉士の新カリキュラムへの確認申請作業に取り組んだ．紀要編集委員の業務では，大学紀要（社会福祉学部編）の編集作業を行った．入退院支援事業の研修についても一部を担当した．委員会活動についてもコロナウィルス感染症の感染状況をみながら対応することになった．

４．社会的活動

社会的活動についてもコロナウィルス感染症の感染状況をみながら対応することになった．具体的には，外部委員としての活動と，外部研修の講師を行った．社会的活動は，自らの研究活動と関連しているテーマも多いため自己研鑽になっている．

５．今後の課題

教育活動では，遠隔授業に有用な教材の検討を行う必要がある．研究活動では，コロナウィルス感染症の影響下でできることを検討しなければならない．計画通りに進まない時の代替が重要である．委員会活動では，コロナ禍でできること，できないことを早期に決断しなければならない場面が多かったことから，事務手続きなどで改善できる事柄がないかを検討したい．

次年度も教育活動及び研究活動，委員会活動，社会的活動に継続的かつ積極的に取り組み，現在の自分を見つめ直し，気づきを得ながら改善に取り組み，尽力したいと考えている。

丸 山　裕 子

Hiroko MARUYAMA

○研　究　活　動

1　研究会参加

十勝ソーシャルワーク研究会（休会中）

2　論文等

なし

○教　育　活　動

（学部）

・福祉研究法入門
・精神保健援助技術総論
・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ
・精神保健福祉援助実習指導Ⅱ
・精神保健福祉援助演習

○委 員 会 活 動

学部

・社会福祉研究倫理審査会委員
・全学ＦＤ委員
・入試広報部会
・ソ教連担当

○社 会 的 活 動

高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業非常勤講師(スーパーバイザー)

○総 合 評 価 及 び 今 後 の 課 題

学部・大学院ともに、社会福祉学を学ぼうとする学生の質の変化に戸惑いを隠せない。また、学生間の差異が広がっており、授業・演習・実習の体系的組み立てにも、どこに照準を合わせるかに頭を悩ませる日々である。コロナ禍における実習・演習科目に関しては、それが顕在化してきている印象を持っている。

社会福祉学の大きな特徴の一つは、理論を敷衍する実践活動を伴っていることである。実践場面において、利用者の現実生活に実効を上げるためには、実践・教育・研究の統合への取り組みが必要不可欠であると考えている。しかし、近年これらを貫く軸が大きく揺らぎつつあるように感ずる。社会福祉学としての本質に立ち戻り、研究のさらなる深化をはかりたいと願っている。

宮 上　多 加 子

Takako MIYAUE

○研　究　活　動

（１）論　文

・宮上多加子・辻真美・笹村聡(2021) 訪問介護事業所におけるサービス提供責任者の職場学習『高知県立大学紀要社会福祉学部編』70,1-16.

・田中眞希・宮上多加子（2021）障害者入所施設の介護職員における演じる行為の特徴『高知県立大学紀要社会福祉学部編』70,61-75.

・河内康文・宮上多加子・田中眞希・笹村聡（2021）中堅介護職員のコンピテンシーと職業経験の関連性『中国・四国社会福祉研究』8,15-27.

（２）学会発表

なし

○教　育　活　動

［ 学 部 ］

（１）「介護過程Ⅰ」

介護福祉コース１回生（後期）の授業を担当した．ナイチンゲールの看護思想に基づく「KOMI ケア理論」の基礎と，事例を用いた介護過程の概要について講義した．授業評価から見ると、理論的な内容を分かりやすく説明する工夫が継続して必要である。

（２）「介護過程Ⅱ」

介護コース２回生（前期）の科目であり，介護実習の記録としても活用している KOMI 記録システムについて詳細に解説した。内容の理解が深まったという評価が多かった。

（３）「認知症の理解Ⅰ・Ⅱ」

「認知症の理解Ⅰ」「認知症の理解Ⅱ」ともに本年度よりオムニバスで担当した．介護コース以外の学生も履修したため，医学的側面からの理解を深めると同時に，当事者からの発信，地域社会における認知症をもった人への支援などを継続して取り上げた．

（４）「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」

３回生のゼミ生は３名，４回生のゼミ生は４名であった．COVID-19 感染予防のため，４回生の演習は２名ずつに分けて実施した．ゼミの活動内容をゼミ記録にまとめた．

［ 大学院（人間生活学研究科博士前期課程）］

（１）「介護福祉論Ⅰ」を学部専任教員とオムニバスで担当した．受講者は３名であった．

（２）論文指導

正指導教員としてＭ２生１名，副指導教員としてＭ２生２名を担当した．研究を進めるためのディスカッションの場として，大学院ゼミを毎月１～２回継続的に開催した．

［ 大学院（博士後期課程）］

（１）「介護福祉学」を開講した．質的研究法のテキストを用いた抄読会方式を中心に実施し，受講者は２名であった．

（２）論文指導

正指導教員として院生２名を担当した.また,副指導教員として担当した院生１名は，９月に学位取得した．

○委員会活動

［全学］

社会福祉学部長（教育研究審議会/部局長会議/入学試験委員会/自己点検評価運営委員会/教員評価委員会/非常勤講師審査委員会/学術研究戦略委員会/人事委員会/大学教育改革委員会/大学院あり方検討会/高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

［学部］

学部総務・予算委員会/学部人事関係検討会/自己点検評価委員会

［大学院（人間生活学研究科）］

学務委員/教務委員会

○社会的活動

高知県社会福祉審議会委員／高知県医療提供体制推進事業等評価委員会委員
高知県福祉活動支援基金運営委員会委員／高知市民生委員推薦会委員
高知県社会福祉協議会理事／日常生活自立支援事業契約締結審査会委員（委員長）

○総合評価と今後の課題

（1）教育活動

学部教育においては，介護コースの担当科目の中で，人間の身体機能や老化による変化を扱う内容は、学生の興味を引き出し，理解を促すという点で毎年試行錯誤している．加えて，本年度は新型コロナウイルス感染拡大のために遠隔授業が多く，教材作成や提出課題への対応に追われた．次年度以降は，今年度作成した授業資料を改善するとともに，Moodle 等を活用した双方向のやり取りを増やしていきたい．

大学院教育においては，数年ぶりに博士後期課程の集中講義科目を担当した．1 年間を通して研究方法について議論する場を得て，私自身の知識や理解を深める意味でも貴重な機会となった．

（2）研究活動

科学研究費補助金(基盤(C))「中堅介護職員の循環型経験学習を促すメンタリングの様相」（当初研究期間：平成 29～31 年度）の期間を延期して調査を実施した．しかし，新型コロナウイルス感染拡大のために予定していた県内外の調査が中止となり，研究が進んでいない．次年度は，今年度実施したグループインタビューの調査結果を精査し，研究としての妥当性や確証性を高めるようにしたい．

（3）学内業務

今年度は，新型コロナウイルス感染拡大のために予定していた教育活動や多くの事業が中止あるいは内容変更となり，十分な活動が出来なかった事項が多い．志願者確保については，高等学校の進路指導担当教員向けの説明会や高校訪問の中止，またオープンキャンパスの中止等に伴って，入試広報の機会が大幅に減少した．しかし，Web 等を活用した広報の工夫等や「高知県キャリア教育推進事業」により，学校推薦型選抜および前期入試は昨年以上の志願者を確保できた．入試広報については，今後の社会状況の変化を含めて検討し対応していく必要がある．

学部運営に関しては，共同研究の活性化や外部資金獲得に向けた仕組みづくり等、今後取り組むべき課題は多い．新型コロナウイルス感染については，全国的な感染状況からみても，今後しばらくは継続して感染予防策を講じる必要がり，大学教育継続のために柔軟に対応していく必要がある．

横 井　輝 夫

Teruo YOKOI

○研 究 活 動

（１）論文

Akiha Yumoto, Teruo Yokoi: Aspects of the minds of mothers of children with development but no intellectual disabilities and the nature of these disabilities. Journal of Physical Therapy Science 32(10), 686-690, 2020.

（２）学会発表

李　傑、横井輝夫、三好弥生、渡邊浩幸、福田敏秀：言葉を失った重度アルツハイマー病者の行動を理解する視点、日本認知症学会、名古屋、2020 年 11 月

○教 育 活 動

（学部）

・精神保健学Ⅰ　・精神保健学Ⅱ
・精神科リハビリテーション学　・発達と老化の理解Ⅱ
・こころとからだのしくみⅠ　・こころとからだのしくみⅡ
・障害の理解Ⅰ　・介護の基本Ⅱ

（大学院）

・健康リハビリテーション論　・社会福祉学課題研究演習

○委 員 会 活 動

（全学）

・教務委員会

（学部）

・教務委員会　・人事関係検討会
・自己点検評価委員会

（大学院）

・学務委員

○社 会 的 活 動

（学外非常勤講師）

・吉備国際大学（「運動発達学」「理学療法技術実習」担当）
・吉備国際大学大学院保健科学研究科修士課程（通信制）（「臨床保健学特論」担当）

○総合評価及び今後の課題

（１）教育活動について

今年度は新型コロナウィルスの影響で、対面授業と遠隔授業の併用であった。例年介護福祉士指定科目については、病気のことなど学生は多くの新たな知識を獲得する必要があるため、毎回確認テストを行いながら進めていたが、遠隔授業では毎回の確認テストは行えなかった。また精神保健福祉士指定科目については、前期は遠隔授業が中心であったため、映像教材を十分に使えなかった。２点が残念な点である。

大学院では、主指導を務めた院生１名が博士前期課程を修了した。

（２）研究活動について

現在２本の論文を英文誌に投稿中、２本の論文を英文誌への投稿準備中である。

（３）学内業務について

学部教務委員会の委員長を務めた。新型コロナ感染症への対応で多忙な 1 年であった。2021 年度も感染予防への迅速な対応に務めたい。

（４）社会貢献について

特に、研究での新たな知見を発表することを通して社会に貢献していきたい。

大 松　重 宏

Shigehiro OHMATSU

○研　究　活　動

1．論文
なし
2．著書
なし
3．学会発表
なし
4．競争資金の獲得
なし

○教　育　活　動

・相談援助演習Ⅲ
・相談援助実習指導Ⅰ
・相談援助実習指導Ⅲ
・保健医療サービス
・社会福祉専門演習Ⅱ
・社会福祉専門演習Ⅳ
・相談援助演習Ⅳ
・相談援助実習指導Ⅱ
・生活と社会福祉
・社会福祉専門演習Ⅰ
・社会福祉専門演習Ⅲ
・医療福祉論

○委 員 会 活 動

・学生委員会
・高知医療センター・高知県立大学連携事業委員
・糖尿病保健指導連携体制構築事業委員
・入退院支援事業委員
・多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座実施委員会委員

○社 会 的 活 動

1．委員等
・特定非営利活動法人がんサポートコミュニティ顧問
・高知県医療ソーシャルワーカー協会理事

2．学外講師等
・令和 2 年高知県立大学入退院支援事業研修講師「多職種協働研修」第 2 回（2020 年 10 月 6 日）, 第 3 回（2020 年 12 月 8 日）, 第 5 回（2021 年 2 月 12 日）
・令和 2 年度本山町・高知県立大学公開講座（夜学）「医療情報の探し方」（2020 年 11 月 18 日）
・平成 2 年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座前期（2020 年 7 月 2 日）, 後期（2020 年 12 月 2 日）
・平成 2 年度高知県糖尿病保健指導連携体制構築事業「血管病調整看護師」育成研修（2020 年 8 月 27 日）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

講義・演習では，実践現場の事例を用いた解説とライブ感のある面接場面を教員が模擬的に演じて現実感を持った内容にし，学生により実務的なレベルが伝わるように工夫した．授業では終了時にリアクションペーパーの記載を義務付け，学生自らが１時間の授業内容を振り返る作業を行う中で生じた疑問や質問を言語化するよう促した．授業内ですべての質問に回答し，双方向の授業となるよう努めた．今後は、翌週の授業までの復習や予習内容を毎回具体的に提示していき自宅での学習の機会を増やし，また，より理解しやすい授業内容にするため学生とのコミュニケーションをさらに工夫していきたい．

「保健医療サービス」では，社会福祉士国家試験の過去問題を取り入れ，国家試験対策に対して学生が事前に取り組みをする動機付けを持てるよう努めた．これは今後も継続して実施していく．

昨年度より，22 期生の学年担当を教員二人体制で行った．一人ひとりが興味や関心から発展させて実習先を選択すること，さらに社会福祉専門職としての進路を具体的に描くことの助けになるよう，高知県内の病院や社会福祉協議会等に勤務する各社会福祉分野のソーシャルワーカーに講演を依頼し現場の状況について紹介してもらった．

また，新型コロナ感染症の影響により、対面授業からオンライン授業へ切り替わったことに伴い，十分な学習時間を確保し、そのスタイルに適応できない学生が少なからずおり，そのような学生の中には自分自身どう相談して良いのかもわからない状況の者も存在した．そこで，積極的に連絡を取り，一緒に考えることを伝え，継続的な相談につなげることに努めた．多忙な１年であったが，他の教員と連携し学生の様々な課題に支援できた貴重な体験であった．

２．研究活動について

石綿関連疾患患者へのソーシャルワーク支援について今後も研究を継続する予定であり，今後は研究発表から論文執筆へ繋げたいと考えている．また，がん患者のピアサポートについても同様に継続課題としたい．

３．社会活動について

高知県医療ソーシャルワーカー協会に協力を依頼して，「現任者のためのスーパービジョン」の研修を企画運営することと併行し，より役立つ学習コンテンツを開発し実務者の卒後教育に貢献したい．また、ライフワークである「がん患者とピアサポート」については、高知県内および他府県で活動するがん患者会の定例会や研修会により多く参加し，セルフヘルプグループの運営を支援したいと考える．

鈴 木　孝 典

Takanori SUZUKI

○研　究　活　動

（１）学術論文

・田村綾子、藤井千代、行實志都子、鈴木孝典「障害者の地域移行及び地域生活支援のサービスの実態調査及び活用推進のためのガイドライン開発に資する研究」『厚生労働科学研究費補助金 疾病・害対策研究分野障害者政策総合研究(H31-身体・知的-一般-006 報告書)』、2020.6.

（２）著　書

・鈴木孝典、松本すみ子「精神保健福祉分野におけるソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義」、(一社) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士･精神保健福祉士養成講座「ソーシャルワークの理論と方法【精神専門】」』、中央法規出版、2021.2、pp.253-273

・鈴木孝典「実習におけるリスクマネジメント」、(一社) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新精神保健福祉士養成講座「ソーシャルワーク実習指導･実習【精神専門】」』、中央法規出版、2021.2、pp.45-55

・鈴木孝典「実習におけるリスクマネジメント」、(一社) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座「ソーシャルワーク実習指導･実習【社会専門】」』、中央法規出版、2021.2、pp.45-55

（３）学会発表等

なし

（４）競争的資金の獲得

・厚生労働科学研究費補助金（障害者総合政策研究事業）（20GC-1007）

研究代表者：田村綾子

研究分担者：藤井千代、鈴木孝典、青石恵子、相馬大祐

研究課題名：「地域で暮らす障害者の地域生活支援の実態把握及び効果的な支援方法、その評価方法についての研究」

○教　育　活　動

（１）講　義

［ 学　部 ］

１．「精神保健福祉論Ⅰ」
２．「精神保健福祉論Ⅱ」
３．「社会福祉専門演習Ⅰ」
４．「社会福祉専門演習Ⅱ」
５．「社会福祉専門演習Ⅲ」
６．「社会福祉専門演習Ⅳ」
７．「精神保健福祉援助実習Ⅰ」
８．「精神保健福祉援助実習Ⅱ」
９．「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」
10．「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」
11．「精神保健福祉援助演習」

［ 大学院 ］

１．「研究方法論Ⅱ」
２．「精神保健福祉論」

（２）講義以外
・実習支援
精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの配属実習に備えて、実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

○委員会活動等

（１）学 部
１．精神･社会福祉コース主担当　　３．広報委員
２．実習委員

（２）全 学
１．広報委員
２．総合情報センター運営委員（人間生活学研究科選出委員）
３．情報処理施設委員

○社会的活動

（１）委 員 等
１．高知県精神医療審査会 委員（2008 年４月～）
２．高知県自立支援協議会 副会長（2009 年２月～、副会長 2014 年７月～）
３．高知県自立支援協議会人材育成部会 部会長（2013 年９月～）
４．高知県障害者施策推進協議会 委員（2009 年４月～）
５．高知県障害者介護給付等不服審査会 委員（2010 年４月～）
６．社会福祉法人土佐あけぼの会 評議員及び第三者委員（2010 年４月～）
７．社会福祉法人ファミーユ高知 評議員（2015 年４月～）
８．一般社団法人日本精神保健福祉学会 理事（2016 年６月～）
９．一般社団法人日本精神保健福祉学会 機関誌査読委員（2015 年４月～）
10．公益社団法人日本精神保健福祉士協会 学会誌投稿論文等査読小委員会 委員（2021 年４月～）
11．高知県福祉人材センター･福祉研修センター運営委員会 副委員長（2015年4月～､副委員長2018年3月～）
12．精神保健福祉士試験委員（2018 年５月～）
13．全国精神医療審査会連絡協議会 理事（2020 年３月～）

（２）講 演 等
１．高知県産学官民連携センター「シーズ･研究内容紹介・暗黙知から実践知を紡ぐスパイラルアップ-社会福祉従事者の知識を想像する手法を考える」講師（９月 30 日～10 月７日、オンデマンド配信）
２．令和２年度幡多地域「地域移行･地域定着支援」に関する研修会「地域移行すべきは誰か？地域移行支援の促進･阻害要因の確認」講師（2021 年２月 18 日）
３．令和２年度高知県地域移行･地域定着支援関係者研修「精神障がい者の地域移行の目的と意義」講師（2021 年２月 20 日）

（３）学外非常勤講師
１．高知医療学院（「社会福祉学」担当）
２．土佐リハビリテーションカレッジ（「社会福祉学概論」担当）
３．大正大学大学院人間学研究科博士前期課程（「M ソーシャルワーク研究法Ⅱ」担当）
４．日本福祉教育専門学校通信課程（「精神保健福祉の基盤と専門職」担当）
５．高知リハビリテーション専門職大学（「精神障害者の援助とネットワーク」を担当）

遠 山　真 世

Masayo TOHYAMA

○研　究　活　動

（１）学術論文

・遠山真世（2020）「障害者就労継続支援Ｂ型事業所における工賃向上の阻害要因と対策に関する研究―５事業所のインタビュー調査からみた現状と課題」『中国・四国社会福祉研究』第７号：15～26.

（２）競争的資金の獲得

・科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ），課題番号 18K02112，2018 年度－2020 年度）
研究代表者：遠山真世
研究課題名：重度障害者の就労支援における工賃向上のための「高知モデル」の構築

○教　育　活　動

（１）担当科目

・相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ
・相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
・相談援助実習
・福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
・障害者福祉論
・社会調査の基礎
・社会福祉入門演習（補助）
・社会福祉基礎演習（補助）

（２）学生支援

・池吹奏楽部顧問

○委 員 会 活 動

（１）全学

・入試実施委員会
・大学入学共通テスト実施委員会
・地域教育研究センター運営委員会

（２）学部

・入試広報部会
・実習委員会

○社 会 的 活 動

・高知県隣保館職員等研修事業　人権課題別研修Ⅱ　講師
「障害のある人の相談支援」担当（冊子作成）
・2020 健康長寿センター事業　高知県立大学社会福祉学部　リカレント教育講座　講師
「障害を理由とした差別の禁止と障害者就労支援の行方」（YouTube で公開）

・令和２年度　土佐清水市人権教育推進講座　講師（11 月 25 日）
「障がい者の人権と障害者福祉について：障害者差別解消法と合理的配慮」

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

科学研究費補助金を受け、重度障害者の雇用・就労における問題整理と課題抽出に取り組んできた。本年度は、これまでに行った５か所の障害者就労継続支援Ｂ型事業所でのインタビュー調査をまとめ、論文として発表することができた。次年度は、Ｂ型事業所の平均工賃が高い都道府県と低い都道府県の違いや背景を分析するため、各都道府県から公表されている各事業所の平均工賃や作業内容等のデータを収集・分析するとともに、その結果をまとめ論文を執筆したいと考えている。また、これまでの研究成果をもとにＢ型事業所を対象としたアンケート調査の企画も進めていきたい。

（２）教育活動について

前期は遠隔授業への対応が必要となり、後期は対面授業と遠隔授業の切り替えがたびたび求められた。そうした状況下で、Moodle を通して学生の受講状況をその都度確認しつつ、学生が受講しやすい授業方法を模索した。

講義科目においては、ポイントを明確化し理解しやすい授業を心掛けた。復習問題や課題、小テストを用いて、学生自身が理解度を確認できるようにした。演習科目においては、学生どうしがお互いに考えたことを知ることができるよう、提出された課題を取りまとめて資料を作成し、グループディスカッションの代替とした。実習指導においては、個別指導を通じて学生の関心や考えを引き出したり、実習で得た経験について考察を深めたりできるよう努めた。３回生のゼミでは、後期に高知市内の障害者就労継続支援Ｂ型事業所を訪問することができた。４回生のゼミでは、個別指導が中心となったが、個々の学生の関心に沿ってスムーズに研究が進められるよう、情報収集や分析方法、論文としてのまとめ方などについて助言を行った。今後も遠隔と対面を組み合わせた授業展開が求められるため、どちらの形態においても多様な授業方法を盛り込み、学生の理解や考察が深まるようにしていきたい。

（３）委員会活動・社会活動等について

委員会活動では、入試広報部会の主担当となって活動した。これまでは学部教員による高校訪問を行っていたが、今年度はオンラインによる個別相談会という形で実施した。年間 12 回の個別相談会を設定し、13 件の相談申し込みがあり、受験生と直接対話できる貴重な機会となった。次年度もオンラインによる活動が中心となることが予測されるため、活動内容や周知方法などについて工夫していきたいと考える。

社会活動では、研修や講座が中止となったり、オンラインによる開催となったりしたが、対面で実施できたものもあった。どのような形態であっても、地域住民や専門職の方々に学んでいただける機会に今後も貢献していきたいと考える。

西 梅　幸 治

Koji NISHIUME

○研 究 活 動

（１）研究会参加

１）エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加

（２）論文等

論文

１）西梅幸治（2021）「エンパワメント実践における協働」『高知県立大学紀要』70, 17-30.

その他

１）西梅幸治（2021）「隣保館における相談支援の過程と方法」高知県隣保館連絡協議会『高知県隣保館職員等研修事業　人権課題別研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』高知県隣保館連絡協議会，１-25.

○教 育 活 動

（１）担当科目

（学部）

「相談援助の理論と方法Ⅱ」「相談援助の理論と方法Ⅳ」「相談援助の基盤と専門職」
「社会福祉専門演習Ⅰ」　「社会福祉専門演習Ⅱ」　「社会福祉専門演習Ⅲ」
「社会福祉専門演習Ⅳ」　「相談援助実習」　「相談援助演習Ⅰ」
「相談援助演習Ⅱ」　「相談援助演習Ⅳ」　「相談援助実習指導Ⅰ」
「相談援助実習指導Ⅱ」　「相談援助実習指導Ⅲ」　「社会福祉入門演習」
「社会福祉基礎演習」　「スーパービジョン」

（大学院）

「研究方法論Ⅱ」

（２）クラブ活動

・グローカルクラブ顧問　・手話サークル顧問

○委 員 会 活 動

全　学

・学生委員会　・キャリア支援委員会

学　部

・実習委員会（社士主担当）　・総務予算委員会
・国試対策支援委員会（長）　・学部キャリア支援委員（長）

○社 会 的 活 動

・エコシステム研究会　副代表
・四国中央医療福祉総合学院　非常勤講師
・高知市社会福祉士・精神保健福祉士人材育成指針策定委員会（委員長）
・高知県社会福祉協議会　講師「先輩職員研修」（2020 年 7 月 31 日）
・要約筆記者養成講座　講師「社会福祉の基礎知識Ⅰ」（2020 年 9 月 5 日）

・介護支援専門員実務研修　講師「相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎」（2020 年 12 月 19 日）
・高知県社会福祉協議会　講師「相談援助応用研修」（2021 年２月 19 日）
・学部リカレント研究会事業「スクールソーシャルワーク研究会」（９月～11 月：計３回）
・学部リカレント研究会事業「ソーシャルワーク学習会」（11 月：計１回）

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

研究活動については十分とはいえないが、継続的に研究を行ってきた。今年度は、科研費を取得し、調査を予定していたが、新型コロナ感染症流行のため、見送らざるを得なかった。定期的な研究会では、初めてのオンラインで実施しながらコンピュータ支援ツールの協議をすることができた。海外とも円滑にディスカッションすることができ、新しい機会をつくることができた。また共同研究で進めている実習教育に関する研究成果についても原稿を整理することができた。自身の主たる研究テーマについては課題が残ったと感じており、研究成果をコンスタントに公表していきたい。

（２）教育活動について

今年度は、感染症流行に伴い、すべての科目で大きな変更を迫られた。Zoom や UOKLMS（moodle）の活用方法を一から学び、対応しなければならず、学生も教員も不慣れななかで試行錯誤の授業展開となった。講義系科目では、通常の講義資料に加え、解説編を作成し、学生の理解促進に努めた。毎回の講義の感想などを提出してもらうフィードバックを作成し、授業展開の修正ならびに追加資料の配付などを行った。引き続きオンライン授業の可能性も見込まれるが、理論と実践を融合した支援展開の修得や国試対策も見据え、学生自身が目標を持って取り組むための工夫を重ねていきたい。

実習科目では、事前指導として実習中の感染症対策や配慮について丁寧に指導した。事前・事後指導共に、個別指導やスーパービジョン、学生同士がお互いに共感し、考え方を深めることを重視してきた。今年度も演習Ⅳでは、グループ・スーパービジョンに取り組み、その過程で自省を深め、社会性や専門職としての姿勢が身につくような指導に努めた。

また今年度は、６名の学生の卒論指導を行った。学生個々に、かつゼミでの相互作用をとおして指導に取り組んだ。今年度は特に、Zoom を用いて毎回、グループで進捗状況を共有しながら、文章構成と分析・考察を深められるように指導を行い、成果を出すことができた。学生たちも相互に高め合いながら進めていたように感じている。

（３）委員会活動・社会的活動について

相談援助実習（社会福祉士）主担当としては、関連授業の効果・効率的、および統合的な授業運営と同時に、感染症対策を徹底するように努めた。キャリア支援委員長としては、キャリア支援特別講座を開催し、卒業生・在学生・教員をつなぐ機会をつくった。また学部の外部評価の一環として、卒業生とその職場の方へのアンケートを実施することができた。国試対策支援委員長としては、コロナ禍で合宿などの企画ができなかったが、４回生の国試対策に少なからず貢献できたと感じている。社会的活動についても、コロナ禍で開催ができなかったものもあったが、今年度も継続して要約筆記者養成、ならびに高知県社会福祉協議会での研修などにも尽力できたと感じている。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に、全国的な視野を持ちながら貢献していきたい。

福 間　隆 康

Takayasu FUKUMA

○研　究　活　動

1　論文

・福間隆康「職務特性が離職意思に及ぼす影響における職務満足の媒介効果―特例子会社の障がい者を対象とした定量的分析」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』第 70 巻，pp. 31-43，2021 年 3 月。

2　学会発表

・福間隆康「職務特性が職務満足および離職意思に与える影響―特例子会社の障がい者を対象とした定量的分析」第 28 回職業リハビリテーション研究・実践発表会，2020 年 11 月。

3　外部資金の獲得状況

・科学研究費助成事業（若手研究）「障がいのある従業員の組織適応プロセスに関する研究」（2018 年度～2021 年度）

○教　育　活　動

1　学　部

・福祉対象入門
・福祉援助入門
・地域福祉論Ⅰ
・福祉サービスの組織と経営
・社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
・相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ
・相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
・相談援助実習

2　研究科

・地域福祉論Ⅰ
・社会福祉学課題研究演習

○委 員 会 活 動

1　全　学

・入試実施委員会委員

2　学　部

・学生委員会委員（第 20 期生学年担当）
・就職委員会委員

○社 会 的 活 動

1　委員等

・特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク 地域連携事業部委員
・一般社団法人四国ソーシャルインクルージョンセンター協力委員
・南国市社会福祉協議会 南国ネットワーク連絡会委員
・南国市社会福祉協議会 南国市あったかにんにん運営委員会委員

○総合評価及び今後の課題

1　研究活動

科学研究費助成事業（若手研究）の研究成果の一部を学会報告するとともに，研究紀要に掲載することができた。次年度は，科学研究費助成事業（若手研究）の研究計画書に基づき着実に研究を遂行し，研究成果の形として，学術雑誌に論文を投稿する予定である。

2　教育活動

授業では，アクティブ・ラーニングや協働学習に重点を置き，学生に主体性をもって答えのない問題に答えを見いだしていくよう努めた。学生には講義を聴くだけではなく，より発展した疑問を考えさせたり，自分の意見を発表させたりするよう思考の可視化を行った。

WEB 会議ツール ZOOM を活用し，学生が同じ内容の授業を，オンラインでも対面でも受講できるハイフレックス(HyFlex:Hybrid-Flexible)型の授業を実施した。これにより，学生は置かれた状況に応じて，オンライン授業を受けるか対面授業を受けるか選択できるようになった。また，対面授業の実施が不可能になった場合にも，フルオンライン授業への移行が容易であった。しかし，教室環境の設定が大変であった。また，教室と対面の両方の学生に注意しながら授業を行う必要があるため，負荷が大きかった。次年度は，学生による授業評価に基づき授業を改善し，魅力ある授業を実施していきたい。

3　委員会・社会的活動

入試実施委員会委員(学部委員長)として，入試業務を円滑に実施することができた。学生委員会委員（第 20 期生学年担当）として学生支援を行い，学生の様子を把握することができた。また，就職委員会委員として，学生への就職支援を行った。

南国ネットワーク連絡会において，関係機関・団体と関係をつくることができた。今後は，高知県内の企業等との共同研究や産学官民の交流の場への参加等を通じ，産業界および地域の発展に貢献できるよう取り組んでいきたい。

三 好　弥 生

Yayoi MIYOSHI

○研 究 活 動

1．論　文

・三好弥生・片岡妙子・武富純子（2021）「終末期に至る要介護高齢者の食事摂取困難タイプ別ケアの基本と介助方法」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』70,77-85.

・辻真美・三好弥生・岡京子（2021）「介護従事者が利用者から受けるハラスメントに関する文献研究－ホームヘルパーに対するハラスメントの発生要因把握の手がかりとするために－」『Humanismus』32,54-67.

2．学会発表

・辻真美・三好弥生・岡京子・荒川泰士・小松妙・川田麻衣子「ホームヘルプサービスにおける自立支援･重度化防止にむけた取り組みへの課題」日本在宅介護学会 Web 発表、2020 年 6 月.

・辻真美・三好弥生「介護福祉領域の利用者から受けるハラスメントに関する文献研究」第 28 回日本介護福祉学会 Web 発表 2020 年 9 月.

・李　傑・横井輝夫・三好弥生・渡邊浩幸・福田敏秀「言葉を失った重度アルツハイマー病者の行動を理解する視点」第 39 回日本認知症学会、名古屋、2020 年 11 月.

3．競争的資金の獲得

・令和２年度～令和４年度　日本学術振興会科学研究費補助事業（若手研究）「終末期に至る要介護高齢者の食事摂取困難に対する食事ケアモデルの有用性に関する研究」（研究代表者）

○教 育 活 動

1．学部担当科目

・高齢者福祉論Ⅱ
・介護過程Ⅲ
・生活支援技術Ⅴ
・社会福祉専門演習Ⅱ
・社会福祉専門演習Ⅳ
・介護実習Ⅰ
・介護実習Ⅲ
・医療的ケアⅡ
・介護過程Ⅳ
・社会福祉専門演習Ⅰ
・社会福祉専門演習Ⅲ
・介護総合演習Ⅳ
・介護実習Ⅱ
・介護論（健康栄養学部）

2．大学院担当科目

・介護福祉論Ⅰ

○委 員 会 活 動

1．学　部

・介護コース主担当、教務委員、実習委員、入試広報部会、介護人材確保事業部会

２．大学院

・広報委員

○社 会 的 活 動

◆研修会講師・講演等

・高知工科大学講師「介護等体験事前指導」永国寺キャンパス及び香美キャンパス(3 月)

・いのちの電話相談員養成講座講師「コミュニケーション技術－『聞く力』を伸ばす－」高知市保健福祉センター（4 月）

・特別養護老人ホーム土佐清風園 ケアサポート研修講師「デスカンファレンスの目的・進め方」南国市（9 月）

・よんでんライフケア ケアサポート研修講師「よりよい看取りに向けて」高知市(9 月)

・特別養護老人ホームはるの若菜荘 ケアサポート研修講師「デスカンファレンスの目的・進め方」南国市（10 月）

・特別養護老人ホームはるの若菜荘 ケアサポート研修講師「よりよい看取りに向けて」高知市（11 月）

・高知県立大学社会福祉学部高校生のための WebEVENR3 ミニ講座「貯筋（肉）のすすめ」Web 配信（11 月）

・高知県立大学社会福祉学部 2020 年リカレント教育講座「オーラルフレイルってなんだろう？」Web 配信（11 月）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

2020 年度は、講義や演習などすべての教育活動において、新型コロナ感染防止対策に努めながら進めることとなった。演習は、学生同士の接触リスクを考慮し、授業方法を検討しなければならかなった。講義は、オンデマンド授業でも使える教材探しに始まり、資料を作成した上で音声を入力するなどいずれも、従来の方法を用いることはできず、改めての準備によりかなりの時間を要した。

1 年に 3 回、学外の高齢者施設や障害者支援施設で実施する介護実習に至っては、実施できるか否かという不確かな中で準備を進めざるを得ず苦しかった。結果、一部学内の代替実習に振り替えりつつ、感染が縮小している間隙に実施することができた。ある指導者は、「今、介護現場は職員の犠牲の上に成り立っています」と語っていた。感染リスクの高い要介護高齢者や障害者の現場においてケアを実践している介護職員は、私生活においても厳重な自粛を求められている。このような状況で学生の実習を受け入れていただいたこと、感謝しかない。残念ながら、2021 年度も新型コロナウイルスの感染は予断を許さない状況だが、前年度の経験を踏まえ対応していきたい。

今年度初めて大学院修士課程の副研究指導を担った大学院生お二人が修了された。修了までの一連の流れが理解できた。

２．研究活動について

令和２年度より新たに科研費助成を受けた研究は、高齢者介護施設における実証研究のため、着手することができなかった。

加 藤　由 衣

Yui KATO

○研　究　活　動

（１）論文・著書

・加藤由衣「ソーシャルワークにおける省察的実践支援ツールの構成指標の検討」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第 70 号，45-59，2021 年 3 月.

（２）研究会参加

・エコシステム研究会（太田義弘主催）への参加

（３）競争的資金の獲得状況

・科学研究費助成事業（若手研究）「省察的実践の理論に基づくソーシャルワーク実践方法と省察ツールの開発」（平成 30 年度～令和 2 年度），研究代表者

（４）その他

・日本社会福祉士養成校協会編（2020）『社会福祉士国家試験模擬問題集 2021』中央法規

・高知県隣保館連絡協議会（2021）「高知県隣保館職員等研修事業　人権課題別研修Ⅰ子どもや家族への相談支援」

○教　育　活　動

（１）担当科目

・「相談援助の理論と方法Ⅰ」　・「相談援助の理論と方法Ⅲ」
・「相談援助の基盤と専門職」　・「児童・家庭福祉論」　・「子育て支援論」
・「相談援助実習指導Ⅰ」　・「相談援助実習指導Ⅱ」　・「相談援助実習指導Ⅲ」
・「相談援助演習Ⅰ」　・「相談援助演習Ⅳ」　・「相談援助実習」
・「社会福祉専門演習Ⅰ」　・「社会福祉専門演習Ⅱ」
・「社会福祉専門演習Ⅲ」　・「社会福祉専門演習Ⅳ」

（２）クラブ活動

・バスケットボール部顧問　・ハモ☆いけ顧問　・こどもみらい塾顧問

○委 員 会 活 動

（１）全学委員

・入試実施委員会　・健康管理センター運営委員会

（２）学部委員

・学部キャリア支援委員会　・学部入試実施委員会
・学部国試対策支援委員会　・福祉実習支援室長

○社 会 的 活 動

（１）学外講師等

・南国市スクールソーシャルワーカー
・社会福祉法人南少　再発防止委員
・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校非常勤講師（「社会調査の基礎」担当）
・高知県福祉研修センター事業　講師「相談援助技術基礎研修」(2020/10/13、12/23)
・社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会施設内研修「対人支援の基礎」(2021/2/12)

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

科研費（若手研究）の研究期間３年目の本年度は、感染症の影響もあり調査研究を進めることができず、研究の進め方に苦心した一年であった。そのため本研究の中核となる省察的実践を支援するツール開発にむけて、理論研究からツールのアセスメント指標を構成した。またエコシステム研究会では、昨年度より運用している実践支援ツールのヴァージョンアップにむけた検討を行った。

これらの研究成果をふまえて、次年度は実施方法を検討しながら調査研究も進め、エコシステム研究会の実践支援ツールに省察的実践のアセスメント指標を適用し、省察的実践を促進するツールの開発と活用の方法を探究していきたい。

（２）教育活動について

本年度はコロナウイルス感染症により、教育活動においても、遠隔授業の実施など展開方法を模索した一年であった。講義・演習科目では対面で学生同士や教員と学生の相互作用が図れないなかで、可能な限り学生の意見を授業内で共有できるように工夫した。しかしながら演習では、オンタイムでの意見交換・ディスカッションができなかったことが大きな課題である。今後は遠隔授業であっても、Zoom 等の活用により、学生同士の対話ができる授業方法を取り入れていきたい。

実習教育においても、感染症対策の徹底とともに、基本は Zoom を活用した実習巡回であったため、例年以上に細やかな学生支援・指導が必要であった。そのため、実習指導者との密な情報共有や配属実習中の学生のフォローに力を注いだ。また事前事後指導では、実習期間中に学生同士のディスカッションの場がほとんどなかったため、実習後のグループスーパービジョンを重視した。そのなかでは、学生同士の学びを共有し、各施設・機関の共通性・相違性を確認しながら、子ども家庭分野のソーシャルワークが深められていたように感じる。本年度の成果と課題をふまえつつ、今後も配属実習をとおして学生がソーシャルワークを体験的に学ぶことができるよう、実習指導者とも密に連携し、教育内容の改善に取り組んでいきたい。

国家試験対策の支援では、個別面談などをとおして、学生の動機づけや学習計画立案の支援に携わったが、継続的なフォローをできなかった学生がいたことや、全体の状況把握が充分でなかった点が自身の課題として挙げられる。そのため、全体と個別の状況の把握と支援を意識しながら、丁寧な個別相談に取り組み、今後も国家試験合格率の維持・向上に貢献していきたい。

河 内 康 文

Yasufumi KOCHI

○研 究 活 動

1．論 文 等

河内康文「Economic Partnership Agreement 介護福祉士の職業経験とキャリアに対する認識―EPA 介護福祉士・管理者に対するインタビュー調査に基づく分析」．『介護福祉教育』第 24 巻第 1 号・第 2 号．pp.85-94．2020 年 4 月．

河内康文「経済連携協定（EPA）介護人材をめぐる介護現場での経験の様相」．『社会福祉学』Vol.61-4 号．pp.100-113．2021 年 2 月．

河内康文・宮上多加子・田中眞希・笹村聡「中堅介護職員のコンピテンシーと職業経験の関連性」．日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック機関誌編集委員会発行．『中国・四国社会福祉研究』第 8 号．pp.15-27．2021 年 3 月．

2．競争的資金の獲得

（1）科学研究費補助金若手研究［2019 年度～2021 年度］「介護現場リーダーの越境的学習に基づく職場学習の実証研究－混合研究法に基づく分析－」（代表者：河内康文）

（2）科学研究費基盤研究［2017 年度～2021 年度］「中堅介護職員の循環型経験学習を促すメンタリングの様相」（代表者：宮上多加子）（研究分担者）

○教 育 活 動

1．介護の基本Ⅰ
2．介護の基本Ⅲ
3．コミュニケーション技術
4．介護総合演習Ⅰ
5．介護総合演習Ⅱ
6．介護総合演習Ⅲ
7．介護総合演習Ⅳ
8．介護実習Ⅰ
9．介護実習Ⅱ
10．介護実習Ⅲ
11．障害の理解Ⅱ
12．社会福祉専門演習Ⅰ
13．社会福祉専門演習Ⅱ
14．社会福祉専門演習Ⅲ
15．社会福祉専門演習Ⅳ

○委 員 会 活 動

1．介護人材確保事業部会委員長
2．学生委員
3．健康長寿センター（全学）

４．広報委員
５．社会福祉研究倫理審査委員会

○社 会 的 活 動

１.委員等

（１）いの町社会福祉協議会成年後見運営委員
（２）南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員
（３）高知市障害者計画等推進協議会　副会長
（４）高知県福祉人材センター・福祉研修センター運営委員会委員

２．講演等

（１）高校生と保護者のための公開講座　講師（高知県立大学池キャンパス　2020 年 8 月 9 日）
（２）高知県キャリア教育推進事業高校生講座　高知西高等学校:10 月 22 日（対面開催），中村高等学校（Zoom 開催）: 10 月 27 日.
（３）高知県社会福祉協議会　新人職員研修ステップ 1　講師「入職後の実践を振り返り専門職としての目標を考える」　2020 年 8 月 26 日,8 月 28 日（両日高知市）.
（４）高知県社会福祉協議会　新人職員研修ステップ 2　講師「入職後の実践を振り返り専門職としての目標を考える」（高知市 : 10 月 6 日,香南市 : 10 月 13 日,四万十市 10 月 29 日）

○総 合 評 価 及 び 今 後 の 課 題

１．教育活動について

担当科目は，学生の関心や年次,新型コロナウイルスの感染状況に応じて，遠隔リアルタイム双方向型，録画配信型，対面授業を実施した.

遠隔の特性を踏まえて，介護施設から利用者によるゲストスピーカーが実現した．新型コロナ禍で制限が多かったが，遠隔だからこそ可能な教育活動を模索していきたい.

２．研究活動について

研究分担者として科学研究費を活用した研究のまとめを報告した．また，代表者として科学研究費で取り組んでいる研究の量的調査を実施した．次年度は，代表者分の研究を遂行するとともに，今年度の調査結果をまとめていく予定である.

３．社会活動について

科学研究費で取り組んでいる研究成果を反映する場として，高知県社会福祉協議会が主催する「新人職員研修」「福祉人材確保セミナー」で講師をする機会が得られたり，研修を運営する委員会にも参加できたりした．また，高知市障害者計画に参画し，当事者や実践現場の現状が理解できた．高知県の福祉介護の課題に対して，少しでも貢献ができるように研鑽していきたい.

辻　真 美

Mami TSUJI

○研　究　活　動

1．論文

・宮上多加子・辻真美・笹村聡「訪問介護事業所におけるサービス提供責任者の職場学習」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』70，pp1-16.2021 年３月.

・辻真美・三好弥生・岡京子「介護従事者が利用者から受けるハラスメントに関する文献研究－ホームヘルパーに対するハラスメントの発生要因把握の手がかりとするために－」『Humanismus』32，pp61-74.2021 年３月.

2．著書

なし

3．学会発表

・辻真美・三好弥生・岡京子・荒川泰士・小松妙・川田麻衣子「ホームヘルプサービスにおける自立支援・重度化防止にむけた取り組みへの課題－サービス提供責任者の語り方からの分析－」第 25 回日本在宅ケア学会学術集会 Web 開催．抄録集（紙上発表）ｐ62.2020 年６月 27 日.

・辻真美・三好弥生「介護従事者側が利用者から受けるハラスメントに関する文献研究」第 28 回日本介護福祉学会大会 Web 開催．抄録集（紙上発表）ｐ65.2020 年 10 月 31 日.

4．競争的資金の獲得

・令和２年度～４年度 日本学術振興会科学研究費補助事業（若手研究）「ホームヘルパーが利用者から受けているハラスメントの実態と要因に関する研究」（研究代表者）

○教　育　活　動

・生活支援技術Ⅰ・社会福祉入門演習・社会福祉基礎演習・介護の基本Ⅱ・認知症の理解Ⅰ及びⅡ・コミュニケーション技術・社会福祉専門演習Ⅰ及びⅡ・介護総合演習Ⅰ・介護総合演習Ⅱ・介護総合演習Ⅲ・介護総合演習Ⅳ・介護実習Ⅰ・介護実習Ⅱ・介護実習Ⅲ・介護論（健康栄養学部）

○委 員 会 活 動

1．学部

・災害対策委員・健康長寿センター運営委員・国際委員・総務・予算委員会・学生委員会（23 期生学年担当）

○社 会 的 活 動

1．委員等

・南国市社会福祉協議会登録ヘルパー・日本介護福祉学会評議員・第 25 回日本在宅ケア学会学術集会企画委員・介護労働安定センター高知支部ヘルスカウンセラー・雇用管理改善サポーター，高知県福祉・介護人材確保推進協議会業務推進部会委員

２．講演等

・令和２年度高知労働局委託事業「介護分野における人材確保のための雇用管理改善推進事業」オブザーバー（2020 年６月８日）
・第 25 回日本在宅ケア学会学術集会 Web Live 配信によるワークショップ「人材不足を救う・補う『ノーリフティングケア』」座長（2020 年６月 27 日）
・メンタルヘルス研修講師ヘルパーステーションワンアップ「求められるヘルパー像」（2020 年６月 30 日）
・令和２年度労働局委託事業雇用管理改善サポーター「介護分野における人材確保のための雇用管理改善推進事業－地域ネットワークコニュニティ訪問型グループ」（2020 年７月７日,12 月 21 日),個別相談及び介護職のためのチームケア研修(2020 年９月９日，17 日)，利用者からのハラスメント研修（2020 年 10 月 13 日,19 日，11 月 27 日，通所型グループ（３月 18 日）
・メンタルヘルス個別相談及び研修・人材育成コンサルタント業務「利用者からのハラスメントにかかる相談」「人材確保・雇用状況にかかる相談」「利用者とその家族からのハラスメント対策」「研修計画」(2020 年７月 13 日，15 日，９月 15 日，10 月 20 日，12 月 16 日：遠隔，2021 年１月 19 日：遠隔，３月 23 日，26 日）
・ホームヘルパー連絡協議会四国ブロック大会（高知）トークセッション「みんなでこれからのヘルパー人材確保と育成を考えよう」(2020 年 10 月 31 日）
・高知県福祉研修センターケアテーマ別基本研修「レクリエーション」(2020 年 10 月 22 日，11 月５日，12 月３日）
・令和２年度厚生労働省委託事業介護労働者雇用管理責任者講習専門コース「利用者とその家族からのパワハラをみんなで考える」(2020 年 11 月 19 日）
・南国市社会福祉協議会ヘルパー定例会・研修（2020 年６月～10 月，１月，３月）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

振り返るとムードルやズームを活用した遠隔授業に戸惑い、苦戦し続けた１年であった。学部の先生方からのアドバイスのおかげで、なんとか担当する科目を遂行できたと痛感している。次年度に向けては、学年担当としての責務を果たせるよう、細部についても行貞先生と相談しながら進めていきたい。今だからこそ、人と人との相互作用から生まれる学生との関係性を大切にすることを意識していきたい。

２．研究活動について

科研１年目の研究計画が思うように進まず不安や苦悩があった。しかし、先生方の励ましや助言を受け、テーマの関係領域を含めた先行研究を整理・把握するなかで、次年度の聞き取り調査資料につながっていく知見を得られたと感じる。得られた研究成果は、現場の実践者にフィードバックできるよう、丁寧に分析を続けていくことを常に忘れず研究を進めていきたい。

３．社会活動について

コロナ感染拡大により延期や中止となった研修も多々あったが、一方で、遠隔による研修も初めて経験し、その可能性やメリットの部分も見えてきた。現場の疲弊を少しでも軽減できること、また、現場のニーズに沿った内容を目指していくことで住み慣れた地域で暮す利用者や家族介護者の生活の豊かさ、安心に繋げていきたい。このようなよい影響を与えることに少しでも貢献できる社会活動を目指していきたいと考えている。

行 貞 伸 二

Shinji YUKISADA

○研 究 活 動

1．論文

なし

2．著　書

行貞伸二「第 2 章 社会保障制度の基礎理解」志水幸監『社会福祉士養成基本テキスト 第 2 巻 福祉政策と実施体制』日総研、2020 年 4 月。

行貞伸二監『社会福祉士養成基本テキスト 第 3 巻 社会福祉制度社会保険制度』日総研、2020 年 4 月。

3．学会発表

なし

4．競争的資金の獲得

なし

○教 育 活 動

【担当科目］

・社会福祉史
・公的扶助論
・社会福祉基礎演習
・相談援助演習Ⅱ・Ⅳ
・社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ
・権利擁護論
・社会福祉入門演習
・相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
・相談援助実習

○委 員 会 活 動

1．全　学

共通教育専門委員会

入試監査委員会

2．学　部

・教務委員会
・学生委員会
・研究倫理審査委員会
・情報処理施設委員会

○社 会 的 活 動

［学外講師等］

・高知学園短期大学（「看護と福祉」担当）
・高知県社会福祉協議会 生活困窮者自立支援制度従事者初任者講習「生活困窮者自立支援制度の理念について～県内の動向や課題を交えて～」

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

（１）授業について

今年度は新型コロナウィルス感染症拡大への対応に終始した１年だった。

「社会福祉史」「権利擁護論」「公的扶助論」といった講義科目においては、原則として、遠隔授業の形式で行った。具体的には、MOODLE 上に授業のレジュメ、参考資料、講義内容を録音した音声ファイルをアップしておき、学生はレジュメおよび参考資料を確認しながら音声で授業を受講するという方法をとった。学生の理解を促すために例年利用している視聴覚教材を使うことができないなど、例年とは異なる実施方法を模索するといったことに加え、そもそも遠隔での円滑な授業運営自体に苦心することも少なくなかった。

これらの講義科目では、授業回ごとに MOODLE のフィードバック機能でリアクションペーパーを提出してもらい、学生個々の理解度を確認するばかりでなく、学生に対してコメントも行うなど双方向性に配慮し、また、授業内容や教授方法の改善にも役立てた。「社会福祉史」および「権利擁護論」は４回生配当科目であることから、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験への対応の観点から、MOODLE の小テスト機能を利用して国家試験の過去問に回答する小テストをほぼすべての授業回ごとに実施し、知識の定着に配慮した。

演習科目については、可能な限り対面での授業を心掛けた。その際には、事例を用いる、グループワークを取り入れるなど、学生の主体的学びを促すよう配慮した。また、学生個々の思いや到達度をつねに把握できるよう心掛けた。

また、今年度から担当している「権利擁護論」の授業研究の一環として、高知市社会福祉協議会主催の市民オンブズマン養成講座に参加し、市民オンブズマン活動の実態やその課題について学び、市民オンブズマン養成課程を修了した。

今後の課題として、授業内容や教授方法のブラッシュアップは永遠の課題であるが、とりわけ受講生が多い科目において、学生個々の態度や様子に常に目を配り、機敏に対応できるよう心掛けたい。

（２）学年担当について

今年度より、辻真美先生と 23 期生（1 回生）の学年担当を受け持つことになった。

入学式が開催できない、写真撮影ができない、バスハイクが実施できないなど、ないない尽くしで始まった１回生であったが、そうした状況、環境のなかでも大学生活へのスムーズな移行ができるよう最大限のサポートを行い、その思いで１年間継続した。

２．研究活動について

高知県における医療提供体制確立の経過を史的に分析する研究を進めた。

また、監修および分担執筆を行った書籍が４月に出版された。

今後の課題として、研究者ばかりでなく実践者とも共同研究を遂行できるようなネットワークづくりを進め、地域に貢献できる研究を行っていきたい。

３．社会活動について

社会福祉学部教員として社会に貢献できる活動を行いたい。

稲 垣　佳 代

Kayo INAGAKI

○研　究　活　動

（１）調査報告

・稲垣佳代、井上夏子、木太直人（2020）「地域移行支援における精神保健福祉士・社会福祉士のコンピテンシーに関する研究　－ニーズの掘り起こしに係るコンピテンー」『ソーシャルケアサービス研究協議会　報告書』.

・森克彦、稲垣佳代、岩瀬敏彦ほか（2020）「精神保健福祉士の就労支援に関する意識調査」『精神保健福祉』51(3),284-291.

（２）学内外の競争的資金の獲得状況

・高知県立大学戦略的研究プロジェクト推進費による活動「高幡保健医療圏における精神障害に対応した包括的支援マネジメントモデルの開発」（研究代表者：瀧めぐみ、研究分担者：田井雅子、藤代知美、小原弘子、稲垣佳代）

○教　育　活　動

（１）講義

・精神保健福祉援助技術各論
・精神保健福祉援助演習
・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ
・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
・就労支援サービス

（２）講義以外

・国家試験受験生への学習支援
・太鼓部顧問

○委 員 会 活 動

・実習委員会
・入試委員会
・国試対策支援委員会
・入試広報部会

○社 会 的 活 動

・日本精神保健福祉士協会「就労・雇用支援の在り方検討委員会」委員
・日本精神保健福祉士協会　課題別研修／ソーシャルワーク研修 2020　講師
テーマ「その就労・雇用支援、ソーシャルワークと言えますか？
～ソーシャルワーク視点に基づく就労・雇用支援の実践～」
・日本ソーシャルワーク教育学校連盟　2020 年度社会福祉士・精神保健福祉士全国

統一模擬試験「国家試験合格支援委員会」　委員
・高知県精神医療審査会　委員
・高知医療学院　非常勤講師（「社会福祉学」担当）
・特定非営利活動法人　就労サポートセンターかみまち　監事
・高知県立大学同窓会しらさぎ会　理事

○総合評価と今後の課題

（１）教育活動について

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大によって遠隔授業となった期間もあり、試行錯誤の１年となった。大学内のネット環境も整わず、ZOOMによる遠隔授業を実施していても途中でネットワークが不安定となり、画面がフリーズしたり ZOOM ミーティングから自動的に退室してしまうといったことも日常的であった。教員だけでなく、学生にとっても大変なストレスを抱えながらの遠隔授業であったと思われる。一方、精神保健福祉援助実習では、受け入れ不可や中断となる実習先もあったが、他の機関で受けてもらうことができ、無事全員が実習を終えることができた。実習生の受け入れにあたり、例年以上に調整等尽力いただいた指導者の皆さまに心から感謝を申し上げたい。

また、本年度は理学療法士を養成する専門学校の非常勤講師として「社会福祉学」を担当した。これまで本学では精神保健福祉士養成コースの教員として、主に２階部分（精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得希望の学生は、社会福祉士国家試験受験資格の指定科目の履修を前提としており、これが土台としての１階部分となる）を担当してきたため、改めて自分自身が「社会福祉学」の学びを深める機会となった。

（２）研究活動について

今年度は、就労・雇用のあり方検討委員会の活動の一環として昨年度に実施したアンケート調査を報告書にまとめ、機関紙に投稿した。また、講師を務めたソーシャルワーク研修でもその調査結果を取り上げ、ソーシャルワークアセスメントについての講義を行った。「調査を実施して終わり」ではなく、それをソーシャルワーク実践に還元していくという流れを一定踏むことができたと考えている。

さらに、外部の研究会の一員として地域移行支援に係る調査を実施し、それも報告書にまとめることができた。ここ数年は共同研究の機会が増え、他の研究者や調査協力者であるソーシャルワーカー等から多くのことを学ぶ機会となっている。

（３）今後の課題

次年度も新型コロナウイルスの感染状況によって授業や実習等に影響が出る可能性があるため、今年度の経験を活かし、さまざまな想定やリスク管理をしながら進めていきたい。体調管理や感染症対策にも気を配り、コロナ禍でもさまざまな工夫をしながら教育・研究活動および社会的活動に取り組んでいく。

大 熊　絵 理 菜

Erina OGUMA

○研 究 活 動

１．論文・報告書・著書・発表

・なし

○教 育 活 動

・相談援助演習Ⅲ　・相談援助実習指導Ⅰ　・相談援助実習指導Ⅲ

・医療ソーシャルワーク論

○委 員 会 活 動

・学部実習委員会

・学部国試対策支援委員会

・学部総務・予算委員会

・学部広報支援委員会

・学部学生委員会（22 期生学年担当）

・医療センター連携事業

○社 会 的 活 動

１．学外講師等

・学校法人すみれ学園　高知福祉専門学校非常勤講師（「相談援助の理論と方法Ⅱ」担当）

○総 合 評 価 及 び 今 後 の 課 題

１．教育活動について

担当していた講義がコロナの影響を受け，全てオンラインで行うこととなり，講義の方法に苦戦した．オンラインでの講義を学生がどのように理解して学んでいるかについて，リアクションペーパーのみから理解するのは大変であった為，Zoom や電話等で学生との対話も試みたが，非言語の情報を認識することが難しかった．前期の途中から産前休暇に入るために，担当していた講義を前倒しして行うなど，学生の負担も大きかったのではないかと考えている．

２．学年担当について

今年度も引き続き 22 期生（２回生）の学年担当となった．毎年，大松先生と分担して，学生との個別面談を実施していたが，今年度はコロナの影響を受け実施できなかった．

履修についての指導が必要な学生には，電話連絡やメールを行った．また学生の中には，オンライン授業についていけない者もおり，その学生自身と相談しながら対応したが，単位取得に至らなかった学生もいた．育児休業中の学年担当は，三好先生に引継ぎを行った．

３．研究活動について

今年度は，前期の途中から産前休暇に入ったため行えていない．

４．社会活動について

今年度は，高知県医療ソーシャルワーカー協会の理事を退任したが，大松先生が理事に就任してくれたため，引き続き協会とのつながりを持つことができた．今年度は，教会活動への参加が難しかったが，次年度はできる限り参加や協力を行いたい．

片 岡　妙 子

Taeko KATAOKA

○研　究　活　動

1．論文

三好弥生・片岡妙子・武富純子「終末期に至る高齢者の食事摂取困難タイプ別ケアの基本と介助方法」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』第 70 巻，pp. 77-85，2021 年 3 月

2．学会発表

なし

3．学内外の競争的資金の獲得状況

平成 30 年度～令和 2 年度　日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C））「『演じる行為』に着目した介護の実践価値生成と共有化－職場学習論に基づく分析－」研究分担者（研究代表者：田中眞希）

○教　育　活　動

1．担当科目

・介護総合演習Ⅰ
・介護総合演習Ⅱ
・介護総合演習Ⅲ
・介護総合演習Ⅳ
・介護実習Ⅰ
・介護実習Ⅱ
・介護実習Ⅲ
・医療的ケアⅠ
・医療的ケアⅡ
・介護過程Ⅳ
・生活支援技術Ⅲ
・介護技術

2．学生支援

第 20 期生学年担当

○委 員 会 活 動

・学部実習委員会
・学部健康長寿センター委員
・学部入試委員会
・学部学生委員会
・学部国試対策支援委員会
・就職委員会

○社 会 的 活 動　　なし

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

去年に引き続き，20 期生の学年担当を行った．今年度は学生が 4 回生となり，これまでの履修状況に関するサポートだけでなく，就職活動や国家試験対策を中心に支援を行った．新型コロナウイルス感染症対策のため，学生が大学内に集まる機会が少なく，学生全体への周知等が不十分であり，学生が困惑することが多かったのではないと感じている．学部内の先生方と学生の状況を共有しながら，zoom 等も活用し個別に対応して指導を行った．例年とは違う形で最終年度を迎えたこともあり，卒業に係る履修状況に懸念がある学生には特に注視して連絡を取るように心掛けた．

介護福祉に関する担当科目では，新たに「介護の基本」が加わった．介護福祉士を目指す上で中心となる要素が多く含まれている科目であり，これを担当することで，自分自身にとっても学びとなった．また，遠隔授業を取り入れてたことにより授業に関する資料の作成に時間を要したが，質は向上できたように感じている．今後も，担当科目において，学生の学びを深められる授業準備を進めていきたい．

２．研究活動について

三好先生と共同研究を行い，高知県立大学紀要社会福祉学部編に投稿を行った．また，田中眞希先生が代表者である日本学術振興会科学研究費補助事業の研究について，研究分担者として今年度は調査を実施することができた．競争的資金の期間は今年度で終了となるが，次年度も調査を継続し，田中眞希先生との共同研究を進めていく予定である．

３．委員会活動

健康長寿センターによる「リカレント教育講座」が，感染症対策のため YouTube チャンネルによる WEB 配信での開催となった．初めての試みであり，準備には戸惑いもあったが，動画再生回数もよく高評価により視聴期間を延長することとなった．当初，新型コロナウイルス感染症により講座の開催は無理と思われていたが，できる形で何かしらの取り組みを行うとの委員の先生方の考え方により，今回の講座が開催できた．今後も既成概念にとらわれることなく，様々な方法を柔軟に取り入れ活動を行っていきたい．

４．社会活動について

昨年度来まで担当していた高知県介護職員等喀痰吸引等研修事業が，今年度より県委託を廃止となり，学外での活動を行うことが無かった．次年度以降は，新たな方面で社会的活動に参加できるよう取り組んでいきたい．

雑 賀　正 彦

Masahiko SAIKA

○研　究　活　動

（１）論文・報告書・学会発表

・なし

（２）学内外の競争的資金獲得状況

・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））「参加型評価アプローチによる小地域を基盤とした「地域福祉形成力」評価モデルの開発」（令和２年～令和５年）
研究分担者（研究代表：佐藤哲郎）

○教　育　活　動

（１）担当科目

・「ケアマネジメント論」・「ケアマネジメント演習」・「高齢者福祉論Ⅱ」
・「コミュニティソーシャルワーク」・「チームアプローチ」・「地域学実習Ⅰ」
・「相談援助実習指導Ⅰ」・「相談援助実習指導Ⅱ」・「相談援助実習指導Ⅲ」
・「相談援助演習Ⅲ」・「相談援助演習Ⅳ」・「相談援助実習」

（２）クラブ活動

・なし

○委 員 会 活 動

・学部実習委員・国家試験対策委員
・学部キャリア支援委員・学部広報委員・学部防災委員

○社 会 的 活 動

（１）委員等

・日本地域福祉学会 地方委員
・高知県地域福祉活動支援計画策定委員会　副委員長
・高知県地域福祉活動支援計画推進委員会　副委員長
・高知県市町村社会福祉協議会連絡会　CSW 養成研修企画会　委員
・土佐清水市社会福祉協議会権利擁護センター　アドバイザー
・土佐町社会福祉協議会　地域福祉活動計画評価委員会　オブザーバー
・和歌山県社会福祉士会 監事
・和歌山県介護支援専門員 指導者、法定研修運営委員委員会委員

（２）学外講師等

・学校法人龍馬学園　龍馬看護ふくし専門学校　非常勤講師（「現在社会と福祉」）
・近畿大学九州短期大学通信教育部保育科　非常勤講師（「相談援助演習」）
・三好市社会福祉協議会　地区住民福祉協議会リーダー研修会　講師
「第三次地域福祉活動計画は、進んでいますか？～コロナ禍で考え行動する」
三好市池田総合体育館　サブアリーナ（ZOOM），2021 年 3 月 9 日

・高知県社会福祉協議会　介護支援専門員専門課程Ⅰ研修　講師
「対人個別援助技術と地域援助技術」
高知県立ふくし交流プラザ，2021 年 1 月 23 日
・高知市社会福祉協議会　事例検討会　講師
「地域支援事例の検討」
高知市社会福祉協議会　西会議室，2021 年 1 月 13 日
・和歌山県介護支援専門員協会　主任介護支援専門員研修　講師
「地域福祉援助技術」
県民交流プラザビッグ愛 801・802，2020 年 10 月 7 日・8 日
・徳島県介護支援専門員協会　主任介護支援専門員研修　講師
「地域福祉援助技術」
アスティとくしま第 2 特別会議室，2020 年 9 月 10 日・11 日
・あったかふれあいセンター職員コーディネーター研修　講師
「地域共生社会に向けたあったふれあいセンターの役割」
ふくし交流プラザ 2 階多目的ホール，2020 年 8 月 19 日
・高知県市町村社会福祉協議会職員研修　講師
「コニュニティソーシャルワーカー養成基礎研修」
ふくし交流プラザ 2 階多目的ホール等，2020 年 8 月 19 日、2020 年 8 月 19 日
・高知県市町村社会福祉協議会職員研修　講師
「コニュニティソーシャルワーカー養成実践研修」
こうち男女共同参画センターソーレ大会議室等，2021 年 3 月 3 日、24 日

○総合評価及び今後の課題

1．教育活動について

講義・演習科目については事例を活用し理解が促進できるよう工夫した。また、グループワークやリアクションペーパー、映像教材を用い「見える化」等を行い、主体的に学べるよう心掛けた。来年度はより主体的に学習できよう教材を工夫し理解を深めれるようにしたい。

2．研究活動について

今年度はコロナ禍であり、十分なフィールド調査も行えず、研究活動としては不十分であった。次年度は、コロナ禍ではあるが調査分析及び共同研究、個人研究にも積極的に取り組みたい。

3．委員会活動

委員会活動については、コロナ禍のため活動に制限があったが、防災委員として避難所運営を担当した。訓練の縮小に伴いマニュアル確認が中心だったが、参加教職員の協力によりスムーズに行えた。次に、キャリア支援委員としては卒業生等へのアンケート調査の準備等を担当し、国家試験対策委員としては個別面談を担当した。最後に、広報委員としては、学生の活動制限されているため、学部行事等の撮影及びホームページへの掲載が不十分であった。

次年度に向けて、コロナ禍ではあるが、各委員として役割遂行をスムーズに行えるようにしたい。また、相談援助実習のコース助教主担当としては新カリキュラムに基づく実習となり、実習日数も増えるため、効率的に業務遂行できるよう工夫したい。

4．社会活動について

高知県社会福祉協議会における市町村向け研修講師を担当したことで、市町村社会福祉協議会との関係性が深まった。このことを実習受入れ協力などの教育活動及び研究活動にもつなげたい。

田 中　眞 希

Maki TANAKA

○研　究　活　動

1．論文

・田中眞希・宮上多加子(2021)「障害者入所施設の介護職員における『演じる行為』の特徴」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』70,61-75.

・河内康文・宮上多加子・田中眞希・笹村聡（2021)「中堅介護職員のコンピテンシーと職業経験の関連性」『中国・四国社会福祉研究』8,15-27.

2．著　書

なし

3．学会発表

なし

4．競争資金の獲得

・平成 30 年度～令和 2 年度 日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C)）「『演じる行為』に着目した介護の実践価値生成と共有化―職場学習論に基づく分析―」(研究代表者)

5．その他

・田中眞希（2021)「介護が必要な人についての理解を深める」『高知県隣保館職員等研修事業 人権課題別研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』高知県隣保館連絡協議会，57－75.

○教　育　活　動

・障害の理解Ⅰ
・生活支援技術Ⅰ　　・生活支援技術Ⅱ
・生活支援技術Ⅲ　　・生活支援技術Ⅳ
・介護総合演習Ⅰ　　・介護総合演習Ⅱ
・介護総合演習Ⅲ　　・介護総合演習Ⅳ
・介護実習Ⅰ　　・介護実習Ⅱ
・介護実習Ⅲ　　・高齢者福祉論Ⅱ

○委 員 会 活 動

・学部総務・予算委員会
・学部実習委員会
・学部国試対策委員会
・学部介護人材確保事業部会

○社 会 的 活 動

1．委員等

・社会福祉法人ミレニアム　障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員
・高知県介護福祉士会　介護福祉士実習指導者講習会研修企画委員会委員

・公益財団法人ひかり協会　高知県地域救済対策委員

２．学外講師等

・令和２年度 介護福祉士実習指導者講習会「実習指導の理論と実際」講師（2020 年 11 月 26 日）
・高知工科大学「介護等体験事前指導」講師（2020 年 3 月 3 日）
・学部リカレント研究会事業「介護コース卒業生を対象とした事例検討と情報交換会」（2020 年 9 月 10 日，2021 年 3 月 15 日）
・高知県キャリア教育推進事業高校生講座　高知商業高等学校：2020 年 8 月 24 日，高知南高等学校：2020 年 9 月 25 日
・高知県キャリア教育推進事業　高校生のための Web EVENT 第 4 弾「認知症を地域で支える」（2021 年 3 月 22 日）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で，遠隔授業への切り替えなど手探り状態で，全ての授業準備が例年のようにはいかず，とても大変な 1 年であった．ようやく Moodle や Zoom を用いた授業に慣れることができたので，感染状況などにより臨機応変に活用したいと考えている．一方で，遠隔授業の影響によるものと考えられる，課題提出の遅延や心理状態の変化など学生個々の課題に早めに気づくのが難しいことがあり，それらの点は他の先生方と情報共有しながら，気をつけて取り組みたいと感じている．

介護コース卒業生を対象とした学部リカレント研究会では，Zoom を用いた遠隔での実施を 9 月に行った．県外の卒業生や小さい子供がいる場合も気軽に参加でき，参加者から好評であった．一方で，大学生に比べると Zoom を用いる機会がなく，慣れていないことが分かったため，案内の際にもう少し詳細に説明するなどの工夫が必要である．

２．研究活動について

一昨年度，昨年度に実施した障害者支援施設の介護職員への調査結果をまとめ，公表することができた．しかし，今年度計画していた高齢者施設の介護職員への調査は，予定の調査数を実施することができなかった．次年度は，今までの調査結果を踏まえ，障害者施設の介護職員へのより詳細な調査と参与観察や利用者及び他職種への調査を実施する予定である．

３．社会活動について

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で，研修や会議なども一部遠隔で実施するなど，事前の準備や連絡が例年以上に必要で，時間と労力を要した．

今年度より，介護人材確保事業部会で実施する高知県キャリア教育推進事業を担当し，高校生に向けた講座を担当した．慣れない仕事内容で迷惑をかけることも多々あったと思うが，他の先生方や担当部署の事務局担当者にサポートいただき，何とか実施することができた．

玉 利　麻 紀

Maki TAMARI

○研　究　活　動

競争的資金の獲得

科学研究費補助金（基盤研究（C）、課題番号：19K02191、2019-2021 年度）
　研究代表者：玉利 麻紀
　研究課題名：社会的マイノリティへの偏見軽減要因の探索～無関心という壁を越えるために～

○教　育　活　動

1.　担当科目
　1）精神保健福祉援助実習指導Ⅰ
　2）精神保健福祉援助実習指導Ⅱ
　3）精神保健福祉援助演習
　4）精神保健福祉援助実習Ⅰ
　5）精神保健福祉援助実習Ⅱ
　6）心理学理論と心理的支援
　7）就労支援サービス
　8）対人関係とメンタルヘルス（前期・永国寺キャンパス）
　9）対人関係とメンタルヘルス（後期・池キャンパス）

2.　学生支援
- 第 21 期生 学年担当
- 実習支援：精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの配属実習に向け、実習の動機と課題、及び、実習計画の作成のための個別指導を行った。
- 地域学実習Ⅱ：1 グループを担当
- 国家試験受験生への学習支援

○委 員 会 活 動 等

- 学部情報処理委員
- 学部 FD 委員
- 学部教務委員
- 学部広報委員会
- 学部実習委員
- 学部国試対策支援委員
- 学部学生委員

○社 会 的 活 動

1.　委員等
- 高知県精神保健福祉協会　研修委員
- 介護労働安定センター　高知支部　ヘルスカウンセラー

2. 講演等

- 高知県立大学 出前講座「それってほんとに『できない』の？―発達障がい者支援が教えるヒント―」 講師（10 月 21 日、2 回）
  場所：高知県立安芸高等学校
- 高知県立大学 出前講座「ストレスとつきあうコツ」 講師（11 月 11 日）
  場所：高知県立北高等学校
- 令和 2 年度 高知県精神保健福祉士協会 研修会 「リカバリーカレッジについて知ろう」講師（11 月 9 日、オンライン開催）
- 介護労働者雇用管理責任者講習（令和 2 年度厚生労働省委託事業） 専門コース「メンタルヘルス ～休職から復帰まで 休職中の職員とのかかわり方、リワーク」講師（11 月 19 日）
  主催：公益財団法人介護労働安定センター 高知支部
  場所：こうち男女共同参画センター ソーレ
- 令和 2 年度 精神保健福祉従事者リフレッシュ研修「変わった人がつぶされない社会にするために」（1 月 14 日、オンライン開催）
  主催：高知県精神保健福祉協会・研修委員会

3. 健康福祉・文化への貢献

- 社会福祉学部 教員向け Moodle 講習会 実行委員 兼 講師（4 月 17 日、教務委員会・FD 委員会共同開催、場所：情報演習室）
- 社会福祉学部 学生向け キャリア支援「自分のキャリアを考えよう！シリーズ 第 1 弾『家裁調査官』」コーディネーター（11 月 30 日→12 月 14 日へ延期、オンライン開催）
- 社会福祉学部 学生向け キャリア支援「自分のキャリアを考えよう！シリーズ 第 2 弾『コロナ禍における就職活動』」サブコーディネーター（12 月 7 日、オンライン開催）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

今年度は計 9 講義を担当した。COVID-19 の感染拡大により、今年度は急遽、全学的に講義のオンライン化が求められたが、これまでの数年間における Moodle 等の学習支援ツールの活用が功を奏し、担当講義については大きな混乱なく実施することができた。また、オンラインツールの使用に関し、微力ながらも、学部内教員のサポートを担当させていただいた。専門家でもなく、これまで積み上げてきた個人的な経験がベースであったため、自信はないながらも、教務課に相談に乗っていただき、マニュアルの読み込みを重ね、各教員が見つけた工夫などについても教えていただきながら、学部全体で学生の学びを止めることなく年度を終えることに貢献できたと思う。

担当科目においては、オンラインでも学生が高い動機づけを持って学習に取り組めるよう、内容を工夫した。授業評価における学生からのコメントも概ね好評であり、担当する講義科目の質は向上したと考えている。一方で、演習科目における双方向型のオンライン授業や、Moodle の機能を利用したテストの実施には課題が残っている。さらに、学生の相談への速やかな対応も課題である。オンライン期間は学生の状況が見えにくくなるため、困難を抱える学生を見つけて対応することには難しさを感じた。今年度は、他教員からの情報により、急激な変化へ不適応を起こしている学生を見つけることができたため、今後も他の教員との円滑な交流を心がけたい。

2. 研究活動について

今年度は COVID-19 の影響により、実験や調査の実施が難しく、研究が実施できなかった。そのため、研究実施の方策や計画を柔軟に変更し、少しでも前に進めるよう、努力したい。

福 田　敏 秀

Toshihide FUKUDA

○研　究　活　動

1．論文

・竹崎久美子・坂元　綾・塩見理香・西内舞里・原田圭子・福田敏秀「南海トラフ地震に備えた福祉エリア設営ガイドラインの開発」『高知県立大学紀要看護学部編』第70巻，pp.23－31，2021年3月.

2．学会発表

・福田 敏秀・浦上 克哉「在宅高齢者の認知機能と家族介護負担感に関する11年間の追跡研究－タッチパネル式認知機能評価法（TDAS）を用いて－」第21回日本認知症ケア学会大会（動画配信（WEB配信），2020年6月.

・福田 敏秀・浦上 克哉「認知機能変化を長期追跡できた在宅高齢者の事例分析と支援に対する検討－11年間のTDAS調査を用いて－」第35回老年精神医学会（WEB開催），2020年12月.

・李　傑、横井輝夫、三好弥生、渡邊浩幸、福田敏秀「言葉を失った重度アルツハイマー病者の行動を理解する視点」第39回日本認知症学会，（名古屋），2020年11月.

○教　育　活　動

・高齢者福祉論Ⅰ　・チームアプローチ　・対人関係とメンタルヘルス
・相談援助実習指導Ⅰ　・相談援助演習Ⅰ　・相談援助実習指導Ⅱ
・相談援助演習Ⅱ　・相談援助実習指導Ⅲ　・相談援助演習Ⅲ
・相談援助演習Ⅳ　・相談援助実習　・地域学実習Ⅰ

○委 員 会 活 動

・学部教務委員会　・学部実習委員会　・学部国試対策支援委員会
・学部キャリア支援委員会　・学部健康長寿委員会　・学部介護人材確保事業部会

○社 会 的 活 動

1．委員等

・日本認知症予防学会　代議員　・日本認知症ケア学会　代議員
・高知市介護保険施設等整備事業者審査委員会委員長
・鳥取県介護支援専門員連絡協議会西部支部理事
・公益財団法人介護労働安定センター　雇用管理改善サポーター・雇用管理改善企画委員・ヘルスカウンセラー・介護人材育成コンサルタント
・高知大学　医学部看護学科　非常勤講師

2．学外講師等

・令和2年度介護支援専門員実務研修（鳥取県社会福祉協議会）講師「第3章　相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎」（2021年1月9日）
・令和2年度鳥取県介護支援専門員連絡協議会研修会（鳥取県介護支援専門員連絡協議会）講師「ケアマネジャーが行う家族アセスメントの視点　パート２」（2021年2月20日）
・令和2年度ケア基本研修会（高知県社会福祉協議会）「メンバーシップ研修」（2020

年 10 月 9 日，11 月 9 日，2021 年 3 月 11 日）

・ヘルスカウンセラー集団型(研修)（介護労働安定センター）講師「認知症ケア」(2020 年 7 月 13 日)、「みんなで考える認知症ケア　認知症介護におけるストレス研修」(2020 年 9 年 29 日)、「認知症ケア　認知症介護におけるストレス研修」(2020 年 10 月 5 日)

・ケアサポート講習（介護労働安定センター）講師「認知症ケア」(2020 年 6 月 1 日)、「虐待防止～身体拘束、不適切ケア～」(2020 年 8 月 20 日)、「虐待、不適切ケアをみんなで考える」(2020 年 8 月 25 日，26 日)、「虐待防止・事例検討」(2020 年 12 月 18 日)、「身体拘束と虐待」(2021 年 2 月 16 日)

・雇用管理改善サポーター個別相談支援（研修）（介護労働安定センター）講師「認知症ケア」(2020 年 7 月 10 日)、「デイサービスでの虐待について～虐待・不適切ケアをみんなで考える～」(2020 年 10 月 12 日)、「認知症ケア　認知症介護におけるストレス研修」(2020 年 10 月 26 日)、「身体拘束と不適切ケア」(2020 年 11 月 18 日)、「権利と擁護について ～虐待・不適切ケアをみんなで考える～」(2020 年 11 月 20 日)、「虐待・身体拘束について」(2020 年 11 月 30 日)、「虐待・不適切ケアについて」(2021 年 1 月 18 日)、「身体拘束と虐待」(2021 年 3 月 3 日)

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため遠隔授業が多く、講義科目では主に音声付きスライドを作成し教材として用いた。授業ごとに設けたコメント欄や設問の回答から、受講時の不具合や理解度を把握し進めるよう心がけた。演習科目は個人ワーク中心となり、学生同士で意見交換し考察を深め合う場が十分設けられなかった。今後は、どの様な状況でもより充実したプログラムを柔軟に行えるよう準備に努めたい。実習科目は、実習計画書の作成段階から遠隔指導となり、さまざまな事態を想定した準備が求められた。そのような中、ひた向きに実習準備に取り組む学生の姿が印象的だった。そして、配属実習では、指導者の方はじめスタッフ皆様の熱心なご指導とご協力により、学生たちは、例年同様、実り多い実習を終えることができた。実習施設、機関の方々には心より感謝申し上げたい。

また、今年度、リカレント教育講座を担当し、YouTube 配信コンテンツを作成した。SNS 動画を初めて作成し、自身の力量不足からその難しさを痛感したが、こういったスキルは、今後、より必要になると思われる。精度を上げて行けるよう技術向上に取り組みたい。

２．研究活動について

継続研究として行ってきた、在宅高齢者の家族介護負担感に関する追跡調査を基に学会発表を行った。また、今年度、この追跡研究に関連したフォローアップ調査も行えた。今後、これらのデータ分析を通して、実践現場に役立つ成果を追求して行きたい。

３．社会活動について

今年度も引き続き、高知県、鳥取県において、主に介護・福祉専門職へ高齢者虐待や認知症、家族介護者支援といったテーマで研修講師の機会が得られ、実践者支援に携われた。また、行政等の委員会にも委員やアドバイザーといったかたちで参加させて頂いた。今後も専門職や行政等の課題に関われ、少しでも貢献できるよう研鑽を重ねたい。

Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動
（委員会活動年度報告書）

2020年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

全学	学部	構成メンバー					
地域教育研究センター		遠山 真世					
全学プロジェクト	災害対策	辻 真美	長澤 紀美子	雑賀 正彦			
	大学教育改革	宮上 多加子	長澤 紀美子				
	職業実践育成プログラム(BP)	大松 重宏					
	人事関係検討会	宮上 多加子	杉原 俊二	田中 きよむ	長澤 紀美子	西内 章	丸山 裕子
		横井 輝夫					
	自己点検・評価運営委員会	宮上 多加子	杉原 俊二	長澤 紀美子	西内 章	横井 輝夫	
	倫理審査委員会	田中 きよむ	丸山 裕子	遠山 真世	河内 康文	行貞 伸二	
	実習委員会	西内 章（実習委員長）	西梅 幸治（社会福祉士コース主担当）	鈴木 孝典（精神保健福祉士コース主担当）	三好 弥生（介護福祉士コース主担当）	加藤 由衣（室長）	雑賀 正彦（社福 助教リーダー）
		稲垣 佳代（精神 助教リーダー）	田中 眞希（介護 助教リーダー）	大熊 絵理菜	片岡 妙子	玉利 麻紀	福田 敏秀
	総務・予算委員会	西内 章	宮上 多加子	西梅 幸治	辻 真美	田中 眞希（助教リーダー）	大熊 絵理菜
	国試対策支援委員会	西梅 幸治	加藤 由衣	稲垣 佳代（助教リーダー）	大熊 絵理菜	片岡 妙子	雑賀 正彦
		田中 眞希	玉利 麻紀	福田 敏秀			
教務委員会		横井 輝夫	西内 章	三好 弥生	行貞 伸二	福田 敏秀（助教リーダー）	玉利 麻紀
FD委員会		丸山 裕子	玉利 麻紀				
キャリア支援委員会		西梅 幸治（全学）	田中 きよむ	加藤 由衣	雑賀 正彦	福田 敏秀	
研究倫理委員会		宮上 多加子					
研究活動不正防止委員会		宮上 多加子					
入学試験委員会		宮上 多加子	長澤 紀美子				
入学試験実施委員会		福間 隆康	遠山 真世	加藤 由衣	稲垣 佳代（学部入試委員）	片岡 妙子（学部入試委員）	
大学入試センター試験実施委員会		遠山 真世					
入学試験監査委員会		田中 きよむ	行貞 伸二				
学生委員会		大松 重宏	福間 隆康	三好 弥生	河内 康文	辻 真美	行貞 伸二
		大熊 絵理菜（ボランティア担当）	片岡 妙子	玉利 麻紀			
就職委員会		福間 隆康	片岡 妙子				
広報委員会	広報委員会	鈴木 孝典	河内 康文	雑賀 正彦（助教リーダー）	大熊 絵理菜	玉利 麻紀	
	入試広報部会	遠山 真世	西内 章	丸山 裕子	鈴木 孝典	三好 弥生	稲垣 佳代
総合情報センター	図書部会 情報処理部会	杉原 俊二（図書）	行貞 伸二（情報）	玉利 麻紀（助教リーダー）	大熊 絵理菜		
国際交流センター運営委員会		田中 きよむ	長澤 紀美子	辻 真美			
人権委員会		杉原 俊二					
紀要委員会		西内 章					
健康長寿センター運営委員会		河内 康文	辻 真美	片岡 妙子（助教リーダー）	福田 敏秀		
退院支援事業		大松 重宏					
介護人材確保事業部会		河内 康文	三好 弥生	田中 眞希	福田 敏秀		
医療センター連携事業 健康長寿・地域医療連携部会		宮上 多加子					
医療センター連携事業 看護・社会福祉連携部会		宮上 多加子	丸山 裕子	大松 重宏	大熊 絵理菜		
健康管理センター運営委員会		加藤 由衣					
大学院（M）	講義	宮上 多加子（講義＋主査）	杉原 俊二（講義＋主査）	田中 きよむ（講義＋主査）	長澤 紀美子（講義＋主査）	西内 章（講義＋主査）	丸山 裕子（講義＋主査）
		横井 輝夫（講義＋主査）	鈴木 孝典（講義＋主査）	西梅 幸治（講義＋副査）	福間 隆康（講義＋副査）	三好 弥生（講義＋副査）	
	委員会	宮上 多加子（教務）	杉原 俊二（学位審査）	田中 きよむ（図書）	長澤 紀美子（研究科長）	横井 輝夫（学務）	鈴木 孝典（入試）
		西梅 幸治（学生）	三好 弥生（広報）				
大学院（D）	講義	宮上 多加子（講義＋主査）	杉原 俊二（講義＋主査）	長澤 紀美子（講義＋主査）			
	委員会	宮上 多加子（学務）	杉原 俊二（入試）	長澤 紀美子（研究科長）			

：全学委員

一重下線　：学部委員長

教　務　委　員　会

横井　輝夫

2020年度の教務委員会は、西内　章教授、三好弥生准教授、行貞伸二講師、玉利麻紀助教、福田敏秀助教、横井の６名体制であった。１年間の活動内容は次の通りである。

１．教務委員会の開催

2020年度は、通常の審議・協議事項である非常勤講師や予算などの教務関連業務以外に、新型コロナウィルス感染予防のための授業方法の検討と新カリキュラム作成が、教務委員会の業務の重要課題となった。特に新型コロナウィルスへの対応は緊急を要した。以下に、審議、協議した項目と概要を示した。

２．新型コロナウィルス感染予防のための授業

新型コロナウィルスへの感染予防のため、2020 年度は授業の開始が約２週間延期され、４月 20 日から Moodle や Zoom を使用した遠隔授業の方法で開始された。次第に対面授業も可能になっていったが、前期は遠隔授業が中心であった。後期は対面授業を中心に進められたが、新型コロナ感染症者の全国的な増加時は、遠隔授業に切り替えられた。

３．カリキュラムの改正

西内　章教授を中心に、2021年度から開始する社会福祉士、精神保健福祉士の新カリキュラムを作成し、厚生労働省に提出した。提出した新カリキュラムは、2021年３月に厚生労働者から認可を受けた。今後４年間をかけて現行カリキュラムから新カリキュラムに移行していく。

４．2021年度科目担当者の検討

2020年度の担当科目をもとに、教員の教育歴と研究領域、そして担当科目数と担当時間を考慮して2021年度の担当科目を協議・検討した。

５．卒業研究論文発表会の開催

卒業研究論文発表会も新型コロナウィルスの影響を大きく受けた。４月 22 日（水）に予定されていた卒論構想発表会は中止した。卒論中間発表会（10 月 28 日）は、三密を避けるためポスター発表からパワーポイントスライド発表に切り替えて実施した。また卒論発表会はパワーポイントスライドを Moodle にあげる方法で2021年２月に実施した。

３回生の卒業研究論文の「仮テーマ」は2020年１月に提出された。なお、卒論指導教員の学部外教員の希望の有無を確認したが、学部外教員を希望する学生はいなかった。『卒業研究論文執筆のてびき』は2021年２月に作成し、３回生に配布した。

６．2021年度のゼミ配属についての調整

例年通り、12月に『社会福祉専門演習選択資料』を作成し、２回生へ配布した。新型コロナの影響で、ゼミを遠隔で実施している場合もあり、ゼミ見学も一部制限を受けた。ゼミ希望をとった上で、16 人の教員が担当する 2021 年度の「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」のゼミは、１ゼミあたり上限６名を目安として調整した。

７．学習到達度調査の実施

新型コロナ感染の影響もあり、今年度は２月にMoodle上で卒業予定者（20期生）を対象に「学習到達度調査」を実施した。この調査項目は、ディプロマポリシーで目指す「知識・理解」「汎用性・実践的技能」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」の４つのカテゴリーから構成され、この４つのカテゴリーはそれぞれ８項目、計32項目からなる。そして各項目は「全く理解できなかった」、「あまり理解できなかった」、「概ね理解できた」、「理解できた」の４件法で回答をもとめるものである。今回の調査への回答では、「概ね理解できた」、「理解できた」を合わせると93％であり、良好な結果であった。

８．ルーブリック（Rubric）

ルーブリックとは、学習到達度を示す基準であり、学生が何を学習するかを示す評価規準と学生が学習到達しているレベルを示す評価基準からなる。今年度は試行的に社会福祉専門演習（卒業研究）と介護実習で実施した。

９．今後の課題

重要課題は２点である。１点目は 2021 年度も続いている新型コロナウィルスへの感染を予防することである。２点目は、本年度から始まった新カリキュラムの運用を通して生じた課題を整理し、適切に対応することである。

入 試 委 員 会

福 間　隆 康

1　令和３年度入学者選抜の概況

区分		募集人員 A	男女別	志願者数 B 全体	志願者数 B (県内)	受験者数 C 全体	受験者数 C (県内)	合格者数 D 全体	合格者数 D (県内)	入学手続者数 全体	入学手続者数 (県内)	辞退者数	入学者数 全体	入学者数 (県内)	志願倍率 B/A	合格倍率 C/D
推薦	一般県内	20	男	9	9	9	9	4	4	4	4	0	4	4	－	2.3
			女	27	27	27	27	17	17	17	17	0	17	17	－	1.6
			計	36	36	36	36	21	21	21	21	0	21	21	1.8	1.7
	一般全国	10	男	8	0	8	0	2	0	2	0	0	2	0	－	4.0
			女	15	0	15	0	9	0	9	0	0	9	0	－	1.7
			計	23	0	23	0	11	0	11	0	0	11	0	2.3	2.1
	計	30	男	17	9	17	9	6	4	6	4	0	6	4	－	2.8
			女	42	27	42	27	26	17	26	17	0	26	17	－	1.6
			計	59	36	59	36	32	21	32	21	0	32	21	2.0	1.8
個別	前期	35	男	71	10	53	6	9	1	9	1	0	9	1	－	5.9
			女	104	17	92	17	31	8	29	7	0	29	7	－	3.0
			計	175	27	145	23	40	9	38	8	0	38	8	5	3.6
	後期	5	男	28	3	16	2	1	0	1	0	0	1	0	－	16.0
			女	75	13	30	6	4	0	2	0	0	2	0	－	7.5
			計	103	16	46	8	5	0	3	0	0	3	0	20.6	9.2
	計	40	男	99	13	69	8	10	1	10	1	0	10	1	－	6.9
			女	179	30	122	23	35	8	31	7	0	31	7	－	3.5
			計	278	43	191	31	45	9	41	8	0	41	8	7.0	4.2
社会人		若干人	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－	
			女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－	
			計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
私費外国人留学生		若干人	男	4		2		1		1		1	0		－	2.0
			女	1		1		1		1		0	1		－	1.0
			計	5		3		2		2		1	1			1.5
合計		70	男	120	22	88	17	17	5	17	5	1	16	5	－	5.2
			女	222	57	165	50	62	25	58	24	0	58	24	－	2.7
			計	342	79	253	67	79	30	75	29	1	74	29	4.9	3.2

・一般選抜（前期）の課題図書：渡辺一史(2018)『なぜ人と人は支え合うのか 「障害」から考える（ちくまプリマー新書)』筑摩書房

2　令和３年度入学者選抜の特徴

（１）志願倍率，合格倍率，入学手続者の県内率

前年度と比べ志願倍率，合格倍率ともに上昇した。入学手続者の県内率は，年度ごとに増減を繰り返しているものの，前年度と比べ増加している（下表)。

	令和３年度	令和２年度	平成 31 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
志願倍率	4.9	4.7	4.1	4.4	3.2	4.7
合格倍率	3.2	2.6	2.5	3.0	2.3	2.9
入学手続者の県内率（%）	39.2	37.2	42.1	43.8	47.3	42.1

（２）志願者数

学校推薦型選抜の志願者数（59 人）は，前年度（54 人）と比較し増加した（志願者前年比 109.3%)。内訳をみると，県内枠の志願者数（36 人）は，前年度（22 人）と比較し増加したが（志願者前年比 163.6%)，全国枠の志願者数（23 人）は，前年度（32 人）と比較し

減少した（志願者前年比 71.9%）。この背景には，新型コロナウイルス感染拡大の影響で，大学入学共通テスト前に大学進学を決める受験生が増えたこと，地元志向が強まったことが関係していると考えられる。

一般選抜前期日程の志願者数（175 人）は，前年度（164 人）と比較し増加した（志願者前年比 106.7%）。一方，一般選抜後期日程の志願者数（103 人）は，前年度（135 人）と比較し減少した（76.3%）。この背景には，コロナ禍でエッセンシャルワーカー（人々が生活する上で欠かせない業務に従事する労働者）の存在が取り上げられ，福祉分野で活躍したいと考える受験生が増えたこと，経済環境が悪化するなかで職業と直結しており，専門資格を取得できる学部を選ぶ受験生が増加したことが関係していると考えられる。

（３）推薦人員

令和３年度入学者選抜から学校推薦型選抜（県内枠）の各高等学校等の推薦人員を３名以内から５名以内に拡大したため，全国枠への県内からの出願（平成 23 年度から実施）はなかった。また，学校推薦型選抜（県内枠）で５名出願した高等学校はなかった。

（４）社会人選抜

平成 26 年度入試より開始した社会人選抜については，出願がなかった。

（５）私費外国人留学生選抜

私費外国人留学生選抜については，５名の出願があり３名が受験した。２名を合格とし，１名の入学手続きがあった。

３　課題

・本学部の志願者数（342 人）は，前年度（356 人）と比較し減少した（志願者前年比 96.1%）。この背景には，18 歳人口の減少があり，特に高知県は減少率が高いことが影響していると考えられる。今後は，県内および四国内の高等学校を対象とした入試広報が課題である。入試広報部会と連携し，高等学校における進路指導の実態や大学志願者の志願傾向について情報を収集する。あわせて，学部広報委員会，介護人材確保部会，地域教育研究センターと協力し，公開講座，学部出前授業，キャンパス訪問の受け入れなど，志願者の増加に向けた取り組みを行う。

・新入生を対象に国語力および英語力測定テストを行い学力のデータを蓄積し，今後の入学者選抜に活用する。

・入学者選抜区分別に，学生が履修した科目の成績の平均値（Grade Point Average）および社会福祉士国家試験結果を分析し，今後の入学者選抜に活用する。

・各入学者選抜の順位決定の方法について見直しを行う。

学　生　委　員　会

大松　重宏

○ 活動方針

学生委員会は、学生の福利厚生の向上、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

○ 活動内容

１．相談活動

今年度は新型コロナ感染症に伴う種々の問題も重なり、学生の精神面や身体面の不調、友人間の悩み、より複雑化した生活上の悩みに対して、学年担当教員を中心に、実習担当教員、ゼミ担当教員、健康管理センター、学生・就職支援課と連携し、解決に取り組んだ。特に、様々な理由で欠席が続いた学生には、学年担当教員が連絡を頻回にとり学業の継続に導いた。また、年末年始に帰省できない学生に安否確認等の支援を実施した。

健康管理センターが実施する、精神科医師、心理カウンセラー、婦人科医師、保健師による専門相談について、ガイダンスや掲示を通して学生に利用形態や利用時間等の情報を提供した。また必要に応じて個別に健康管理センター等へ相談にいくことを促した。

２．経済的支援に関する対応

安定した学業の継続には、経済的基盤が大切である。今年は学生のアルバイト収入が大幅に減ったことにより、ガイダンスの際に授業料の免除や各種奨学金の申請について、繰り返し説明した。また、授業料の免除や各種奨学金の申請に関する学生からの個別相談に対し、学生・就職支援課と連携しながら、情報提供及び手続き支援を行った。個別のケースには迅速に対応した。また、生活の支援として食材提供等の情報提供を行った。

３．事故・事件への対応

交通事故を含めた事故があとを絶たない。事故等に対して学年担当教員を中心に迅速に対応した。交通安全講習会は、例年通り実施された。

４．学生の活動への支援

新型コロナ感染症の影響における学生活動の自粛により、学生の友人関係の希薄化の解消への支援、また実際の新型コロナ感染症の陽性者、濃厚接触者への支援体制と情報共有化のシステム構築を試みた。

５．学生ニーズ調査

今年度は、2年に1度の学生ニーズ調査をポータルサイト上で実施した。その際に新型コロナ感染症に伴う学生生活への影響について質問項目を検討し付け加えた。

○今後の課題

今年度は、新型コロナ感染症に伴い、学業面と精神面への支援、経済的支援に関する対応が例年以上に求められた。学生は精神面、経済面、友人、家庭等の課題をかかえながら学生生活を送っている。学生が個々人の課題を乗り越え健全に学業を継続するためには、学生のかかえる課題に早期に気づき、対応することが必要になる。来年度も新型コロナ感染症に伴い複雑化した学生の課題に対して、学年担当教員とゼミ担当教員を中心に、健康管理センターや学生・就職支援課との連携で迅速で適切な対応したい。

実　習　委　員　会

西　内　　章

１．実習委員会の活動の特徴

実習委員会は，三福祉士の実習及び実習関連科目が円滑に実施できるよう，実習に関わる予算の計画や執行，コース相互に関連する実習事務やカリキュラム等の調整、学内外との連絡調整等を行うことを目的としている．本学部の三福祉士（社会福祉士，精神保健福祉士，介護福祉士）の養成課程に係るコースの運営及び教育は，コース主担当（コース長）を代表とする各コースの実習・演習担当教員が行っている．

２．配属実習の内訳

本年度の配属実習は，昨年度末から新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される状況下であったため，実習先と担当教員で状況を相談・確認しながら必要な感染対策を行った上実施した．相談援助実習が 72 名（昨年度 69 名），精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱが 15 名（昨年度 17 名），介護実習Ⅰが 24 名（昨年度 17 名），介護実習Ⅱが 16 名（昨年度 23 名），介護実習Ⅲが 21 名（昨年度 17 名）であった．

相談援助実習 72 名（内、2 ヵ所実習生は児童 3 名）の内訳は、福祉事務所 7 名，社会福祉協議会 20 名，病院(精神科除く)13 名，児童相談所 8 名，児童養護施設 5 名，児童自立支援施設 5 名，地域密着型介護老人福祉施設 1 名，特別養護老人ホーム 1 名，養護老人ホーム 1 名，小規模多機能型居宅介護 3 名，介護老人保健施設 1 名，相談支援事業所 3 名，療養介護事業所･医療療養型障害児入所施設 2 名,障害福祉サービス事業所 5 名であった。

精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの 15 名の内訳は，精神科病院 14 名，精神科病床を有する一般病院 1 名，精神保健福祉センター2 名，地域活動支援センター（相談支援事業所併設）2 名，障害福祉サービス事業所 78，相談支援事業所 3 名であった．

介護実習Ⅰの 24 名では，（以下、のべ人数）特別養護老人ホーム 6 名，特定施設入居生活介護 8 名，生活介護 6 名，通所介護 7 名、通所リハビリテーション 6 名，訪問介護 7 名，小規多機能型居宅介護 11 名，認知症対応型共同生活介護 6 名，救護施設 4 名であった．

介護実習Ⅱの 16 名は，特別養護老人ホーム 12 名，介護老人保健施設 2 名，療養介護/医療型障害児入所施設 2 名であった．

介護実習Ⅲの 21 名では，特別養護老人ホーム 9 名，介護老人保健施設 2 名，障害者支援施設 6 名，療養介護/医療型障害児入所施設 4 名であった．

３．実習連絡協議会

本学部の実習教育や配属実習について，実習指導者と本学実習担当教員が率直な意見交換を行い,適切な実習指導体制を整えるために実習連絡協議会を開催している.今年度も，コースごとに実習連絡協議会を企画し，精神保健福祉援助実習連絡協議会と介護実習連絡協議会は開催できた．3 月に予定していた相談援助実習の連絡協議会は、年度末に新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されたため次年度 5 月に延期した．

8 月　3 日（月）　介護実習連絡協議会（Zoom 開催）
　　参加施設：5 施設　参加実習指導者：9 名

3 月 10 日（火）　精神保健福祉援助実習連絡協議会（Zoom 開催）
　　参加施設：8 病院，2 事業所　参加実習指導者：10 名

※相談援助実習連絡協議会は 2021 年度 5 月に開催予定である．

４．成果と課題

（１）実習情報の管理・共有システムの更新と新カリキュラムへの対応

本年度は，実習情報の管理・共有システムの更新を行った．また，2021 年度入学生から社会福祉士と精神保健福祉士の新カリキュラムが始まる．本年度は厚生労働省への申請手続きを行った．次年度は新カリキュラムの実習で必要な申し合わせや事務手続きを検討し改善点がないかを各コースで検討してもらう予定である．また新型コロナウイルスが感染拡大した場合，実習を中止し，学内実習に代替しなければならない．実習委員会としては次年度初期に必要な対策を検討しておきたい．

（２）実習予算及び実習事務の確認・情報共有

本年度も三福祉士の実習予算及び実習事務の確認・情報共有を行うために，実習支援室長と福祉実習支援室を担当する助教教員，実習委員長の三者による連絡会議を月１回実施した．日常的なコース運営は各コースに一任しているが，実習費の使途と実習事務の進捗状況について月１回の連絡会議で確認・情報共有を行っている．特に本年度は，マスクや消毒剤，巡回ができない場合の対応（タブレットの活用方法，学内実習の実施方法，Zoom の活用方法等）について確認・情報共有を行った．次年度も引き続き実習予算や実習事務の改善点がないかを連絡会議で確認したい．

また新型コロナウイルスの感染予防の観点から，福祉実習支援室の学生への窓口対応を一時的に閉鎖し，代替策として学生の相談は電話やメールで行った．学生にとっては，対面で関わる窓口対応の方が望ましいが，福祉実習支援室の窓口対応を安易に再開すると多くの学生が利用することにため感染の心配がある．本年度はアクリル板や手指消毒剤を配置したが，次年度も福祉支援室でできる感染対策の協議を継続して，窓口対応を再開するかどうかを見極めたい．

就　職　委　員　会

福　間　隆　康

１　社会福祉学部の就職活動支援

（１）就職ガイダンス等の実施

・オリエンテーション（2020 年４月６日）

・家庭裁判所調査官説明会［ZOOM］（2020 年 12 月 14 日）

（２）学生・就職支援課ワクワク Work!!との連携

学生・就職支援課ワクワク Work!!と連携し，求人情報や就職支援情報の提供，メールや Web 会議ツール ZOOM を活用した就職相談を行った。合格・内定後は速やかに学年担当教員に連絡するとともに，その都度，ワクワク Work!!に「体験報告」および「進路決定届」を提出するよう促し，情報の共有をはかった。

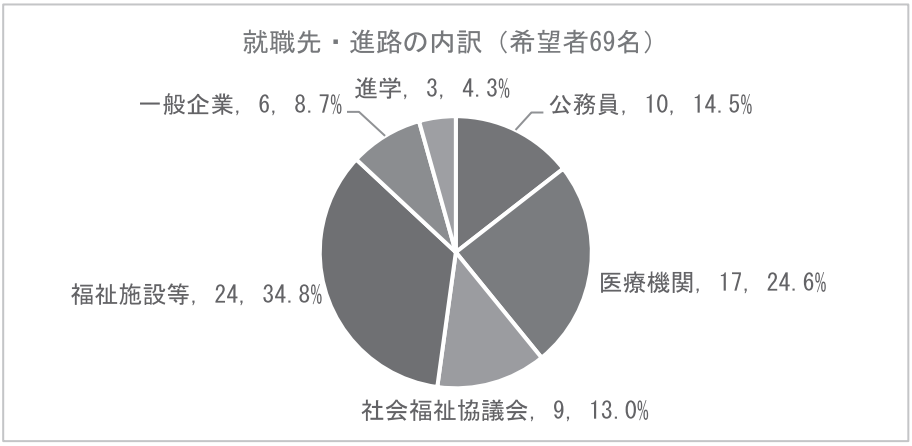
（３）個別相談等

学生・就職支援課ワクワク Work!!と連携しながら，ゼミ担当教員，学年担当教員が中心となり，４回生の進路相談，応募書類の添削，模擬面接等を行った。

（４）情報提供

定期的にワクワク Work!!から社会福祉学部宛に届いた求人一覧を確認し，希望地域・業態が一致する学生に情報を提供した。また，ファイリングした求人票を社会福祉学部棟のラウンジスペース卓上に設置し，求人の情報提供を行った。福祉就職フェア（各県福祉人材センター主催）に関する情報を提供した。

２　進路状況



就職率 100％

３　今後の課題

今後の課題としては，社会福祉士国家試験不合格者の内定取り消しへの対応である。就職活動期間が後に延びると，国家試験受験対策に必要な時間を確保することが難しくなる。そのため，国試対策支援委員会と連携し，優先順位の付け方や，スケジュール管理に対する学生の意識を高めていく必要がある。また，キャリア支援委員会と連携し，キャリア支援講座（卒業生を講師に招いて就職活動等の話をしてもらう機会）を実施していく。

広　報　委　員　会

河内　康文

○本年度の取り組み

広報委員会は、鈴木 孝典 准教授・雑賀 正彦 助教・玉利 麻紀 助教・河内康文が担当した。

（１）「大学案内」の編集･製作

2022年度版「大学案内」の社会福祉学部の紹介では、新たな試みとして理論・教育・実践のつながりをテーマに教員・卒業生・在校生がトークする特集ページを作成した。

（２）オープンキャンパス：新型コロナウイルス感染拡大防止のため動画対応

鈴木准教授による社会福祉学部紹介動画（進路担当者向け説明会と一本化）を作成し、視聴回数は1,089であった。また、オンライン個別相談会を実施し、高校教員1名、高校生22名の参加があった。

（３）在学生による出身高校訪問

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

（４）キャンパス訪問への対応

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

（５）学部パンフレットの更新

在学生数や国家試験の合格率や就職先の分野について、最新情報に更新した。

（６）学部ホームページの更新

在学生数や国家試験の合格率や就職先の分野について最新情報に更新するとともに、国家試験の合格率や就職先の分野を更新し、計12件の「新着情報」を掲載した。

（７）学部ＰＲ動画の公開

卒業生による在学中の学びのふりかえりや仕事の様子を盛り込んだ「卒業生PV」を作成した。また、田中 眞希 助教による「生活支援技術」の動画を作成し、新たに公開した。

○今 後 の 課 題

広報ツールががらりとかわり、オンライン広報一色となった。オンライン広報は、遠隔地からも社会福祉学部のことを知る契機となりうる。オンラインを活かした社会福祉学部の魅力発信が今後の課題となる。例年実施していた在宅生による出身高校訪問活動は中止を余儀なくされたが、この点もオンラインを活かしてアウトリーチ型の出身高校訪問も可能かもしれない。

オンライン一色だからこそ、アナログ的な人と人とのつながりの大切さを見つめなおす機会にもなったように思う。オンライン広報のなかでも、社会福祉が価値をおく人と人とのつながりの大切にしたいと思った1年でもあった。広報の手段も大切であるが、高校生が社会福祉を志すにしても、違う道を目指すとしても、後悔のない選択ができるように誠実な情報を提供していきたいと思う。

介護人材確保部会

河 内　康 文

１．集合型研修　社会福祉の事をわかりやすく学べます

○開催日時：2020 年 8 月 9 日（日曜日）　10：00～12：00
○開催場所：高知県立大学池キャンパス（Zoom 配信）
○講師：河内 康文 講師，中澤 里映（平成福祉専門学校 専任教員：卒業生）
○対象：高校生と保護者
○参加者数：98 名（スタッフ等含む）

（１）事業概要

高校生とその保護者等に対して，福祉・介護分野でのキャリア像を明確に示すことで，長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的とする．大学教員と学生及び高校生が介護現場を訪問し，専門職の役割やキャリアについて具体的事例から学ぶ．

（２）活動成果

アンケート集計結果からは，講義の前後で福祉・介護のイメージが良くなったという変容が見られた．同アンケートの自由記述からは「社会福祉についておおまかにしか分かっていなかったんですが，講座を聞いて社会福祉というものがどういうのかが見えてきてさらに興味がわきました」，「福祉についてもっと勉強しようと思うきっかけとなりました．福祉の課題は沢山ありそれを解決するために様々な分野から学んでいくことの大切さが分かりました」などの回答があった．

（３）活動評価

本事業のプログラムは，5年目となる．本年度はWeb開催であったが，参加者数（スタッフを含む）が昨年の50名→98名と増加した．高知県以外の地域からも参加がしやすかったことが一要因と思われる．Web開催は，幅広い地域からの参加できる一方で，Face-to-Faceで福祉・介護の魅力を伝えられない限界がある．相互の長所と短所を踏まえながら内容の検討が必要である．

（４）当日の様子

遠隔配信の様子

ゼミ室から卒業生トーク

２.集合型研修　卒業生の働く現場から LIVE 配信

○開催日時：2020 年 9 月 27 日（日曜日）　10：30～12：00
○開催場所：在宅型有料老人ホームウエルリブじんざん（Zoom 配信）
○対象：高校生と保護者
○参加者数 52 名
○講師：田中眞希 助教，福田敏秀 助教，黒岩賀永 ウエルリブじんざん：施設長，東仲南奈 ウエルリブじんざん：卒業生，福本和生 ウエルリブじんざん：卒業生，藤井孝樹 ウエルリブじんざん：卒業生，村尾春奈 ウエルリブじんざん：卒業生

（１）事業概要

高校生とその保護者等に対して，福祉・介護分野でのキャリア像を明確に示すことで，長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した.大学教員と介護施設長・卒業生が福祉・介護現場での仕事ややりがいについてプレゼンテーションをし，専門職の役割やキャリアについて学ぶ.

（２）活動成果

アンケート集計結果からは，回答者全員が「福祉・介護への興味を持った」「福祉・介護への勉強をしたくなった」「福祉・介護の仕事をしたくなった」ことが示されていた. また，同アンケートからは，「大学で学んだこと，介護施設で働く中での，苦しかったことや喜びなど，現場で働く方々の貴重な意見を聞かせて頂いたので，今後の進路について理解を深めることが出来ました」，「コロナの影響でオープンキャンパスに行けないのでこういうウェブで開催してくれてとても助かった」などの記述が見られた.

（３）活動評価

参加者は，52 名（参照：昨年度の同時期に実施した施設見学企画は 32 名）と増加した. プレゼンテーションをしてくれた卒業生は，学生のときにこのイベントの学生スタッフとしてかかわっていた経験があったため，趣旨を理解し，Web 開催にも柔軟に対応ができたと思われる.

新型コロナ禍で介護現場にいくことが困難な現状を鑑みると，現場からの発信は重要な試みであったといえる．現場のリアルを追求するために，たとえばノーリフトケアの実演など，より介護現場が理解できるような工夫が必要である．また，2 年目の福祉・介護職が発信の主体であったため，より長く勤めた福祉・介護職の声とつなげ，キャリアが明確になるような工夫が必要である.

（４）当日の様子

黒岩施設長による講座

全体ディスカッション

３.集合型研修　アカデミックに福祉・介護を探求する

○開催日時：2020 年 11 月 8 日（日曜日）　10：00～12：00
○開催場所：高知県立大学池キャンパス（Zoom 配信）
○講師：三好 弥生 准教授，雑賀 正彦 助教
○対象：高校生と保護者　○参加者数：75 名（延べ人数，スタッフ等含む）

（１）事業概要

高校生とその保護者等に対して，福祉・介護分野でのキャリア像を明確に示すことで，長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した．大学教員が介護福祉に関する研究の現状や課題について講義したあと，在校生が大学での学びの実際を報告しながら福祉・介護専門職になるためのアカデミックな学びを理解する．

（２）活動成果

アンケート集計結果からは，回答者全員が「福祉・介護への興味を持った」「福祉・介護への勉強をしたくなった」ことが示されていた．集合研修は，リピーターの参加があり，福祉・介護への関心がより確固たるものになっていると考えられる．また，同アンケートからは，「中山間地域での地域の方と一緒になって取り組む姿勢はとても素敵だなと思い，人の役に立ちたいと思いました」，「痩せていることによって心身に影響があるだけではなく，老後にも問題があり，今後の人生にも影響があるということを初めて知りました」などの記述が見られた．

（３）活動評価

本講座は，大学で今年後実施している遠隔での福祉・介護のアカデミックな講義を体験し，理解を深める契機になったと思われる．また，講座後は，学生による学びの報告や個別相談が実施された．リピーターが多いことから，これまでの講座の総括を入れるなど，4 回の集合研修の関連性が受講生にとって，わかりやすくなるような工夫があると効果が高まるといえよう．

（４）当日の様子

学生によるロールプレイ

講座後の個別相談会の様子

４.集合型研修　新高校生 2・3 年生のための入門講座

○開催日時：2021 年 3 月 22 日（月曜日）　10：00～12：00
○開催場所：高知県立大学池キャンパス（Zoom 配信）
○講師：田中 眞希 助教，高知市
○対象：高校生と保護者　○参加者数：64 名（延べ人数，スタッフ等含む）

（１）事業概要

高校１･２年生とその保護者等に対して，大学教員が高知県における福祉・介護の現状や課題について講義，在校生が大学での学びの実際を報告した後，認知症サポーター養成講座をとおして福祉・介護分野に関心をもってもらうとともに，長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した．

（２）活動成果

アンケート集計結果からは，回答者全員が「認知症の方に対しての対応や理解がとても深く分かりました」「利用者さんやその家族を笑顔にできる職業だと感じた.」ことが示されていた．集合研修は，リピーターの参加があり，福祉・介護への関心がより確固たるものになっていると考えられる．また，同アンケートからは,「私は，社会福祉学部のことに興味を持っていたけど，具体的にどんなことをやるのかを深く知らなかったので，今回この講座を受講できて，さらに興味を持つことができました」，とあり今後の進路についての情報集に有益であったという記述が見られた．

（３）活動評価

本講座は，高知市が実施している認知症サポーター養成講座と連携して実施した．高校単位で申し込みや問い合わせがあり，反響の大きさが伺えた．来年度以降も継続的に取り組みを続けていきたい．

（４）当日の様子

教員と学生による学びの報告

高知市認知症サポーター養成講座

５．訪問型研修（計８回）

○開催日時：場所

（１）　2020 年 8 月 24 日（月曜日）16：00～17：00　高知商業高等学校
（２）　2020 年 9 月 25 日（金曜日）16：00～17：00　高知南高等学校
（３）　2020 年 9 月 28 日（月曜日）16：00～17：45　岡豊高等学校
（４）　2020 年 9 月 30 日（水曜日）16：00～17：00　高知農業高等学校
（５）　2020 年 9 月 30 日（水曜日）17：00～18：00　土佐塾高等学校
（６）　2020 年 10 月 19 日（月曜日）17：00～18：00　土佐女子高等学校
（７）　2020 年 10 月 22 日（木曜日）16：00～17：00　高知西高等学校
（８）　2020 年 10 月 27 日（火曜日）16：10～17：10　中村高等学校

○講師：三好 弥生 准教授（５）（６），河内康文講師（７）（８），田中眞希助教（１）（２），福田敏秀助教（３）（４），入野文菜 医療ソーシャルワーカー 卒業生，大塚由希子

高知市役所 卒業生，高橋由吏 土佐希望の家 卒業生，東仲南奈 ウエルリブじんざん 卒業生，福本和生 ウエルリブじんざん 卒業生，社会福祉学部学生

○対象：高校生・高校教員

○参加者数：計 195 名（講師・スタッフ等含む）

（１）事業の概要

高校生に対する福祉・介護の概要理解を目的に，高知市内外の高等学校に訪問し，大学教員が理論，専門職が福祉・介護現場の実際，学生が大学での学びの実際を説明した．

（２）活動成果

アンケート集計結果は，概ね好評であった．具体的には「これがはじめての講座でしたが，来て良かったと思いました．これからもこのような講座は積極的に参加したいと思います」，「介護について前から知りたかったので，介護について知れて将来の夢について介護も視野に入れていきたいです」などの回答が見られた．

（３）活動評価

本事業が 5 年目となり，大学生時のスタッフ経験者が専門職として参加をするようになり，内容が充実した．今年度は，参加人数が昨年度の 99 名から 189 名に飛躍的に向上したことと，高校側から依頼が来たということは特筆すべき事項である．新型コロナウイルスの影響で，高校側が大学見学などに参加できない動向のなかで，受入が好意的であったように思われる．事業の継続，拡大，内容のさらなる充実をしていきたい．

（４）当日の様子

専門職を加えたワーク

Zoom を用いた講座

福祉で未来を探求！
高校生のための

Web EVENT LIVE配信

事前登録制

2020
8/9 日 sun

開催時間 10:00-12:00

社会福祉の事を
わかりやすく
学べます。

高知県立大学 社会福祉学部

福祉で未来を探求！
高校生のための

Web EVENT LIVE配信

2020年
8月9日［日］10:00-12:00

事前登録制 ※お好きな時間帯に参加できます。

A ROOM	10:00	福祉の学びへのいざない
	10:10	県大生の高校時代を振り返る
	10:40	福祉をどのように学ぶのか
	11:10	休憩：太鼓部演奏
	11:30	福祉の学びを地域で活かそう
	11:50	卒業生トーク
B ROOM	11:00	県大生の部屋

県大生の部屋

B ROOM

学生コーディネーター／（出身）
宇高愛菜さん（愛媛県）
塩﨑勇斗さん（兵庫県）
西島悠夏さん（兵庫県）
山村花音さん（千葉県）

出入り自由。学生生活、試験、アルバイト、実習、自分探し、福祉に必要な資質など、県大生とのフリートークや何でも相談できるお部屋です。県大生がコーディネートいたします。
お気軽にご参加ください。

11:00

令和2年度高知県キャリア教育推進事業／高知県立大学健康長寿センター

福祉の学びへのいざない

A ROOM

河内康文（社会福祉学部：講師）
KOCHI Yasufumi

福祉入門です。福祉とは何か、福祉の魅力、福祉・介護の未来を話します。

10:00

県大生の高校時代を振り返る

学生講師／（出身）
岡田桃果さん（高知県）　勝賀瀬輝さん（高知県）
十亀優奈さん（宮崎県）　宮﨑小槙さん（愛媛県）

県大生が高校生のころ、どのようにして福祉を志し、大学で福祉を学ぶために、どのような行動をしてきたのか、振り返ります。

10:10

福祉をどのように学ぶのか

学生講師／（出身）
上野梨乃さん（香川県）　濱渦麻子さん（高知県）
星川陽美さん（愛媛県）　土居桃子さん（高知県）
末永掌子さん（長崎県）　福島奈緒子さん（徳島県）

県大生が、福祉をどのように学んでいるのか、社会福祉を基礎として、介護分野、精神保健福祉分野、地域分野の発表をします。

10:40

休憩：太鼓部演奏

太鼓部は地域のイベントや学校行事で活動をしています。
演奏をお聞きください。

11:10

福祉の学びを地域で活かそう

学生講師／（出身）
髙下美咲さん（岡山県）　三笘智美さん（岡山県）
渡部千尋さん（愛知県）　長野青葉さん（高知県）
伊井雪乃さん（高知県）

地域福祉を応援したいサークル「かんきもん」,その活動の一つで障害がある人の移動を介助する“タウンモビリティ”、地域災害ボランティアサークル「イケあい」の活動を紹介します。

11:30

卒業生トーク

11:50

事前のお申込みが必要です。

締切り／8月5日（水）17：00
参加費無料
保護者・高校の先生方も参加いただけます。

お申込みについて

本学ホームページからお申込みいただけます。下記、URLまたはQRコードから専用ページにアクセスし、「申込方法」に必要事項をご登録ください。
https://www.u-kochi.ac.jp/site/wlc/2020career01.html
お申込み後に登録いただいたアドレス宛に事前準備等を掲載した返信メール（お申込みOK）が届きます。

お問合わせ

高知県立大学 企画連携課　健康長寿センター事務担当：保志場または由比
Tel.088-847-8700　E-mail: wlc@cc.u-kochi.ac.jp

令和2年度高知県キャリア教育推進事業／高知県立大学健康長寿センター
福祉で未来を探求！
高校生のための
Web EVENT LIVE2 配信
2020年
9月27日［日］10:30-12:00
事前登録制 ※お好きな時間帯に参加できます。
1 オープニング
10:30
社会福祉学部 助教
福田 敏秀
2 社会福祉をめざす高校生へ
10:40
特定施設入居者生活介護事業所
ケアハウス好日館
黒岩 貿次 施設長
実は、福祉はとっても
身近なこと
3 卒業生の
働く様子
10:55
お見せします。
4 卒業生トーク
対談
11:00
2018年度卒
高知県立大学
卒業生のリアル
●県大で学ぶこと
●社会福祉士と介護福祉士の両資格を持つ意味
●福祉や県大を選んだ理由
●仕事のやりがい・たいへんさ・将来について
在宅医療科療法入チーム
ウエルリブ じんさん
勤務の佐さん
福本 和生さん
社会福祉士
介護福祉士
村尾 春奈さん
社会福祉士
介護福祉士
藤井 孝樹さん
介護福祉士
東仲 南奈さん
社会福祉士
介護福祉士
5 質疑応答
11:40
卒業生に
聞いてみたいこと
ご質問ください。
6 エンディング
11:55
社会福祉学部 助教
田中 眞希
事前のお申込みが必要です。
締切り／9月23日（水）17:00
参加費無料
保護者・高校の先生方も
参加いただけます。
お申込みについて
本学ホームページからお申込みいただけます。下記、URLまたはQRコードから
専用ページにアクセスし、「申込方法」に必要事項をご登録ください。
https://www.u-kochi.ac.jp/site/wlc/2020career02.html/
お申込み後に登録いただいたアドレス宛に事前準備等を掲載した返信メール（お申込みOK）が届きます。
お問合わせ
高知県立大学 企画連携課　健康長寿センター事務担当：保志場または田比
Tel.088-847-8700 E-mail:career-wlc@cc.u-kochi.ac.jp

福祉で未来を探求！
高校生のための
Web EVENT LIVE2 配信
事前登録制
2020
9/27 日 sun
開催時間 10:30-12:00
卒業生の働く現場から
LIVE 配信
高知県立大学 社会福祉学部

福祉で未来を探求！
高校生のための

Web EVENT3

LIVE配信
事前登録制

2020
11/8 日 sun
開催時間 10:00-12:00

アカデミックに福祉介護を探求する

高知県立大学 社会福祉学部

令和2年度高知県キャリア教育推進事業／高知県立大学健康長寿センター

福祉で未来を探求！
高校生のための

Web EVENT3

LIVE配信

アカデミックに福祉介護を探求する

高知県立大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する四国唯一の公立大学であり、西日本の公立大学としては数少ない、三福祉士資格（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士）に対応しています。

2020年
11月8日［日］10:00-12:00
事前登録制 ※お好きな時間帯に参加できます。

1限目　ミニ講義 10:00-10:30

貯筋（肉）のすすめ

皆さんはダイエットに関心がありますか？サルコペニアとは、「「sarx（筋肉）」と「penia（喪失）」」というギリシャ語を組み合わせた用語で、ズバリ骨格筋量の減少およびその機能低下のことをいいます。要介護のリスクになるだけでなく、若年女性の低体重、やせ願望とも無関係ではありません。

准教授
三好 弥生

●PROFILE
高知県立大学大学院人間生活学専攻博士後期課程修了。居宅サービスにおける看護師や介護支援専門員としての豊富な実践経験とともに介護福祉士養成施設教育にも長く携わる。2010年より現職に就く。
○専門分野：介護福祉論、高齢者福祉論
○学位：博士（社会福祉学）

2限目　ミニ講義 10:40-11:10

災害と地域福祉実践

コミュニティソーシャルワーカーの観点から、災害をとおして地域福祉実践に関し、具体的に理解を深める講義です。特に、要援護者を包摂した地域住民のつながりの大切さや、高校生それぞれが考える地域福祉実践に必要なことを理解します。

助教
雑賀 正彦

●PROFILE
高知県立大学社会福祉学部助教。社会福祉士、介護支援専門員。日本福祉大学大学院 社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程修了。修士（社会福祉学）。
老人保健施設・自治体直営地域包括支援センター・社会福祉協議会職員を経て 2017 年 10 月より現職。
主な担当科目「相談援助演習」「高齢者福祉論」「ケアマネジメント論」「ケアマネジメント演習」「コミュニティー ソーシャルワーク」等。
現在は、社会福祉士会・介護支援専門員の現任研修講師や自治体での地域ケア会議、生活支援体制整備等に関する会議にも助言者として参画し、地域福祉を基盤とした研究を行っている。

3限目　グループトークをしてみよう 11:20-12:00

県大生の部屋

社会福祉の支援技法にグループワークがあります。グループに分かれて県大生と福祉や学生生活に関するトークをしながら、その技法を学びます。県大生がコーディネートいたします。お気軽にご参加ください。
※グループトークはZoomのビデオとマイクを使用します。

事前のお申込みが必要です。

締切り／11月4日（水）17：00
参加費無料
保護者・高校の先生方も参加いただけます。

お申込みについて

本学ホームページからお申込みいただけます。下記、URLまたはQRコードから専用ページにアクセスし、「申込方法」に必要事項をご登録ください。
https://www.u-kochi.ac.jp/site/wlc/2020career03.html
お申込み後に登録いただいたアドレス宛に事前準備等を掲載した返信メール（お申込みOK）が届きます。

お問合わせ

高知県立大学 企画連携課　健康長寿センター事務担当：保志場または由比
Tel.088-847-8700　E-mail:career-wlc@cc.u-kochi.ac.jp

令和2年度高知県キャリア教育推進事業／高知県立大学健康長寿センター
福祉で未来を探求！
高校生のための
Web
EVENT4
LIVE配信
アカデミックに福祉介護を探求する
高知県立大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する四国唯一の公立大学であり、西日本の公立大学としては数少ない、三福祉資格（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士）に対応しています。
2021年
3月22日［月］10:00-12:00
事前登録制 ※お好きな時間帯に参加できます。
1限目
オーブニング 10:00-10:30
15年先の未来を学ぼう
人口減少、高齢化が進み15年先の日本の未来を歩む課題先進県である高知県では、地域住民、行政、高知県立大学が一体となり、「域学共生」を旗印に様々な取り組みをしています。どんな学びをしているの？やりがいや魅力は？将来性は？について、先生と県大生がトークします。
ファシリテーター
助教
田中 眞希
●PROFILE
障害者支援施設アイルにて、介護職員として6年間勤務、高知県立大学人間生活学研究科に在籍し、修士（社会福祉学）を取得。2011年に高知県立大学に赴任。臨床思考・考の生活支援を行っていた経験を生かし、学生とともに介護福祉士の専門性について考えている。
2限目
ミニ講義 10:30-12:00
認知症を地域で支える（認知症サポーター養成講座）
福祉では、たとえ認知症があったとしても、その人の希望に寄り添い、住み慣れた地域での生活を支援します。講座では、認知症の理解、支援の方法を理解し、適切な対応を学びます。
認知症サポーター養成講座は、認知症にそっぐ心で寄ゃ支ゃ学べりを目指し、2004年度に厚生労働省が導入しました講座を修了された方には、認知症サポーターの目としてオレンジリング（ブレスレット）をお渡しします。
事前のお申込みが必要です。
締切り／3月15日（月）17:00
参加費：無料
保護者・高校の先生方も参加いただけます。
お申込みについて
本学ホームページからお申込みいただけます。下記、URLまたはQRコードから専用ページにアクセスし、「申込方法」に必要事項をご登録ください。
https://www.u-kochi.ac.jp/site/wlc/2020career04.html
お申込み後に登録いただいたアドレス宛に事前準備等を掲載した返信メール（お申込みOK）が届きます。
お問合わせ
高知県立大学 企画連携課　健康長寿センター事務担当：保志場または田比
Tel.088-847-8700 E-mail:career-wlc@cc.u-kochi.ac.jp

福祉で未来を探求！
高校生のための
Web
EVENT4
LIVE配信
事前登録制
2021
3/22 月 mon
認知症サポーター養成講座
認知症を地域で支える
高知県立大学 社会福祉学部

キャリア支援委員会

西梅　幸治

キャリア支援委員会は、委員長を西梅、田中きよむ教授、加藤講師、雑賀助教、福田助教で構成した。本年度に行った業務は、下記のとおりである。

１．活　動　内　容

①キャリア支援に係るガイダンスの実施

今年度は、全学委員会の学部別キャリア教育・就職ガイダンス開催経費を用いて、以下のガイダンスを開催し、どの講座についても好評であった。

開催日	テーマ	講師	対象
11月12日	ＨＩＶ感染症者等の人権問題	中村美保先生 （高知大学医学部附属病院看護部）	１回生
11月19日	社会福祉専門職の仕事 ―私が大事にしていること―	比江森志乃先生 （やえもん社会福祉士事務所）	１回生
12月７日	コロナ禍における就職活動	本学部４回生６名	２・３回生
11月27日	国家資格取得のための勉強方法や心構え	本学部卒業生	４回生
12月21日	国家資格取得のための勉強方法や心構え	本学部卒業生	４回生
３月25日	国家試験への取り組み	本学部卒業生	３回生

②リカレント研究会事業の取り組み

事業名	担当教員	開催日（回数）	内容と成果	参加人数
スクールソーシャルワーク研究会	西梅　幸治 加藤　由衣	９月３日 ９月19日 11月23日 （計３回）	本研究会は年３回で、スクールソーシャルワーカー相互の情報交換や報告、活動のふり返りなどを実施した。今年度は、新型コロナ感染症流行に伴い、対面での実施が難しくZoomを活用したオンラインで開催した。従来までの参加者でオンラインが難しい場合には参加が叶わなかったが、参加メンバーにとっては、力量向上に主体的に取り組む機会になった。	延べ 13人
介護コース卒業生を対象とした事例検討会	宮上多加子 三好　弥生 河内　康文 辻　真美	９月10日 ３月15日 （計２回）	９月（Zoomによる実施）： 講師より、「新型コロナウイルス感染症対策について」の講演があった。その後、質疑応答や職場でのコロナ対策や課題などの共有、情報交換を行っ	延べ 45人

	片岡　妙子 田中　眞希		た。教員からは、大学の対応や近況を伝えた。最後に、卒業生による大学での学びの評価や期待することなどを聞き、終了した。 ３月： 講師より、修士論文の発表があった。その後、質疑応答や意見交換が活発に行われた。介護現場で働く卒業生にとっても、学外実習を終え事例研究を始めようとする３回生にとっても、興味深く参考になる内容であった。　後半は、卒業生と教員による情報交換が行われた。	
ソーシャルワーク学習会	西梅　幸治	11月６日 （計１回）	本学習会では例年、ゼミ生を中心とした卒業生に対して、個別スーパービジョンや、キャリアに関する相談などを実施している。今年度は、コロナ禍のため開催が難しかったが、１名から相談があり、個別スーパービジョンを実施した。日々の業務におけるソーシャルワークの意義を見出す機会になり、かつこれまでの業務のふり返りにもなった。	１人

③キャリア支援特別講座の開催

学部の活動計画に基づいて、２講座を開催した。１講座目は、外部講師によるキャリア支援特別講座を開催し、児童福祉に関心のある卒業生・研究生・在学生をつなぐ学内講演会を実施した。２講座目は、児童福祉分野の関係者との共同研究に向けて、県下の児童指導員の専門性を研究した児童養護施設職員を招聘し、研究課題発見に向けた研修を実施した。いずれも参加者には、好評であった。

開催日	テーマ	講師	参加人数
２月９日	社会的養育で暮らす子どもとのライフストーリーワーク	徳永祥子先生（立命館大学衣笠総合研究機構）	16人
３月20日	児童養護施設で働く児童指導員の専門性	橋村萌先生（社会福祉法人至誠学舎立川 児童養護施設 至誠大空の家）	14人

④外部評価の実施

全学的に外部評価を実施することになり、学部の外部評価を本委員会が担当した。外部評価に関して、卒業生（13期生～2020年３月卒業の19期生）とその職場の方を対象にアンケート調査を実施した。調査は、郵送にて実施し、卒業生153名（回収率39.4％）、職場の

方83名（※卒業生の回答者からの推計54.2%）から回答を得ることができた。卒業生の回答結果からは、大学での学びに関して肯定的な評価が多数であった。職場の方からの回答結果からは、卒業生の職場での評価について概ね肯定的であると理解することができた。

２．今後の課題

本委員会での取り組みに関する今後の課題としては、年度当初の活動計画の確認による取り組みの具体的な推進である。特に卒業生を中心とするリカレント研究会や、在学生と卒業生をつなぐ交流の場をつくり、学術的・実践的な力量を継続的に培うことが課題であると考えられる。また今年度も継続して、既卒者への国試対策支援を含めて進めることができた。来年度は、今年度の活動を契機としたさらなる取り組みを活動計画に基づいて、進めていきたいと考えている。

健康長寿センター

辻　真美

○活動内容

1. 健康長寿センター運営委員会
全学での運営委員会として，令和２年４月から令和３年３月においてズームとメールによる会議を 12 回実施した.

２．健康長寿センター運営委員
池田光徳（センター長　看護学部）・看護学部教員・健康栄養学部教員・社会福祉学部教員（河内・片岡・福田・辻）・総務部企画課健康長寿担当者

３．令和２年度活動実績（社会福祉学部がかかわった主なもの）
①リカレント教育講座－ようこそ！知のフールドへー，②おうちで健康長寿体験型セミナーPresented by 高知県立大学健康長寿センター，③健康長寿文庫の選定

○活動の評価と課題

①具体的方法として，事前収録した３講座を健康長寿センターの公式 YouTube チャンネルを活用して，無料で１週間毎に Web 配信した．講義テーマも幅広く，全講座とも動画再生回数は 100 回を超えて好評であったため，３月末まで期間延長を行った．今後，遠隔による講座の企画も継続して行うことを検討する.

②３密を避けた方法で、県民への健康啓発・健康維持につながる活動を継続するために、配信型の「おうちで健康長寿体験型セミナー」を企画した。内容は、高齢者の“運動不足”や“身体機能低下の恐れ”が指摘される問題に着目し，“転倒を予防する”アプローチを中心とした。全８回のシリーズで健康長寿センターの公式 YouTube チャンネルから無期限で動画配信した．今後，公開方法や内容について，必要な方が視聴でき，広く活用してもらえるように広報活動も含めて，様々な方法を取り入れていくことを検討したい.

③健康長寿文庫の推薦図書として一般啓発書を 47 冊，選定した．多くの県民の方々が健康に関する書籍に興味を持ってくださるよう推薦コメントを添えた形で提出した.

①　リカレント教育講座－ようこそ！知のフィールドへー

配信期間	テ　ー　マ	講　師	再生回数
11/9-11/16	障害を理由とした差別の禁止と障害者就労支援の行方	遠山准教授	12/4 からの期間延長を含め，835 回
11/16-11/24	オーラルフレイルってなんだろう？	三好准教授	
11/24-11/30	要介護高齢者の家族支援について考える－要介護者アセスメントのススメ－	福田助教	

②　おうちで健康長寿体験型セミナーPresented by 高知県立大学健康長寿センター

配信期間	テ　ー　マ	講　師	再生回数
11/9 から第１回を公開，全６回を随時配信	第１・２回：理論編（運動とクールダウンの重要性），第３～５回：運動編（足元体操），番外編（新聞棒の作成），第６回：理論編（食事の重要性），第７・８回運動編（足元体操）は未収録	健康長寿センター委員／体操の出演：学生	792 回 ＊DVD 化し，図書館に配架

高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護･社会福祉連携部会

大 松　重 宏

○看護・社会福祉連携部会について

１．組織

１）高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、ソーシャルワーカー

２）高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

２．事業

１）学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供

２）基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力

３）教員によるコンサルテーションの実施

４）臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究

５）県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催

６）その他看護・社会福祉連携活動の実施

○社会福祉連携部会における取り組みの評価

１．　学生の臨地実習（上記事業１にあたる）については、前期で、社会福祉コース（３回生２名）の相談援助実習、精神コース（４回生１名）の精神保健福祉援助実習が終了した。新型コロナ感染症の影響で実習の中断となったが、理想と現実のギャップや多職種等組織の中で働くことの課題に対し、客観的、多面的な視点を意識するまでに到達でき効果的な実習であった。後期において、社会福祉コース（２回生）の現場見学も新型コロナ感染症の影響で実施できなかったが、Web開催による「病院実習のためのセミナー」によって、来年度の相談援助実習に向けて、MSWの業務内容の把握や動機付けができた。

２．　共同研修会（上記事業３にあたる）を毎月１回、定期開催した（１２月からコロナ感染拡大防止のため中止）。事例は、MSWが今悩んでいるケースや、終結しているが振り返りたいケースなどをZoomを利用して発表した。特に今年度は、ケースに関わった他職種や看護学部の教員が参加し、様々な角度から事例を深める機会になった。事例検討の後の時間を使い、教員と中堅以上のMSWとのグループスーパービジョンを新たに実施し、部内で教育指導体制の構築に貢献できたと考える。

３．　共同研究（上記事業４にあたる）については、MSWキャリアダラーのモデル開発をテーマに挙げたが、新型コロナ感染症の拡大に伴い、対面による協議ができなかったことにより、研究者として協力することが十分に出来なかった。

○社会福祉連携部会における取り組みの課題

１．　次年度においても過去の研修を参考に、実習や見学が円滑かつ効果的に進められるように、創意工夫を行う。

２．　次年度も引き続き事例検討を実施する。今後も看護学部の教員をはじめ他職種や学生の参加を促進し、多様な視点からの事例検討ができるようにする。

３．　「ソーシャルワーカー・キャリア・ラダー」の作成について、新人教育への活用を目的に新年度からの体制で再開する予定である。

令和2年度 看護･社会福祉包括連携事業計画･実績 （ 社会福祉部会 ）

色は終了した事業

1．学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供

1）学生の臨地実習

	実施日･期間	氏名or対象	人数	事業内容
1 前期	8/17～9/1 （社会福祉）	社会福祉学部 3回生	2	相談援助実習による配属実習 社会福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習
	8/13～8/28 （精神）	社会福祉学部 4回生	1	相談援助実習による配属実習 精神保健福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習
2 後期	10/19 （社会福祉）	社会福祉学部 2回生	11	病院実習のためのセミナー（Web開催）

2）教員の臨床研修

	実施日･期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

2．基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力

1）基礎教育

	実施日･期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	毎回参加予定	社会福祉学部 2回生	順次参加	定例研修会（3．教員コンサルテーションに該当）への参加予定(12月より参加予定だったが新型コロナ感染症のため中止となった）
2				

2）継続教育

	実施日･期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

3）大学院教育

	実施日･期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

3．教員によるコンサルテーションの実施

	実施日･期間	氏名or対象	参加 人数	事業内容
1 前期	4月　日( )		名	中止
2 前期	5月　日( )		名	中止
3 前期	6月11日(木) 18:00～ 医療センター 1階研修室 （ビデオ会議）	●社会福祉学部教員 （大松重宏・大熊絵里奈） ●地域連携室看護師 （早瀬仁美） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・兵頭七海） ●事務職 （小島秀浩・西原美穂）	14名	・ 自己紹介 ・ 今年度の事業計画
4 前期	7月　日( )		名	中止
5 前期	8月20日(火) 17:30～ 医療センター 1階　医療相談室 （ビデオ会議）	●社会福祉学部教員 （大松　重宏） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美兵頭七海） ●高知県立大学大学院生 （真鍋正子・橋本侑香里・林あゆ・増田みちる）	14名	事例検討（丁野） 『ソーシャルアクションについて』 ※司会（中山）

6 前期	9月14日(月) 17:30～ 医療センター 1階　医療相談室 （ビデオ会議）	●社会福祉学部教員 （大松　重宏） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・兵頭七海） ●高知県立大学大学院生 （清重真衣子）	10名	事例検討（西原） 『ゆかりのない地に子を置いて SWが事態にのみこまれず本人を受け止めること』 ※司会（竹村）
7 後期	10月19日(月) 17:30～ 医療センター 1階　医療相談室 （ビデオ会議）	●社会福祉学部教員 （大松　重宏） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・兵頭七海）	9名	事例検討（川上） 『拒絶と怒りを表出されたクライエントへの関わりを振り返って』 ※司会（兵頭）
8 後期	11月16日(月) 17:30～ 医療センター 1階　医療相談室 （ビデオ会議）	●社会福祉学部教員 （大松　重宏） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・兵頭七海） ●高知県立大学教員 （渡邊聡子・嶋岡暢希）	9名	事例検討（藤井） 『異文化交流。地域で生活したいと願う親子を支えるための連携』 ※司会（西原）
9 後期	12月　　日(　)		名	中止
10 後期	1月　　日(　)		名	中止
11 後期	2月　日(　)		名	中止
12 後期	3月15日(月) 17:30～ 医療センター 1階　医療相談室 （ビデオ会議）	●社会福祉学部教員 ●地域連携室看護師 ●ソーシャルワーカー ●事務職 ●社会福祉学部学生	名	①本年度の振り返り ②次年度の計画確認 ※司会（藤井）

4．臨床実践能力及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	4月～3月	●社会福祉学部教員 ●ソーシャルワーカー ●事務職	18名	未実施 （MSWキャリアラダーのモデル開発について、県大の教員（大松）の指導のもと進めていたが、対面協議ができず、12月より医療センター独自での実施となる。）
2				

5．県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

6．その他看護・社会福祉連携活動の実施

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

災害対策プロジェクト

辻　真 美

○本年度のとり組み

全学の災害対策プロジェクト担当として辻、学部委員会としては雑賀正彦助教、長澤紀美子教授が参加した。主な取り組みは以下の通りであった。

１．高知医療センターとの合同災害訓練

（１）災害対策プロジェクトの会議及び合同災害訓練打合せ会の開催・参加

合同災害訓練の計画・検討を令和２年６月より、月２回のペースで行った。あわせて、看護学部木下准教授による複合災害や感染対策について勉強会の開催､DNGL の大学院生の助言も受けた。また、合同災害訓練の直前期には社会福祉学部、看護学部、健康栄養学部、事務局、DNGL で合同会議を行い、コロナ感染拡大のなかにおいても実施可能な訓練内容の企画案を持ち寄り、それぞれの役割について協議し、そのあり方を検討していった。実施後には、災害プロジェクトメンバーによる反省会を行った。

（２）合同災害訓練の実施

10 月 31 日（土）の 8 時～12 時 30 分に行なわれ、本学部は体育館での避難所運営支援を中心に関わった。新型コロナ感染対策のため、学生の参加及び学外の地域住民の参加はなく時間も短縮して実施されるなか、教員 8 人が参加した。また、イケあいボランティア防災サークルの社会福祉学部生と複合災害時に予想される避難所運営の課題について意見交換を行った。なお、学生においては、同日、安否確認メールの受送信訓練を行い、回答率は 63.0％であった。

（３）令和２年度避難所運営支援の目標

新型コロナ感染拡大のなかにおいても、大規模な自然災害が起こらないという保障はない。命をつなぐ重要な役割を担う避難所運営においては感染拡大防止に向けての安全策を徹底しなければならない。そのなかでも特に、感染リスクが高いと予測される受付対応においては、互いに意識を高めながら、真摯な取り組みを目指さねばならない。

よって、訓練の目的は、１．「感染症対策を踏まえた避難所運営（特に受付の場面に焦点を当てる）」とし、参加者においては、２．「感染症にかからない避難行動が取れること」とする。また、救護所への送致ほどではないが、３．「感染の疑いのある人への対応とその送致までの動線を検討する」ことも運営支援上、高確率で起こることが想定でき、リスクマネジメントの観点から目的に加えることにした。具体的な訓練内容としては、１）感染予防対策を講じた、避難者の受け入れ（受付までの動線と受付対応）、２）感染予防対策を講じた、避難者の一般避難者エリアへの誘導及びエリアでのアセスメント（感染の疑いのある避難者への対応）、３）感染の疑いがある避難者を専用エリアへの送致と、その動線、４）本部との連携と情報共有、である。

（４）評価

訓練内容を見直す参考にするため、訓練後、参加教員にメールにて意見や改善点を伺った。得られた意見等の主な内容は以下のとおりである。１）受付周囲の密を徹底して防ぐ：受付担当の

役割が多いと停滞してしまうため、受付までに出来ることは何かを再検討する。例えば、非接触型体温計での測定を受付までに済ませておくことが考えられる。他にも、酸素飽和度は健康相談に移動した人のみを対象に測定する。体表温度を瞬時に示すサーモグラフィカメラ等の機器の導入もよいと考える。２）感染症を疑う人への対応：「喉が痛い」「鼻水が出る」などの症状がある人が一般非難所に入ってよいかを再検討する。３）健康相談から救護所への移動動線の検討：救護所への移動が必要と判断した人を誰が移送するかは検討が必要である。特に感染の疑いのある人の場合、防御が必要である。感染疑いか否かで、移送マニュアルが変わってくることを認識する。４）健康相談の医療機器について：バイタルチェックのため、血圧計を準備しておく必要があった。また、非接触型体温計で体温に高い数値が出た場合の対応に、正確な数値を図るための接触型体温計も用意しておくとよいのではないか。「感染に関する症状あり」から「重症感」について、「重症感ありとなし」のみの判断は、実際難しいと感じる。「重症感の有無」は重要な指標であるが、SP0２の低下のように、より具体的に示すことが必要ではないか。５）避難者のボランティア・コーディネート：「軽症者の人には、避難所のボランティアとして参加して、避難所を助けて下さい！」というポスターを掲示する。避難所にいる全員からボランティア要請を試み、かつ自主的にボランティアができるよう工夫を図る。

（５）当日の様子

体育館入口の避難所受付（２箇所設置）

一般エリアへの誘導

２．社会福祉学部における災害福祉教育

学部専門科目のなかの災害福祉に関する教育内容を学部教員間で共有した（２月教授会にて資料を作成し報告）。

○次年度に向けて

本年度実施されたコロナ感染対策を講じた訓練の結果を踏まえて、参加教員より得られた貴重な意見等をもとに、今後の改善策として積極的に導入していきたい。複合災害を想定したマニュアルの検証を行い、実用的なマニュアルにしたい。加えて、他学部のメンバー間との連携強化を図っていきたいと考える。本学部における災害福祉教育については引き続き、学部専門科目で取り組まれている災害教育の内容について教員間で共通認識を深めていきたい。

総務・予算委員会

西内　章

総務・予算委員会は、委員長を西内が担当し、宮上学部長、西梅准教授、辻講師、田中助教、大熊助教で構成した。本年度に行った業務は、以下のとおりである。いずれも学部事務職員の協力を得て取り組んだ。

１．活動内容

① 「連絡会・教授会」の資料準備及び運営

・ 開催計画、議題および資料等の整理、議事メモの作成等を行った（計27回）。

② 学部棟・看護福祉棟等施設・備品の整備

・ 例年同様、社会福祉学部棟３階４階に設置してあるコピー機及び印刷機について、各教員のコピー代充当分として年度当初に一定額を確保し、使用枚数分の予算確保・調整を行った。

・ 福祉実習支援室にアクリル板や手指消毒剤を設置し、コロナウイルス感染症の対策を行った。

・ 福祉実習支援室に設置してある印刷機が契約期限を迎えたため、新しい印刷機を購入した。

・ 4階資料準備室のコピー機が詰まりやすく、故障が頻発していたため，学内で使用していた別のコピーと交換した。

・ 学部関連設備では、E203教室（グループワーク室）、E401会議室、F110教室、F207教室の蛍光灯スイッチを改修し、プロジェクター使用時の利便性を向上させた。またF207教室の床面を貼り直した。

③ 学部日常事務の対応

・ 寄贈資料･郵便物の整理、回覧などの仕事に対応した。

④ 『令和元年度社会福祉学部報』発行

・ 令和元（2019）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料）の冊子媒体100部を作成し、関係各所に配布した。

⑤ 学生教育用図書・資料等の充実

・ 学部･大学院の学生教育用予算等を活用して、図書館を通じて定期購読している研究雑誌の拡充及び研究図書の充実を図った。

・ 国家試験対策用図書や社会福祉に関する基礎文献等学生の教育に資する図書･DVDを選び、福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等の充実を継続的に図った。

・ 福祉情報資料室に配置している卒業研究論文検索用のパソコンについて情報処理委員に依頼して利便性を検討した。

２．今後の課題

本年度は、新型コロナウイルスへの感染対策の品目を検討しなければならなかった。また、新型コロナウイルス感染症の影響で年度当初に計画した学部行事や授業が対面形式で実施できず、Zoom等を活用した形式に変更した。このように開催形式を変更した場合の対応などは予算品目を修正する必要があるため、総務・予算委員会として予算の執行状況を常に確認して適切な執行に努めなければならない。

また、事務局へ提出する書類の様式や手続きが改定されていることもあるため、今後も丁寧な学部運営の補助及び設備・備品管理と、学部の重点事項への適正な予算配分について、事務局に協力を得ながら実施していきたい。

国試対策支援委員会

西 梅　幸 治

○本年度の取り組み

本年度の国試対策支援委員会は、委員長を西梅が担当し、加藤講師、稲垣助教、片岡助教、雑賀助教、田中助教、玉利助教、福田助教で構成した。

（１）４回生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②受験対策スケジュールの確認、③模擬試験の実施、④国試対策講座開催への支援、⑤ソ教連などからの受験情報の周知、⑥国試対策勉強会実施への支援、⑦個別面談などの取り組みを行った。

月	概要
４月	国家試験に関するガイダンス（4/6）
５月	国試対策週間（過去問5/29-6/23）
６月	国試対策週間（過去問6/24-7/3）
７月	国試対策週間（過去問7/22-7/31）、個別面談 「受験の手引」解説（介護福祉士8/6）
８月～９月	「受験の手引」解説（moodle：社会福祉士・精神保健福祉士8/26）
10月	模擬試験（高知県社会福祉士会10/3） 受験対策直前web講座周知
11月	模擬試験（日本ソーシャルワーク教育学校連盟11/2・11/3） 国試対策講座、個別面談、卒業生による受験体験報告（11/27）
12月	卒業生による受験体験報告（12/21）、模擬試験（中央法規12/22） 国試対策講座、対策講座DVD貸出、個別面談、学内国試対策勉強会（12/21・12/22：中止）
１月	学内国試対策勉強会（1/6・1/7：中止）、個別面談 介護福祉士国家試験（1/31）、自己採点集計
２月	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験（2/6・2/7）、自己採点集計
３月	合格発表（社会福祉士・精神保健福祉士3/15、介護福祉士3/26） 卒業後の手続きに関する説明（3/19） 卒業生による受験体験報告（3/25）

（２）卒業生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②模擬試験などの案内送付、③教科書や参考書などの貸出、④国試対策講座などの情報提供、⑤個別相談の受付などの取り組みを行った。

（３）2020年度の国家試験合格率

１）社会福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
100	59	59.0%	68	53	77.9%	32	6	18.8%

合格順位：全国 23 位（既卒含）、全国 24 位（新卒のみ）／200 校（総数での学校数）
合格基準点：93 点（満点 150 点）
全国平均合格率：29.3%
合格順位：全国 4 位／51 校（受験者 50 名以上・新卒）

２）精神保健福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
17	17	100%	15	15	100%	2	2	100%

合格順位：全国 1 位（既卒含）、全国 1 位（新卒のみ）／92 校（総数での学校数）
合格基準点：94 点（満点 163 点）
全国平均合格率：64.2%

３）介護福祉士の合格率について

総数（新卒）		
受験者数	合格者数	合格率
17	17	100%

合格基準点：75 点（満点 125 点）
全国平均合格率：71.0%

○今 後 の 課 題

今年度は、新型コロナ感染症流行に伴い、大幅に実施内容を変更することとなった。入校制限や教室確保の難しさから、学内模擬試験を実施できず、自宅で過去問を解く機会を「国試週間」として実施した。国試対策勉強会も実施不可となり、学内実施も計画したが、それも中止せざるを得なかった。そのようななか昨年度に引き続き、個別面談を前期・後期とも実施し、必要に応じて定期的に相談・助言を行った。成果としては、社会福祉士は、70名定員となってから歴代３位の合格率になったことである。また精神保健福祉士と介護福祉士の合格率は100%であり、好成績となった。課題としては、学生との手続き面での連絡調整がうまくいなかいことがあり、その体制づくりを検討していきたい。

Ⅳ

学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士
国家試験に向けての取り組み

国試対策講座について

本年度の国試対策講座では、苦手に感じて勉強しにくいもの、対策講座を開講してほしい科目について学生にアンケートを実施し、要望の多かった９科目を先生方に講義をしていただきました。これまでの出題傾向を基に、統計データや新制度、法律、歴史など、テキストのみでは把握することが難しい部分を中心に講義していただきました。また、国家試験に向けての勉強法や、頻出問題に絞った解説など、より国家試験に焦点を当てた対策もしていただきました。加えて、分かりやすくまとめられた資料は普段の勉強の一助となり、理解を深めることができたと感じました。講義後も、質問に対応してくださり、曖昧になっている点を払拭することができました。

本年度はコロナの影響を受け、後半の講座はオンラインのみの講座となりました。しかし、先生方のわかりやすい資料と音声を用意していただけたことで、対面講座の勉強と同様に学習することができたと感じました。

国試対策について

本年度は新型コロナウイルスの流行により、例年行われていた国試対策合宿が開催できなかったり、ゼミ室での自習についても人数制限があったりと、思ったように勉強を進めて行くことが困難でした。また国家試験当日についても、コロナウイルスに罹ると受験できないという不安も多く、今年は主に自宅で勉強していた学生が多かったのではないかと思います。特に自宅で勉強する際には、生活習慣が乱れないように気を付けて、実際の試験時間に合わせて朝型の生活を常に心がけることが大切です。早くから身体を慣れさせておくことで当日最大の力が発揮できると思います。また自宅にはスマートフォンやテレビなどの誘惑も多いですが、自分の誘惑となるものを隠したり、前日に次の日の計画を細かく書き出し事後評価を行ったりすることで計画的に勉強を進められました。

そして自分なりの学習方法を早めに確立することが必要だと思います。早いうちから国家試験の勉強に取り組んで行くことで、自分に合った学習方法を早く見出すことができます。何もかも早めに行動することに越したことはないです。時には仲間との情報共有により自分の学習方法で大丈夫かと焦ることがあるかとは思いますが、一人ひとり方法やペースは異なるということを忘れず、自分に合ったやり方で最後まで進めてください。また勉強することも大切ですが、体調管理も国家試験の対策として必要なものの１つだと思います。

後輩のみなさんへ

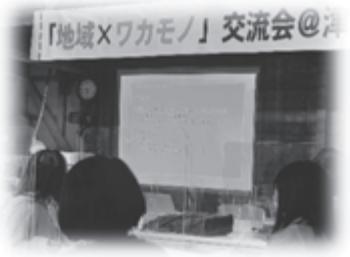
４回生は国家試験だけではなく、就活・卒論また実習などたくさんの壁が立ち並んでいます。しかし、時間は限られています。限られた時間の中ですべてに向かい合っていくには自分の１年間の計画を立て、早いうちから行動に移していくことが大切です。なにから始めたらよいのか、どのように進めていけばよいのか分からない場合には、先生方や先輩、頼れる仲間に相談してみるべきだと思います。４回生は次々と進めなければならないことあり、あっという間に１年が過ぎていきます。大変な４回生ですが、大変な分きっと人生の中で自分が大きく成長できる１年になると思います。仲間と息抜きしながら、後悔しないよう仲間と共に壁に立ち向かってください。応援しています。

P シスターズ

地域活動サークル「P シスターズ」です。私たちは、本学にある「立志社中」というプロジェクトに加入し、県内の幅広い地域で活動を行っている団体です。P シスターズは、地域住民の「主体性」を何よりも大切にしながら、住民の「やりたいこと」の実現を目的として活動しています。昨年度は、安芸市東川地区・津野町船戸地区・三原村・仁淀川町中津川地区の 4 市町村を中心に活動を行いました。

◇安芸市東川地区

地域の伝統文化である「獅子舞踊り」を地域住民の皆さんから直接指導をいただきながら練習を行い、学生が担い手となって伝統を継承しています。



◇津野町船戸地区

昨年度は高知県青年団の協力のもと、３地区間合同のワークショップを行いました。また、昨年はコロナのため中止になってしまいましたが、毎年大学の学園祭で津野町の特産品であるお茶を使ったお菓子を作成し、販売しています。その他にも、地域で行われる様々なイベントに参加しています。

◇三原村

地域を盛り上げていくためにはどうしたらいいかについて昨年、話し合ったことをもとに、今年度からは PR 動画の作成や三原村の子どもたちに向けた料理教室などを企画しています。

◇仁淀川町中津川地区

買い物や病院へ行くための移動の問題の解決のためアンケート調査などに取り組んでいます。また、地区で栽培されているサルナシという果物を使ったゼリーづくりを行っており、今後はサルナシゼリーを中津川地区の特産品にするための取り組みを行っていく予定です。

活動は、楽しいイベントに参加するだけでなく、地域課題解決のためのワークショップを行うこともあります。また、社協の方や地域おこし協力隊の方々とも関わる機会が多いので地域で実際に働いている様子を見ることができ、自分の学びにもなります。

P シスターズは、SNS でも活動の様子を公開しています。ぜひ、ご覧ください。

Instagram　psis.u_kochi　　Twitter：@P29045067

太　鼓　部

太鼓部は現在（2021 年３月）、５名の４回生で構成されています。主な活動内容は、入学式やオープンキャンパス、紅葉祭などの大学での行事をはじめ、障害者支援施設などの福祉施設での行事や地域のお祭りなどにおいて、太鼓を演奏することです。以前は、演奏の練習を、１週間に２日～３日、池キャンパスの体育館でおこなっていました。

昨年は、太鼓部にとって、非常に辛く厳しい１年間でした。昨年１月中旬に、新型コロナウイルスに関連した肺炎の患者の発生が国内で初めて確認された後、高知県内では２月末に、第１例目となる、新型コロナウイルスに感染した患者が確認されました。日本を含めた世界全体が「未知のウイルス」の存在に脅かされ、混沌とした状況に陥っていくなかで、福祉施設での行事や地域のお祭り、大学の入学式などが相次いで中止されることとなり、私たちは、人目のあるところで太鼓を演奏する機会を多く失いました。

しかし、８月に社会福祉学部のなかでおこなわれた、ＷｅｂＥＶＥＮＴ（オンライン上でのオープンキャンパス）に出演させていただき、太鼓部にとっては毎年恒例の演奏である、オープンキャンパスでの太鼓の演奏に、昨年も取り組むことができました。私たちが太鼓を演奏する様子を事前に撮影しておき、撮影した動画を参加者に観ていただくというかたちでの出演となりましたが、「自分たちの演奏を他者に聴いていただく」ことができたことは、私たちにとって貴重なことであり、純粋に嬉しかったです。動画の撮影に向けて練習を重ねるなかで、部員同士で力を合わせて太鼓を演奏し、太鼓部としての１つのパフォーマンスをつくり上げていくことの楽しさを、改めて実感することもできました。また、昨年は新型コロナウイルス感染症への感染の拡大のみでなく、７月には、「令和２年７月豪雨」と呼ばれる大雨が発生しましたが、自分たちの太鼓の演奏が、少しでも多くの参加者にとっての励みとなることを願うとともに、このような時世だからこそ、多くの方々に感動や笑顔、希望をお届けすることができるような太鼓の演奏を、継続しておこなっていけたらと感じました。

現在もなお、私たちは、人目のあるところで太鼓を演奏する機会を失った（太鼓の演奏のご依頼が来ない）状況に置かれています。さらには、私たち５名は、今後それぞれに、卒業論文の執筆や就職活動、国家試験に向けた勉強などに、本格的に取り組んでいかなければなりません。しかし、このまま、この太鼓部が持つ長い伝統を途絶えさせる訳にはいきません。「高知県立大学太鼓部」による太鼓の演奏がこれからも響いていくための、そして、伝統が後世に受け継がれていくための方法を具体的に考え、実行していきたいと考えています。

池 手 話 サ ー ク ル

私たち、池手話サークルは週１回、社会福祉学部棟の一室を使用し、活動を行ってきました。普段の活動内容は、指文字の練習をしたり、日常で使えそうな会話文や簡単な単語を覚えたり、発表会に向けた手話コーラスの練習をしています。主に昼休みに活動しているため、お昼ご飯を食べながら楽しく練習をしています。また、高知県聴覚障害者協会青年部（以下、手話青年部）の方と交流をしながら、楽しく手話を学んでいます。

手話コーラスを披露するのは、３月に行われる耳の日記念集会です。しかし、昨年度の耳の日記念集会も一昨年度と同様に、残念ながら新型コロナウイルス感染症流行の影響で中止となりました。また手話青年部の方との交流も中止となったことに加え、感染予防のため例年通りの対面で昼食を食べながらの活動が難しくなりました。そのため昨年度の活動はビデオ通話を用いて、手話での自己紹介や指文字、簡単なあいさつの練習を雑談も交えながら楽しく行いました。そして、一昨年度の耳の日記念集会で披露予定だった「にじいろ」を手話コーラスの体験として行いました。

昨年度は新型コロナの影響で活動が制限され、手話コーラスへの参加や手話青年部の方との交流会も行えず、本来の活動は行えませんでした。しかしこのような状況のなかで自分たちにできることは何かを考え、少しでも手話の楽しさを知ってほしいと思い活動を行いました。これから新型コロナの感染状況は変化していくと思われますが、状況に合わせて自分たちにできることを行いたいと思います。そして、手話青年部の方との交流会も状況を見て再び行いたいと思っています。同時に、サークル規模の拡大もできればと考えています。また、手話で簡単な挨拶などのコミュニケーションが取れるようになることを１つの目標としたいと思います。

手話サークルは、社会福祉学部の学生を中心に活動していますが、他学部も大歓迎です。様々な場所で手話を披露していくことで、手話に興味を抱く学生が増えていくよう、精一杯頑張っていきますので、今後の活動を温かく見守って頂きたいと思います。よろしくお願いします。

イ　ケ　あ　い

2012 年より活動を開始した、イケあい地域災害学生ボランティアセンター(以下:イケあい)は東日本大震災の復興ボランティアに参加した学生らによって作られた防災サークルです。

団体の活動目的は、災害時に大学周辺での被害を最小限にととめ、いち早く復旧させることです。そのために、災害時にスムーズに支援に入れるよう日頃から地域との信頼関係を築くことや、災害ボランティアセンター（以下：災害 VC）で中核となれる人材を育成すること、活動や情報の発信によって地域や大学での防災啓発などを行っています。

イケあいは、様々なイベントや学内での活動を通して目的の達成を目指しています。池キャンパス付近の三里地区では連携しながら活動することも多く、地域のイベントに学生が参加したり、イケあいが主催するイベントに地域の人を招いたりして、信頼関係を築きながら互いに防災知識を高め合っています。三里地区以外にも、小学校から高齢者施設まで幅広い年代の人と触れ合いながら、高知県立大学の全学部の学生が専門知識を活かして活動しています。

また、他大学の防災サークルとも協働しており、大学生の防災意識の向上のために活動や知識の共有を行ったり、イベントを企画・運営に取り組んだりしています。他大学との交流により自分たちも刺激を受け、新たな活動や取り組みに繋がっているように感じます。

2020 年度は、コロナ禍においても自分たちにできることを考え、「ポリ袋を使用した簡易防護服作り」や「医療センターに向けたメッセージ作り」などを行いました。地域に出ることが難しい一年でしたが、これらの活動が新聞などのメディアに取り上げて頂けたことで、イケあいを多くの人に知ってもらうことができたのではないかと考えています。

その他にも、Zoom を使用して県内外の大学生と交流をし、互いの活動紹介や意見交換を行いました。Zoom では東日本大震災で被災を経験した学生からお話を聞くこともでき、とても貴重な経験となりました。医療センターとの合同災害訓練では、学生の当日参加はできなかったものの、準備の段階で、避難住民役のネームプレート作成や、避難時に予想される困難と対応についてシミュレーションを行うことにより、避難所運営訓練に協力し、例年とは少し違った視点で避難所に関する知識を深めることができたのではないかと感じています。

イケあい設立のきっかけにもなった東日本大震災から 10 年が経ちました。「楽しいからはじまる防災を大切に！」をモットーとして掲げるイケあいは、災害から生き抜き、前に進んでいくためには何ができるのかを考えながら、これからも活動を続けていきます。

かんきもん（土佐弁：元気者）

かんきもんは、子どもから高齢者まで障害の有無，住んでいる地域関係なく誰もが暮らしやすいコミュニティ、『地域共生社会』を目指し活動しています。今年度はコロナ禍での活動となりましたが、その中でも自分たちに何ができるのかを考え、活動体制の見直しや地域との繋がりの継続に力を入れました。新型コロナウイルス感染症の影響により今年度の活動は「援農」「シグマ」「タウンモビリティ」の３部門が中心でしたが、６部門全てが活動を再開できるよう取り組んでいきたいと考えています。

◇援農

例年行っている四万十市大宮地域での田植え・稲刈りや、安芸市入河内地域の大根収穫・日曜市での出店は中止となりましたが、安芸市でのゆずとり援農隊ボランティアに参加することができました。学生が地域に出向き活動することで、学生ならではの視点から地域の魅力の再発見や課題解決に取り組んでいきます。

◇シグマ

シグマでは子どもたちの居場所づくりや孤食の防止に協力させていただきたいとの思いから、8月より新たに子ども食堂へのボランティア活動を始めました。子どもと女性の福祉の推進を目指し、DV 防止キャンペーンや焼き芋ランチなど様々なイベントにも参加していきたいと考えています。

◇タウンモビリティ

市内中心商店街の一角を拠点とする移動支援の NPO 法人「ふくねこ」では、障害者や要介護高齢者、赤ちゃん連れの母親などの買い物支援を行っています。新型コロナウイルス感染症が流行し、活動が困難な時期でも zoom を用いて利用者さんと交流を図り、関係性の継続に努めています。

◇YCPK：(Young Crime Prevention in Kochi)

高知東警察署と連絡を取りながら、少年犯罪、防犯に対する意識の向上に取り組んでいます。また、高知県に留まらず香川にて防犯フォーラム、詐欺被害防止キャンペーン、一日署長体験などに参加し学生が積極的に防犯に対する知識を高めています。

◇学習支援

土佐希望の家、土佐市公民館などで学習支援を行っています。土佐市では子どもの居場所づくりの一環として子どもやその保護者が参加できるイベント(夏祭り・クリスマス会)を企画運営するなど、学習以外の面でも交流を図っています。

◇傾聴

講師をお招きし傾聴の目的や方法、効果などを学んだ上で、土佐市ゆうやけ食堂に参加し主に一人暮らし高齢者の方とコミュニケーションを図る活動をしています。

高知県出身の学生も、県外出身の学生も
かんきもんの活動を通し、改めて高知県の魅力や強みを知ってほしいです

Society For Everyone

高知県立大学国際協力サークル Society For Everyone は、国際協力について考える団体です。私たちは、イギリスに本拠地を持つ、Oxfam という NGO 団体の理念に基づいて活動しています。

Oxfam は「貧困のない公正な社会の実現」を目指しており、募金活動や人道支援、チャリティーコンサートなど、様々な活動をしています。しかし、Oxfam の活動は日本ではまだあまり浸透していないほか、日常生活において貧困の現状について情報を得られる機会は少ないです。

そのため SFE では、国際的な現状や課題についての気づきをより多くの人に起こすことを目標に活動しています。貧困を抜け出し、豊かな生活を得るためには、世界中の人が参加する協力体制が必要です。私たちはオックスファム・クラブとして国際的な視点からの課題と向き合うイベントを企画し、食糧問題、貧困問題を体感し、高知というコミュニティから変革を図っています。

昨年度は、新型コロナウイルスの影響で活動が制限されてしまい、例年おこなっている世界の子どもの教育の現状について考える世界一大きな授業や地産地消が貧困解決の参加の一つであるという考えのもと、南国市で育てたサツマイモをつかったサツマイモアイスの学際販売、エイズ蔓延の防止やエイズ患者に対する差別・偏見をなくすことを目的としたエイズデーでのフォトアクションなどの実施ができず、SFE として思うように活動をすることができませんでした。しかし、ZOOM でのミーティングで定期的に交流をとったり、Oxfam で活動されていた方とクラブミーティングという形で国際問題に限らず、ジェンダーや日々の暮らしで見えてくる課題について意見を交わしたりなど、会えない環境下でできる活動に力を入れることができた 1 年だったと振り返ります。

現在部員数は 4 回生 5 名、3 回生 1 名、2 回生 2 名の計 8 名で、高知県立大学両キャンパスのそれぞれで活動しています。

今年度もなかなか対面での活動ができないことが予想されますが、昨年度よりもオンラインなどを活用してより多くのイベントを積極的に開催しようと企画しています。たくさんの人に国際的な現状について考えてもらえる機会を増やしていくため、広報なども積極的に取り組んでいきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症の影響

2020 年 2 月頃より社会活動に影響が出始めた、新型コロナウイルス感染症のため、今年度はさまざまな活動が中止や延期となった。学生間交流を目的とした学内行事はもちろん、学外活動においてもイベントの中止や方法の変更、規模を縮小するなどの工夫をして行われた。特に、高齢者や障害児者は感染症による影響が大きく、福祉施設ではやむを得ず家族の面会禁止や制限などの対応を行っている。

本報告書『高知県立大学社会福祉学部報』に例年掲載している、障害者スポーツ大会や高知ふくし総合フェア、障害児の修学旅行、福祉施設などで行われるボランティア活動、サークル活動などにも影響があった。学生にとって地域や福祉現場で体験する機会が減少している。

これらの背景から、今年度報告ができなかった学生を中心とした活動は、以下である。

・国際交流

・学外イベントへの参加

・ハモ☆イケ

・ボランティア活動

・修学旅行ボランティア

V

卒業論文題目一覧(2020年度)

令和２年度社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

題　目
台湾と日本の若者の同性婚や同性愛に関する意識 －台湾のジェンダー平等教育の経験や意識調査を基に－
韓国と日本における若者の自殺の現状とその背景要因の比較
自己受容・自己覚知の方法に関する一考察 －反省を省察的学習につなげるために－
婦人科がん患者の抱える生活課題
最期までその人らしく生きるための支援とは －ターミナルケアに着目して－
住民の主体性形成に関する一考察－住民と社協職員の相互関係に着目して－
経験学習が能力向上に与える影響 －介護職員を対象とした定量的分析－
小学校の通常学級で発達障害児に関わる教師への福祉的支援の研究　－教師が感じる関わりと学級運営の困難さに着目して－
地域福祉に係る理論とソーシャルワーク実践の関連について －岡村社会福祉論からの考察－
障害児の家族（母親・父親・きょうだい）の障害認識とそれに影響する要因について
社会福祉法人がこれからの人材確保において重視していくことは何か －ホームページにおけるアピールポイントの分析－
日本と韓国の不登校児童・生徒の自己肯定感の回復につながる支援 －不登校特例校と代案学校に着目して－
児童福祉司による施設入所措置決定における支援方法 －子どもへの伝え方に焦点をあてて－
問題視される認知症高齢者の取り繕い反応についての研究
女性アルコール依存症者の家族システムとソーシャルサポートの変化について
刑事司法領域における社会福祉士の役割 －触法障害者の社会復帰に向けた取り組みからの考察－
職務満足と組織的公正が組織市民行動に及ぼす影響 －介護職員を対象とした定量的分析－
ソーシャルワークにおける自己実現に関する一考察 －就労支援のプロセスに着眼して－
ヤングケアラーに対するピアサポートの意義 －イギリスにおける取組みに着目して－
障害児のきょうだいが抱える想いと感情の変化に関する一考察 －きょうだいの幼児期から青年期の経験に着目して－
幸福のありかと人間存在
がんと闘う妻を持つ夫への支援 －MSWに求められる役割に着目して－
高齢者デイサービスにおける職員の生活への視点 －独居暮らしの認知症高齢者に焦点を当てて－
過疎地域における地域連携の意義に関する研究 －在宅生活を支える医療・介護の取り組みに焦点化して－
愛着障害の理解に必要な視点 －「育てにくさ」に着目して－
医療的ケア児とその家族の関係性 －母親役割に着目して－
大学における発達障害学生に対する就労支援 －障害特性の理解と継続した就労を目指した支援体制の構築について－
独居高齢者の地域コミュニティへの参加促進に向けた社会福祉協議会による支援の意義と課題　－阻害要因・促進要因の分析から－
累犯障害者の入口支援と出口支援がもたらすソーシャルサポートに関する研究
意思表出に困難がある介護保険施設入居者の介護職員とのコミュニケーションについての一考察 －失語症のある人に焦点をあてて－
重症心身障害のある子をもつ母親の悩みに基づく支援について －二つの養育観に着目して－
妊産婦の妊娠期から産褥期までの心理的変化とソーシャルサポート
高齢者の食料品アクセス問題 －介護予防の観点から－
児童期の子ども同士の人間関係形成における遊びを活かしたグループワークの意義

知的障害者が役割を得ることで変わる意識と行動について
高齢者施設が利用者にとって「生活の場」に移り変わるまでの過程
児童売春の支援に関する一考察 ーそれに至る要因と予防的支援の検討ー
いじめ行為が生じる学級の環境要素について
一時保護所における被虐待児への支援 ー子どもの情緒と行動への対応に着目してー
大学生の抑うつ要因と時間的展望　ーソーシャルワーク的視座からの一考察ー
スウェーデンと日本における共生社会実現に向けたインクルーシブ教育の実践 ー障害のない子どもから障害のある子どもへのまなざしの形成・変容に焦点を当ててー
ひとり親家庭の抱える問題と支援に関する一考察 ー母子家庭と父子家庭を比較してー
セブ島のストリートチルドレンへのNPOによる支援 ー貧困児童の心理状態の変化に注目してー
主観年齢を認知症ケアに活かすための一考察
こども食堂と地域活性化に関する一考察 ー地域活性化の場になるためにはー
人的資源管理と組織コミットメントが離職意向に及ぼす影響 -介護職員を対象とした定量的分析-
重症心身障害児(者)とのコミュニケーションの形成に関する一考察 ー現場で用いられる「選択」による支援に着目してー
ひきこもり当事者に対する就労に向けた支援の効果と課題　ー当事者の視点からみる社会福祉協議会の支援に焦点をあててー
生活保護申請の阻害要因についての分析
血縁関係にない高齢者と若者によるホームシェアに関する一考察
高校におけるスクールソーシャルワーカーの支援に関する研究 ー高校生特有の悩みと相談支援の関係性に着目してー
児童養護施設での家族再統合に向けた支援の方法 ー施設内連携における各専門職の役割に焦点を当ててー
性的マイノリティ当事者の生活ニーズと支援課題 ー教育現場に着目してー
中途障害者の心理的回復過程における障害受容の意味 ー筆者のライフヒストリーからー
性の多様性に対応する大学の環境整備と支援体制に関する一考察
児童自立支援施設と地域における自立支援の課題と取組
施設入居高齢者の食欲増進のための支援
女性のキャリアデザインに対する定位家族からの影響に関する事例分析
知的障害者入所施設に当事者の親が求めてきた機能 ー政策への要望から探るー
今後の一時保護所の在り方に関する一考察 ー環境改善における課題の整理からー
児童養護施設入所初期段階の支援の一考察 ー児童の心情に着目してー
在宅で看取りを行う家族の役割の変化における支援 ーより良いグリーフケアのためにー
地域における男性高齢者の居場所に関する一考察
日本と中国の学校における児童・生徒のネット依存に対する支援 ー予防教育と治療的介入を焦点にー
出生前診断によって陽性判定を受けた妊婦に対する福祉的サポート　4人の体験談による妊婦の状況・心情の分析から
小児がん患児の親の精神的負担 ーよりよいソーシャルワーク支援と課題ー
職務特性が職務満足および職場定着に与える影響 ー特例子会社の障害者を対象とした定量的分析ー
代理意思決定を行う家族への支援 ーソーシャルワークの視点からー
支援の必要性を自覚していない要支援者に対する支援の研究

編 集 後 記

社会福祉学部報第23号をお届けします。

本学部報は、令和２年度における社会福祉学部の活動や所属教員の教育研究活動、各種委員会や学生による活動の実績などをまとめたものです。ぜひご一読いただければ幸いです。

令和２年度は、新型コロナウイルスの感染拡大のため、当初計画していた入学式や卒業式等の大学行事が中止あるいは縮小することになりました。講義や演習等の大学授業も遠隔授業で実施したり、実習も実習先の皆様と相談しながら実施可能な方法を採用せざるを得ませんでした。学生のサークル活動やボランティア活動等の課外活動もほとんどできませんでした。このような予測できない厳しい状況下において、社会福祉学部は学部長を中心に各教員、学生ができることを具体的に相談・検討し取り組んだ一年でした。

ここで４回生の国家試験についてご報告いたします。社会福祉士の合格率は77.9％（新卒のみ）でした。これは70名定員となってから歴代３位の合格率でした。また精神保健福祉士の合格率は100.0％（新卒・既卒とも）であり、介護福祉士の合格率も100％という輝かしい成果でした。国試合宿ができなかったり、受験対策講座も制限されていましたので大変だったと思います。１・２・３回生は、コロナ禍の中で家族や友達とも会えないだけでなく、慣れない遠隔授業が多く戸惑ったことと思います。次年度もコロナウイルス感染症の影響は続くことが予想されますので、今後も学部として教育上の課題を検討していきたいと思います。

社会福祉学部は、学部創設以来、福祉の現代的課題を見据え、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教育・研究している学部です。社会福祉学部のディプロマポリシーやカリキュラムポリシー、アドミンションポリシーにあるように三福祉士の専門職養成だけでなく、変化する社会状況下でも思考・行動できるような教育を目指しています。

今後とも、社会福祉学部の教育にご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

社会福祉学部総務委員会　西内　章

高知県立大学社会福祉学部報

第２３号

発行日：2021年6月1日

発行者：宮上 多加子（学部長）

編 集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515　高知県高知市池2751-1

Tel　088-847-8700（大学代表）

Tel　088-847-8757（学部代表）

Fax　088-847-8672（学部専用）